

Wnn8 ユーザーズガイド



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-7844-10
2006年11月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、JumpStart、Solaris Flash、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn8 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2006. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2006 All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものへの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

目次

はじめに	9
1 Wnn8 の概要	13
Wnn8 の特長	13
[特長 1] より幅広いシステム環境への適応	13
[特長 2] さらに進化した楽々入力 (入力予測)	14
[特長 3] 文章作成を支援するさまざまな機能	15
[特長 4] 業界最高水準の高い変換効率	16
[特長 5] 最適なシステム環境の構築	16
Wnn8 のシステム構成	18
クライアント / サーバー方式	18
各ソフトウェアの役割	19
2 初期設定	21
Wnn8 の初期設定	21
3 基本操作	23
日本語入力の基本操作	23
wnn8le	23
かな漢字変換を行う	25
変換したい文節の伸縮	26
変換の訂正	27
ひらがな、カタカナ、英数字への変換	28
記号の入力	31
入力変換モードの切り替え	32
楽々入力機能	34
つながり予測とは?	34
リアルタイム予測とユーザー指定予測	34

楽々入力の操作方法	35
入力予測機能の制限事項	37
単語登録 (wnn8le)	38
単語登録 (wnn8le) の起動方法	38
単語登録 (wnn8le) の画面	38
オンラインヘルプ	39
4 応用操作	41
特殊な変換機能	41
連想変換	41
逆引き変換	42
郵便番号変換、電話番号変換	43
部首入力	45
部首入力機能	45
部首入力ウィンドウの起動方法	45
部首入力ウィンドウの各部名称と役割	46
部首一覧ウィンドウ	49
コード入力	52
文字コードセットを使った入力	52
入力手順	54
文字一覧表を使った入力	56
コード一覧入力	57
コード一覧	57
コード一覧の起動方法	57
コード一覧の各部名称と役割	58
入力手順	60
JISX0213 文字の入力	61
対応辞書	61
辞書の追加	61
5 単語の登録と編集	63
辞書編集ツール	63
辞書編集ツールの起動と概要	63
単語登録	64
単語削除	67
予測登録	73

辞書保存 / 復元	74
辞書マージ	76
辞書コンバータ	77
6 環境設定	83
ユーザー環境設定	83
ユーザー環境設定ツールの起動方法	83
ユーザー環境設定ツールの各部名称と役割	84
システム環境設定	114
システム環境設定ツールの起動方法	115
システム環境設定ツールの各部名称と役割	115
サーバー環境設定	119
サーバー環境設定ツールの起動方法	119
サーバー環境設定ツールの各部名称と役割	119
7 ライセンス管理	129
ライセンス管理の概要	129
ライセンスサーバーによるライセンス管理	129
実行コマンド	131
ライセンスサーバーコマンド (dpkeyserv)	131
サーバー管理コマンド (dpkeystat)	132
設定ファイル	134
ソフトウェア許諾リスト (dpkeylist)	134
アクセス制御リスト (dpkeyallow)	136
サーバーアクセスリスト (dpkeyservlist)	137
8 困ったときは?	139
解決方法	139
付録	139
よくある質問	139
A 実行コマンド	141
wnnstat	141
ファイルパス:	141
起動オプション:	141

wnnenvutil	144
ファイルパス:	144
起動オプション:	144
wnndictutil	144
ファイルパス:	144
起動オプション:	144
wnndtoa	145
ファイルパス:	145
起動オプション:	145
wnnatod	146
ファイルパス:	146
起動オプション:	146
jserver	147
ファイルパス:	148
起動オプション:	148
syslog 出力:	149
wnnaccess	150
ファイルパス:	150
出力情報:	150
起動オプション	150
wnnsysenv_server	151
ファイルパス:	152
起動オプション:	152
wnnsysenv_client	152
ファイルパス:	152
起動オプション:	152
B 設定ファイル	153
wnnenvrc	153
参照順位:	153
書式:	153
エントリ一覧:	154
記述例:	160
wnnlerc	162
参照順位:	162
書式:	162

エン트리一覧:	163
記述例:	163
unmrc	164
参照順位:	164
書式:	164
エン트리一覧:	164
記述例:	166
unmkey	166
参照順位:	166
書式:	167
機能エン트리一覧:	167
記述例:	173
ximrc	173
参照順位:	173
書式:	173
エン트리一覧:	174
記述例:	174
2A_CTRL	174
ファイルパス:	175
書式:	175
cvt_xim_tbl	175
ファイルパス:	175
書式:	175
jserverrc	176
参照順位:	176
書式:	176
エン트리一覧:	176
記述例:	178
wnnhosts	179
参照順位:	179
書式:	179
記述例:	180
C テキスト辞書フォーマット	181
単語の一括登録で使用する Wnn8 テキスト形式辞書	181
書式:	181

記述例:	182
D キーバインド一覧	183
各キースタイルにおけるキーバインド	183
動作モード:	183
Wnn	184
ATOK 風	192
MS-IME 風	200
Egg 風	208
E ローマ字定義一覧	217
Wnn	217
JIS 規格風	220
ATOK 風	223
MS-IME 風	225
EGG 風	228
F 部首一覧	231
G シンボル(記号)一覧	245

はじめに

本書では、Wnn8 の基本的な操作方法や設定方法について解説しています。

対象読者

このマニュアルは、日本語入力方式 Wnn8 を使用する方を対象としています。

内容の紹介

第1章

この章では日本語入力システム Wnn8 for Solaris の概要と特長を解説します。

第2章

この章では Wnn8 をご利用頂くための基本的な初期設定内容について解説します。

第3章

この章では日本語入力の基本的な操作について説明します。また、楽々入力機能、単語登録についても説明します。

第4章

この章では Wnn8 のさまざまな変換機能、入力方法について説明します。

第5章

この章では辞書編集ツールについて説明します。

第6章

この章ではユーザー環境設定ツール、システム環境設定ツールおよびサーバー環境設定ツールについて説明します。

第7章

この章では Wnn8 のライセンス管理の概要と実行コマンドおよび設定ファイルについて説明します。

第8章

この章では問題を解決するための追加情報を記載しています。

付録A

実行コマンドについて説明します。

付録B

設定ファイルについて説明します。

付録C

テキスト形式辞書について説明します。

付録D

キーと割り当てられた機能の対応を一覧にまとめてあります。

付録E

ローマ字とかなの対応を表にまとめてあります。

付録F

部首入力において使用する部首と部首の名称を表にまとめてあります。

付録G

記号とそれを入力する時に使用する読みの対応を一覧にまとめてあります。

関連マニュアル

- 『Solaris 10 ご使用にあたって』
- 『日本語環境ユーザーズガイド』

Sunのオンラインマニュアル

docs.sun.comでは、Sunが提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URLは、<http://docs.sun.com>です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

command y|n [*filename*]

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。



1

Wnn8 の概要

この章では日本語入力システム Wnn8 for Solaris の概要と特長を解説します。

Wnn8 の特長

[特長 1] より幅広いシステム環境への適応

システム環境の多様化に適応するため、文字コードの国際規格への対応やクライアントとの接続環境を刷新しています。

Unicode (UTF-8)

Unicode (UTF-8) 環境に対応しています。

標準が UTF-8 環境である OS 上でも、設定の変更なく使用することができます。

JISX 0213

JISX 0213 に対応しています。

第 3 水準、第 4 水準の文字を使用することが可能です。



注意 - Unicode, JISX0213 を使用される際の注意事項

- 利用するにはシステム環境がそれぞれの文字コードに対応している必要があります。システムが未対応の場合は利用できません。
 - Wnn8 の一部の機能では、使用が制限される場合があります。
-

IIIMF

IIIMFとはInternet Intranet Input Method Frameworkの略であり、OSやX Window Systemに依存しない国際化対応されたInput Methodフレームワークです。従来のWnnではXIMを使用していましたが、IIIMFに対応することにより、接続状況の更なる向上をはかりました。

GTK+2

全てのユーザインタフェースをGTK+2で再構築することにより、最新のグラフィック環境に対応しています。

[特長2]さらに進化した楽々入力(入力予測)

楽々入力とは、キー入力を行なった際、過去に確定した語句を先読み予測して表示する機能です。Wnn8では新たに「つながり予測」に対応し、よりの確で柔軟な入力予測機能を提供します。

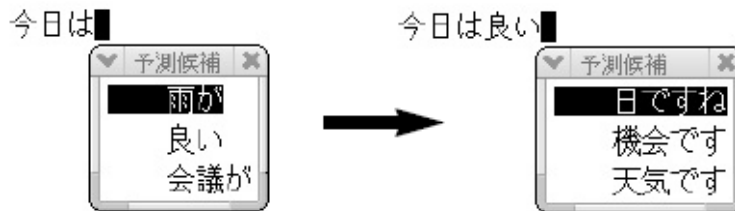
たとえば「今日は良い天気です」と変換し、確定します。確定実行時に、その語句を文節単位で「楽々入力」が学習します。

今日は | 良い | 天気です

次に「き」とキー入力した際、入力予測候補ウィンドウに学習した文節が予測候補として表示され、それを選択するだけで入力ができます。



過去にその文節の後に続けて確定している語句があれば、「つながり予測」が行われ、順に予測候補として表示されていきます。



このように「つながり予測」によって最低限の予測候補の選択で文章の作成が可能となり、また途中で文章の内容を変更していく事も可能です。

楽々入力機能に関する詳細は、第3章の「[楽々入力機能](#)」を参照してください。

[特長3] 文章作成を支援するさまざまな機能

同義語や類義語に変換できる「連想変換」、漢字の語句を読みに変換する「逆引き変換」、入力ミスを補正する「入力補正」、「日本語校正」といった機能が、よりスムーズな文章作成を可能にします。

連想変換

変換元の単語を、同じ意味を持つ語句に変換する機能です。単語が思い出せなかったり、より適切な表現を使いたい場合に役立ちます。

「性質」→【特質、性状、陰性、属性、通性、特性、物性、変性、陽性...】など

連想変換の詳細は、第4章の「[応用操作](#)」を参照してください。

逆引き変換

読み方がわからない語句があった場合、逆引き変換機能で漢字を読みに変換することができます。

「留辺蘂」→【るべしべ】など

逆引き変換の詳細は、第4章の「[応用操作](#)」を参照してください。

日本語校正

当て字の変換	【あいにく → 生憎】
--------	-------------

誤った読み	【いっちょういちゆう→一朝一夕】 ※正しくは「いっちょういっせき」
-------	--------------------------------------

[特長 4] 業界最高水準の高い変換効率

複数の文節解析アルゴリズムを組み合わせ、さらにFI(Flexible Intelligence)変換やFI学習などさまざまな機能を搭載することで、業界最高水準の変換効率を実現しています。

文節区切り処理

より正確に文節を区切るために、「N文節文節長最長一致法」-「N文節文節数最小法」-「N文節評価値最大法」という多段式判定法を採用しています。

同音異義語処理 (FI変換)

すべての文節に対して、主格、目的格、所有格、修飾格などの「格情報」の解析を行い、文章全体から最適な同音異義語の候補を判断します。また「FI関係辞書」を装備し、それぞれの文節間の接続頻度の高い候補を優先的に判断します。

確定後学習処理 (FI学習)

変換を確定した際の高い学習効果を実現します。

確定した文から有効な格係り受け情報を抽出し、ユーザー辞書にその関係を登録していきます。ユーザーが変換/確定した情報が、高い確率で次回の変換に活かされます。

豊富な辞書内容

約30万語を収録した基本辞書に加えて、各分野/ジャンル別に分類した約22万語のオプション辞書を搭載しています。

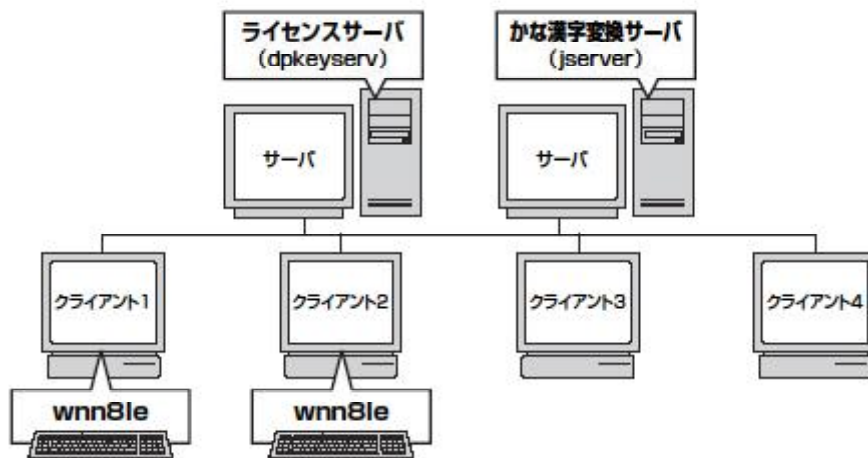
- ・人名辞書 ・駅名辞書 ・地名辞書 ・住所辞書 ・企業名辞書
- ・空港名辞書 ・大学名辞書 ・水族館辞書 ・動物園辞書 ・植物園辞書
- ・コンビニ辞書・アミューズメント辞書 ・コンピュータ辞書
- ・メールに便利な拡張辞書・趣味あれこれ辞書 ・スポーツおまかせ辞書
- ・こだわりの飲食辞書 ・常識！有名スポット辞書
- ・有名人ジャンルベスト辞書 ・実用ビジネス辞書

[特長 5] 最適なシステム環境の構築

ネットワーク環境に適したクライアント/サーバー方式の採用や、用途やお好みにあわせたシステム環境の柔軟なカスタマイズが可能です。

クライアント/サーバー方式

Wnn8は「ライセンス管理」、「漢字変換」、「入力インタフェース」といった各システムが独立したソフトウェアで構築されており、それぞれ個別に運用することが可能です。たとえば負荷のかかりやすい変換処理などを、より高速なマシンに集中することでネットワーク上のシステム全体の効率化をはかれます。



豊富なカスタマイズ機能

ユーザーの好みにあわせて、キーバインドやローマ字入力のスタイルを選択できます。またそれらの個別カスタマイズや、入力や変換動作に関する設定も可能です。他の日本語入力システムの操作になれたユーザーでも、短期間でWnn8の機能を活用できるようになります。

選択可能なキースタイル Wnn(標準)、ATOK風、MS-IME風、EGG風

選択可能なローマ字スタイル Wnn(標準)、JIS規格風、MS-IME風、ATOK風、EGG風

辞書コンバータ

他社製入力システムのユーザー辞書をWnn8形式に変換することができます。他の入力システムを使用していたユーザーも、過去の資源を有効に活用できます。

対応辞書 ATOK13/14、MS-IME 97/2000、JIS規格

Wnn8 のシステム構成

ここでは Wnn8 のシステム構成について解説します。

Wnn8 は用途別にソフトウェアが分割されており、必要に応じた構成を選択することができます。

クライアント/サーバー方式

Wnn8 はクライアント/サーバー方式に対応した日本語入力システムです。

単独のシステム上で使用するだけでなく、ネットワーク接続された複数のシステム環境下でも高い性能を発揮することを前提に開発されています。

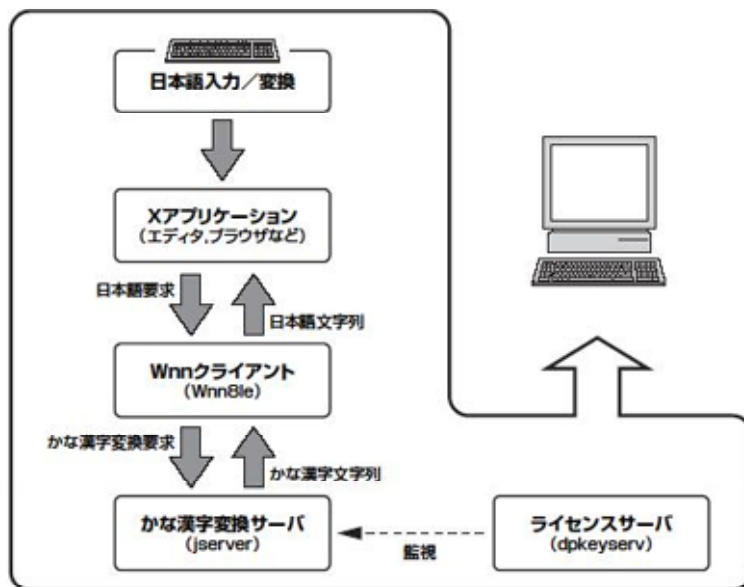
Wnn8 は大きく分けて、3 種類のソフトウェアで構成されています。

- ライセンスサーバ (dpkeyserv)
- かな漢字変換サーバ (jserver)
- 各クライアント (wnn8le など)

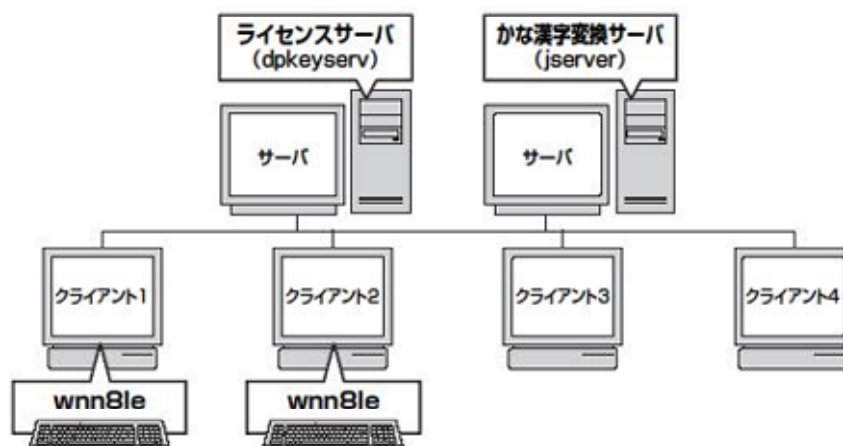
全てのソフトウェアを 1 台のマシンにインストールして使用することも可能ですが、ネットワーク接続された複数のマシンにそれぞれのソフトウェアを個別にインストールして使用することも可能です。

たとえば処理能力の高いマシンに「かな漢字変換サーバ」や「ライセンスサーバ」をインストールしておけば、他のマシンにはクライアントソフトウェアのみをインストールするだけで、日本語入力が可能になります。

1 台のマシンですべてのソフトウェアを運用



各ソフトウェアを異なるマシンで運用



各ソフトウェアの役割

ここでは、Wnn8の各ソフトウェアの役割を解説します。

1. ライセンスサーバ (dpkeyserv)

同時に使用できるクライアントのライセンス数やパスワードなどを管理します。

ネットワーク上の複数のライセンスサーバ同士を連携させることも可能です。

ライセンスサーバに関する詳細は、第7章の「[ライセンス管理](#)」を参照してください。

2. かな漢字変換サーバ (jserver)

かな漢字変換を行うソフトウェアです。

クライアント上で入力された文字に対して、変換結果を提供します。

3. クライアント(wnn8le など)

日本語入力を行うソフトウェアや、各種設定を行うユーティリティツールがあります。

【主なクライアント】

wnn8le	wnndictutil 日本語入力を行うクライアントです。 X Window System 上での日本語入力が可能になります。
wnnenvutil	ユーザー環境設定ツールです。 ユーザーの Wnn8 環境をカスタマイズする際に利用します。
wnndictutil	ユーザー辞書編集ツールです。 単語の登録や編集などを行います。

初期設定

この章では Wnn8 をご利用頂くための基本的な初期設定内容について解説します。

Wnn8 の初期設定

Wnn8 を使用するにはシステムで jserver ならびに dpkeyserv サーバーが起動されている必要があります。これらのサーバーはデフォルトでは起動されていません。SMF の機能を使用して以下の方法で起動できます。

```
# svcadm enable wnn8/server
```

さらに各ユーザごとに入力方式設定エディタ (iim-properties) により日本語入力システムとして Wnn8 を選ぶ必要があります。入力方式設定エディタによる設定方法に関しては『日本語環境ユーザズガイド』の第 4 章「日本語入力方式」を参照してください。

◆ ◆ ◆ 第 3 章

基本操作

この章では日本語入力の基本的な操作について説明します。また、楽々入力機能、単語登録についても説明します。

日本語入力の基本操作

wnn8leによる日本語入力の基本的な操作方法を解説します。

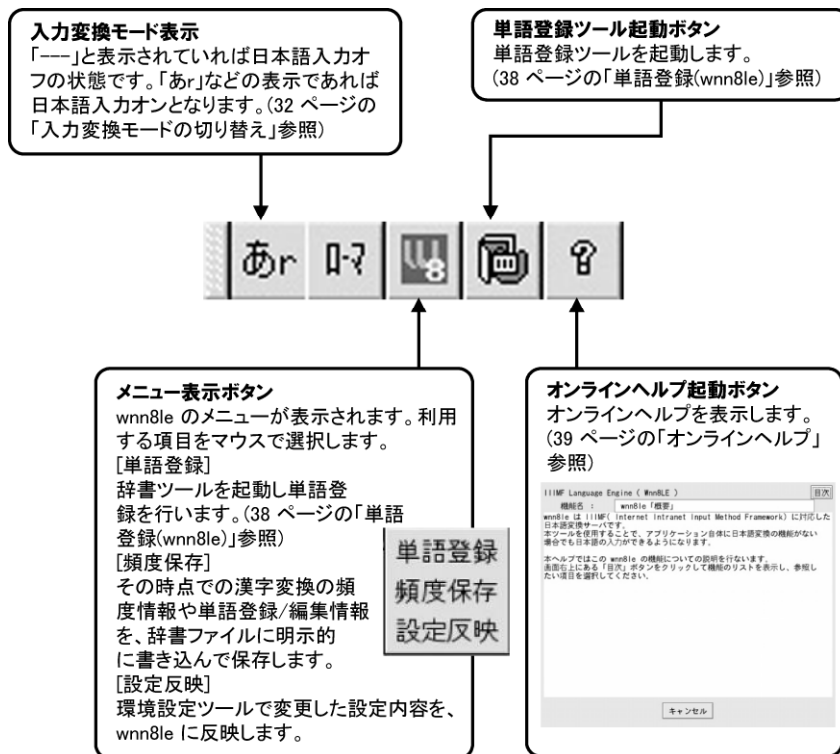
wnn8le

Wnn8では「wnn8le」を利用して日本語入力を行います。

wnn8leは、IIIMF (Internet/Intranet Input Method Framework) に対応した入力システムです。

ツールパレット

wnn8leで日本語入力オンの状態にすると、画面上に wnn8le ツールパレットが表示されます。



注意 - 直接かな入力をご利用の場合

直接かな入力において wnn8le の仕様により、「ー」(長音)の入力は Shift + ¥ で行うようになっています。また、「々」の入力はサポートしておりません。

wnn8le の環境設定

wnn8le の環境設定は wnnlerc ファイルで行います。

wnnlrc は以下の優先順で参照されますので、必要に応じて作成してください。

1. \$HOME/.Wnn8/wnnlrc (ユーザー設定)
2. /etc/wnn/ja_JP/wnnlrc (システム設定)
3. /usr/lib/wnn/ja_JP/wnnlrc (初期設定)

以下のエントリが設定可能です。

set_jserver サーバーホスト名

接続する jserver が稼動するホスト名を指定します。

初期値は "localhost" です。

set_geometry [+] X 座標 [+] Y 座標

ツールパレットの表示位置を指定します。

指定方法は X Window System でのポジション指定に準拠します。

henkanon_map TRUE/FALSE

ツールパレットの表示方式を指定します。初期値は "TRUE" です。

TRUE ... 入力オンの状態でのみ表示します

FALSE ... 常に表示します

かな漢字変換を行う

まずは日本語入力とかな漢字変換を行ってみましょう。

※ 本書では「ATOK 風 キースタイル」に基づいて解説します。

1. アプリケーションを起動する

日本語入力処理を行いたいアプリケーション (ターミナルエミュレータなど) を起動します。

2. 日本語入力モードをオンにする

日本語 on-off キー、半角/全角 キー、または Ctrl + Space を入力して、左端が「あr」の状態ツールパレットが表示されたら、日本語入力モードの状態です。



3. ひらがなを入力する

ローマ字入力または、直接かな入力でひらがなを入力します。

かんじにへんかん

4. 漢字に変換する

Space または Shift + Space を入力し、かな漢字変換を実行します。反転表示されている文節が現在の変換対象です。

入力したい語句に変換されていた場合は、Enter または Ctrl + M で確定します。

漢字に変換

5. 別の候補を参照する

さらに Space または Shift + Space を入力すると、候補一覧が表示されます。

The diagram illustrates the process of switching between candidate lists. On the left, a list titled '漢字に変換' (Convert to Kanji) shows candidates: 1. 漢字に, 2. 感じに, 3. 幹事に, 4. 監事に, 5. 換字に, 6. 観じに, 7. 莞爾に, 8. 寛治に, 9. 寛至に, a. 勘治に. On the right, a list titled '感じに変換' (Convert to Kanji) shows the same candidates, but '2. 感じに' is highlighted. A callout box with an arrow pointing to the second item in the right list contains the text: '変換候補一覧から語句を選びます。↓、↑ (矢印キー) などで希望の候補にカーソルを移動します。' (Select a phrase from the conversion candidate list. Use ↓, ↑ (arrow keys) to move the cursor to the desired candidate.)

6. 次の文節に移動する

漢字に変換

次の文節に移動する場合は Ctrl + L を押します。

別の候補に変換する場合は、移動後に Space または Shift + Space を押します。

7. 前の文節に戻る

前の文節に戻る場合は Ctrl + K を押します。

漢字に変換

変換したい文節の伸縮

変換結果の文節区切り位置を変更したい場合、次の操作で文節を伸縮することができます。

※本書では「ATOK 風 キースタイル」に基づいて解説します。

1. 変換する

ひらがなを入力し、Space または Shift + Space で変換を行います。

反転表示が変換したい文節とは異なっている場合、文節の伸縮をキー操作で行います。

私は医者です

2. 文節を縮める

← を押して変換対象の文節を縮めます。

わたしはいしゃです

文節を縮めたら Space または Shift + Space で変換します。

私歯医者です

3. 文節を伸ばす

→ を押すと、変換対象の文節を伸ばすことができます。

わたしはいしゃです

変換の訂正

かな漢字変換の途中で誤入力に気づいた場合、次の操作で文節を訂正することができます。

※本書では「ATOK 風 キースタイル」に基づいて解説します。

1. 変換を中断し、ひらがな表示に戻す

変換中に、変換前のひらがな表示に戻すには BackSpace を押します。

私**の**名前は

確定する前に BackSpace を押す

わたしのなまえは

← 変換前のひらがな表示に戻る

BackSpace を押すと、カーソルの位置より後ろの語句や文節がひらがな表示に戻ります。

2. 変換中の語句を訂正する

かな漢字変換の途中で誤入力に気付いた場合、訂正したい文節に移動して BackSpace を押します。ひらがな表示に戻ったら正しい語句に入力訂正します。

私**の**七重は

← 「わたしのなまえは」と入力するところを「わたしのななえは」と誤入力して変換

私**の**七重は

← Shift + → を押して修正したい文節に移動

私**の**ななえは

← BackSpace を押してひらがな変換に戻す

私**の**ななえは

← → を入力し、訂正したい位置にカーソルを移動し、Del (Delete) や BS (BackSpace) キーで「な」を削除

私**の**なまえは

← 「ま」を入力しカーソルを文節の末尾に移動

私**の**名前は

← Space または Shift + Space で再度かな漢字変換を行う

ひらがな、カタカナ、英数字への変換

ひらがな、カタカナ、英数字への変換は、ファンクションキーを使って行います。

【ひらがな、カタカナ、英数の変換】	
ひらがなに変換	F6
カタカナに変換	F7
全角英数字に変換	F9
半角に変換	F8

ひらがなに変換

ファンクションキー F6 で、変換中(入力中)の文字列をひらがなに変換できます。

おむろん ← ひらがなを入力する

おむろん ← F6 キーを押す

カタカナに変換

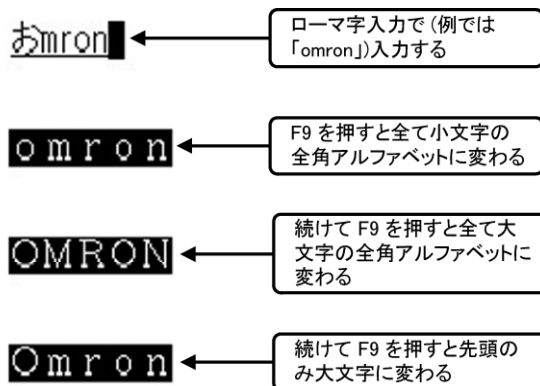
ファンクションキー F7 で、変換中(入力中)の文字列をカタカナに変換できます。

おむろん ← ひらがなを入力する

オムロン ← F7 を押すとカタカナに変わる

全角英数字に変換

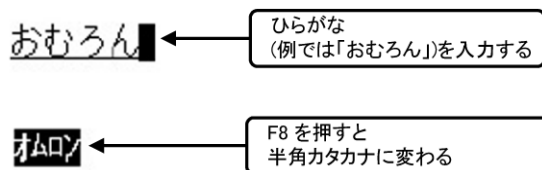
ファンクションキー F9 で、変換中(入力中)の文字列を全角英数字に変換できます。また繰り返しキー入力を行うことで、[全て小文字]-[先頭文字のみ大文字]-[全て大文字]というパターンで順に変換されます。



半角に変換

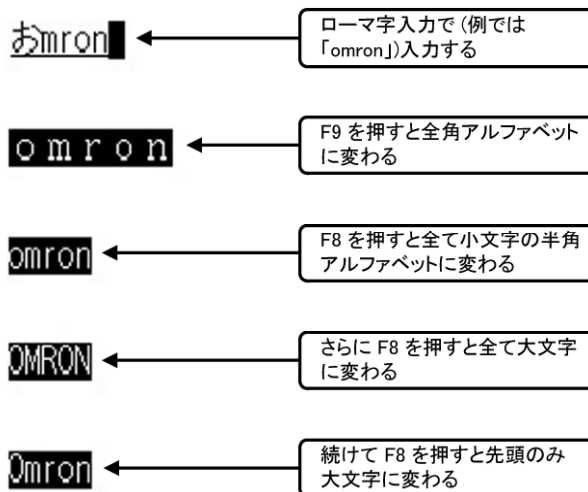
ファンクションキー F8 で、変換中 (入力中) の全角文字を半角文字に変換できます。

全角のひらがな、カタカナは半角カタカナに変換します。



新規全角の英数字は半角の英数字に変換します。

また英数字の場合、繰り返しキー入力を行うことで、[すべて小文字]-[先頭文字のみ大文字]-[すべて大文字]のように順に変換されます。



記号の入力

Wnn8 で記号を入力する場合は、先頭に「@」をつけた記号の読みを入力しその読みを変換します。

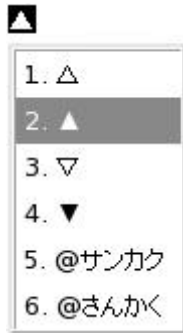
1. 「あr」の入力変換モードで、「@さんかく」と入力します。

@さんかく

2. Space や Shift + Space を実行すると、対応する記号に変換します。



3. さらに変換すると候補一覧が表示され、同じ記号の異なるパターンを選択できます。



入力可能な記号の一覧と対応する読みについては、付録Gの「シンボル(記号)一覧」に記載されています。

ヒント- 「@」をつけない読みで変換したい場合

記号の変換はシンボル辞書「symbol.dic」で実現していますが、Wnn8には@が不要なシンボル辞書「symbol_noat.dic」も用意しています。

symbol.dicの代わりにsymbol_noat.dicを辞書として用いれば@なしで記号の変換が可能となります。辞書環境の設定方法は、第6章の「環境設定」を参照してください。

入力変換モードの切り替え

wnn8leのツールパレットの左端にあるのが「入力変換モード表示」ラベルです。変換モードは、ひらがな、カタカナ、全角英数、半角英数、直接かな入力など10種類が用意されており、入力したキーは変換モードを反映して画面上に表示されます。

【入力変換モードの表示】

(ローマ字入力/ひらがな表示モード)



1. 入力変換モードの種類

入力変換モードは下記の種類があります。

モード表示	種類	表示
[あr]	ローマ字で入力してひらがなを出力します。	あいう

[アr]	ローマ字で入力して全角カタカナを出力します。	アイウ
[アイr] ¹	ローマ字入力して半角カタカナ ² を出力します。	アイウ ³
[あ]	全角英数字を出力します。	a i u / A I U
[Aあ]	半角英数字を出力します。	aiu/AIU
[ア]	全角英数字を出力します。	a i u / A I U
[アイA] ⁴	半角英数字を出力します。	aiu/AIU
[ひ]	直接ひらがなを出力します。	ちにな
[カ]	直接カタカナを出力します。	チニナ
[カナ] ⁵	直接半角カタカナを出力します。	チニナ ⁶
[q]	クオートモード(半角英数字を出力します。)	aiu/AIU
[Q]	クオートモード(全角英数字を出力します。)	a i u / A I U
[--]	変換モード OFF	aiu/AIU

1. [アイr] は半角表示です。
2. [カタカナ] は半角表示です。
3. [アイウ] は半角表示です。
4. [アイA] は半角表示です。
5. [カナ] は半角表示です。
6. [チニナ] は半角表示です。

※「表示」欄は、各モードのとき「A」「I」「U」を順番にキー入力した際に画面に表示される文字です。

2. 入力変換モードの切り替え

各モードは次のキーを入力することで切り替えができます。

入力方法	キー	切り替え内容
ローマ字 入力	F1	ひらがな⇔カタカナ
	F2	全角⇔半角
	F3	ローマ字入力→半角英数字入力
	q	クオートモード(半角)
	Q	クオートモード(全角)
	Ctrl + G	半角/全角英数字→かな変換モード
	かな	直接かな入力⇔ローマ字入力

※ MS-IME 風、EGG 風ローマ字スタイルではクオートモードは無効になります。

ヒント-クオート (quote)モードとは？

ひらがな入力中に一時的にアルファベットや数字(フルキー側)を入力したい場合に便利なモードです。q または Q キーで入力モードを「半角(全角)英数字」に切り替えることができます。Ctrl+G で元の入力モードに戻ります。

半角クオートモード時のツールパレット表示(全角クオートモード時は「Q」と表示されます)



楽々入力機能

楽々入力とは、キー入力の際に過去に確定した語句を先読みし、予測ウィンドウに入力候補として表示する機能です。Wnn8 では、より便利に柔軟な入力が可能となる「つながり予測」を採用しました。

つながり予測とは？

Wnn7 の入力予測では、確定した文章全体を入力した文字に対して学習し、次回の文字入力時に予測候補として表示していました。Wnn8 の「つながり予測」では、確定した文章を文節単位で学習し、さらに入力文字だけでなく直前に確定された文節と関連付けて学習します。

従って、予測候補が表示される際にも前文節に関連のある候補のみが表示され、よりすばやく候補を選択することができます。また文節単位の候補なので、入力文の内容を途中で切り替えることも容易になります。

リアルタイム予測とユーザー指定予測

楽々入力には、自動的に予測候補を表示する「リアルタイム予測」と、必要なときにだけ任意に予測候補を表示させる「ユーザー指定予測」があります。

「ユーザー指定予測」の場合は、入力中に Tab キーを押すことにより、対応した予測候補が表示されます。対応する予測候補がない場合は表示されません。

楽々入力のオン/オフ、リアルタイム予測とユーザー指定予測の切り替えは、第6章の「環境設定」を参照してください。

楽々入力の操作方法

楽々入力の操作方法を「リアルタイム予測」を例に解説します。

1. 入力予測候補の学習

たとえば「今日は良い天気です」と確定します。予測学習は文節単位で行われますので、予測辞書には3つの語句として登録されます。

今日は|良い|天気です

2. 入力予測候補ウィンドウの表示

次に「き」が入力されると、予測候補ウィンドウが表示され「き」で始まる予測候補が表示されます。

この時点では直前の文節はないため、つながり予測は行われず「き」に対する予測候補がすべて表示されます。



3. 予測候補の絞り込み

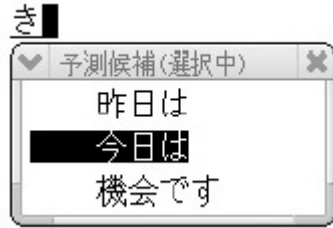
さらに「よ」(xyo)を入力すると、「きよ」に対応する予測候補に絞り込まれます。



なおローマ字入力の"kyo"などではじめから「きよ」と入力した場合は、直接「きよ」に対する予測候補が表示されます。

4. 語句の選択

入力予測候補の中に使用したい語句があればTabキーで選択モードに入ります。選択中の候補は反転表示され、Tabキーで順送り、Shift+Tabキーで逆送りできます。またマウスクリックでも候補を選択できます。



ヒント-入力予測のキャンセル

入力予測候補に入力したい語句がなかった場合は、

- そのまま入力続ける
- Gtrl+GまたはEscキーで入力予測候補ウィンドウを閉じる

ことで入力予測をキャンセルできます。ただし次に入力した文字に対応する予測候補があれば、再び候補ウィンドウが表示されます。

5. 語句の確定

Enterで選択した予測候補が確定、入力されます。

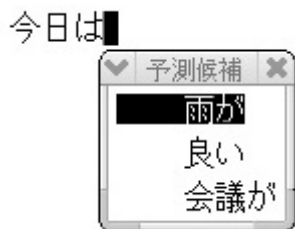
今日は

6. つながり予測候補の表示と選択

確定した語句に対応する「つながり予測候補」があれば、確定時点で自動的に表示されます。

この例では以前に「今日は」に続けて確定した文節が表示されています。

候補の選択やキャンセルの方法は通常の予測候補と同じです。



候補の中から語句を選択し、確定します。

さらに確定した語句に対応する「つながり予測候補」があれば、自動的に表示されます。この例では以前に「良い」に続けて確定した文節が表示されています。



更に候補から語句を選択し、確定します。

この例では「天気です」に対応する予測候補がなかったので、予測候補は表示されていません。キーボードにて入力を再開します。

今日は良い天気です

入力予測機能の制限事項

入力予測機能には以下の制限事項がありますので、ご注意ください。

1. 個別に確定した語句は、つながり予測候補としては登録されません。
たとえば「私の」「名前は」と区切って確定した場合は関連付けが行われません。
「私の名前は」で確定された場合に、「名前は」が「私の」に対するつながり予測候補となります。
2. 登録可能な予測候補数は最大 2048 件です。
2048 件を超えた場合、古い候補から順に自動的に削除されていきます。

3. 全角/半角スペースは予測候補に登録されません。
4. 第4水準 (EUC3byte コード) の文字は予測候補に登録されません。

単語登録 (wnn8le)

Wnn8 の単語登録は辞書編集ツールのほかに、wnn8le のツールパレットから手軽に起動できる「単語登録(wnn8le)」が用意されています。

wnn8le 上の単語登録画面は辞書編集ツールに比べて小さい画面ですが、語句を簡単に登録や削除できることが特長です。

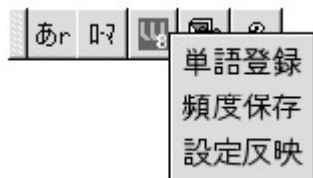
単語登録 (wnn8le) の起動方法

単語登録 (wnn8le) を起動する方法は3通りあります。

1. Wnn8le ツールパレットの単語登録起動アイコンをクリックする



2. Wnn8le ツールパレットの各種ツール起動アイコンをクリックする



3. Ctrl - T で登録画面を起動する (Wnn キースタイルの場合のみ)
wnn8le を使って日本語変換中に、Ctrl - T をキー入力すると単語登録 (wnn8le) が起動します。

単語登録 (wnn8le) の画面

単語登録 (wnn8le) 画面が起動します。

簡易表示 (下画面) と詳細表示画面が用意されています。それらの特長やキー操作など、操作方法は辞書編集ツールと同じです。

The image shows a web form for registering a word. It consists of three input fields, a button, and a row of three buttons. Three numbered instructions with arrows point to the corresponding elements:

- 1. 登録したい語句を入力 (Enter the word you want to register) points to the '語句' (Word) input field.
- 2. 登録したい読みを入力 (Enter the reading you want to register) points to the '読み' (Reading) input field.
- 3. 登録をクリックして保存 (Click register to save) points to the '登録' (Register) button.

The form elements are: 語句 (input), 読み (input), 詳細表示 (button), 登録 (button), キャンセル (button), ヘルプ (button).

操作方法の詳細は、第5章の「[単語登録](#)」を参照してください。

オンラインヘルプ

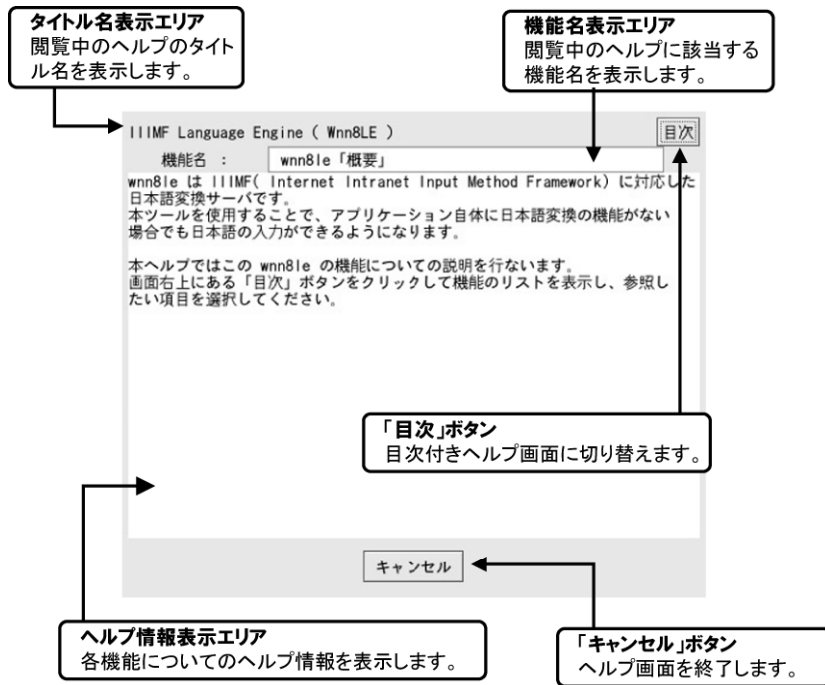
Wnn8には、オンラインヘルプが用意されています。

wnn8le のツールパレットや、各ツール画面のヘルプボタンから起動することができます。

1. wnn8le ツールパレットや各ツールにあるヘルプボタンをクリックします。



2. オンラインヘルプが起動します。



◆ ◆ ◆ 第 4 章

応用操作

この章では Wnn8 のさまざまな変換機能、入力方法について説明します。

特殊な変換機能

Wnn8 には通常のかな漢字変換以外にも、さまざまな変換機能があります。

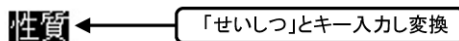
それらを活用することにより、より便利に効率よく文章を作成できます。また「逆引き変換」は文章の閲覧時にも活用できます。

連想変換

連想変換機能とは、変換した単語と同じ意味の語句を連想して表示する機能です。文章作成中「単語が思い出せない」「もっと適する表現がある気がする」といったときに有効な機能です。

例「性質」の同義語、類似語を調べたい。				
せいしつ	→ (変換)	性質	→ (連想変換)	特性・特質・性状・適性・・・

1. 連想変換したい語句を漢字に変換します。確定はしません。



2. その状態で Shift + F9 キーを押すと、連想変換候補が表示されます。

性質

- 1. 性質
- 2. 特質
- 3. 性状
- 4. 陰性
- 5. 属性
- 6. 通性
- 7. 特性
- 8. 物性
- 9. 変性
- a. 陽性

通常の変換候補と同じ要領で選択し、確定します。



注意-変換元と同じ語句しか候補が表示されない場合は、その語句に対する連想候補はありません。

逆引き変換

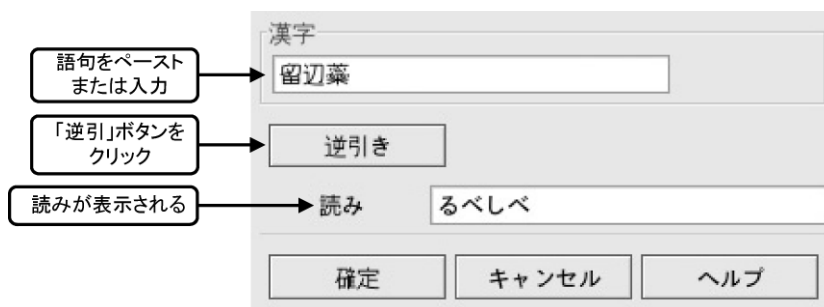
人名や地名など読み方が解らない語句に遭遇した場合、その語句を「読み」に変換とするのが「逆引き変換」機能です。

1. wnn8le を入力オンの状態にし、Shift + F10 キーを押して「逆引き変換」ウィンドウを開きます。

(※) この例は ATOK 風キースタイル時のものです。他のキースタイルではキーバインドが異なる場合があります。



2. 調べたい語句をコピー&ペーストまたは直接入力して「逆引き」ボタンをクリックすると、読みが表示されます。



3. 「確定」をクリックすると、元のアプリケーションの入力エリアに反映されます。確認するだけでよければ、「キャンセル」で終了します。

ヒント-文字のコピー&ペーストの方法

一般的な X Window System 上では、まず対象となる文字列をマウスでドラッグします。そのままペーストする位置にマウスカーソルを移動し、そこで中クリックすると貼り付けできます。

郵便番号変換、電話番号変換

Wnn8 には「郵便番号変換」と「電話番号変換」機能が搭載されています。

郵便番号(7桁)や電話番号の市外局番から該当する住所に変換します。

住所録の作成など、住所入力の効率が大幅に向上します。

郵便番号変換

1. 郵便番号 (7桁) をキー入力します。

6008216 ← 6008216とキー入力する

2. Shift + F2 キーを押すと、該当する住所に変換されます。

京都府京都市下京区東塩小路町

電話番号変換

1. 電話番号の市外局番をキー入力します。

044 ← 044とキー入力する

2. Shift + F3 キーを押すと、該当する住所に変換されます。

神奈川県川崎市

ヒント-目的の住所に変換できなかった場合

目的とは違う住所に変換された場合、該当する住所の候補が複数存在する可能性があります。

再度 Shift + F2 / F3 を実行すると候補一覧が表示されますので、その中から選択してください。

英単語日本語変換機能

「英単語日本語変換機能」とは、先頭に「;」キーをつけて英単語を入力すると、その英単語を日本語の単語(ひらがな、カタカナ)として変換する機能です。

1. 「あr」の入力変換モードで、「;pilot」と入力します。

pilot ← 先頭の「:」は表示されず、「pilot」と画面入力される。

2. Space や Shift + Space を実行すると、日本語の単語に変換します。

パイロット ← 「パイロット」と変換される。



注意- 「英単語日本語変換機能」は、「Wnn」ローマ字スタイルでのみ動作する機能です。他のローマ字スタイルではご利用いただけません。

部首入力

部首入力とは、部首名や総画数から入力したい漢字を探し出す機能です。



注意- 文字コードに関する制限事項

部首入力ツールでは、JISX0213 に含まれる第3、第4水準の漢字はご利用いただけません。

部首入力機能

部首入力機能は、部首名や総画数から漢字の検索を行い、候補を入力する機能です。

部首入力ウィンドウの起動方法

1. wnn8le を入力オンの状態にし、Shift + F6 を入力します。
(※) この例は ATOK 風キースタイル時のものです。他のキースタイルではキーバインドが異なる場合があります。
2. 部首入力ウィンドウがオープンします。

部首名 : 部首一覧

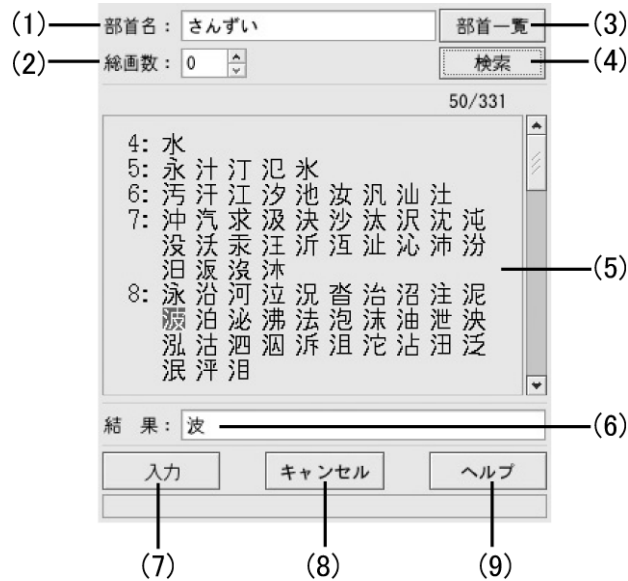
総画数 : 0 検索

0/0

結果 :

部首入力ウィンドウの各部名称と役割

各部の名称と役割



(1) 部首指定エリア

検索を実行する際にキーとなる部首を入力します。

「木」、「言」など漢字以外にも「きへん」、「ごんべん」と、ひらがなでも入力できます。また部首一覧ウィンドウから選択することも可能です。入力可能文字長は、最大128文字です。

入力可能な部首名は、付録Fの「[部首一覧](#)」に記載されています。

(2) 総画数指定エリア

検索漢字の総画数を指定します。

0～30までの数値が指定できます。0は未指定と扱われます。

(3) 部首一覧ウィンドウ表示ボタン

「[部首一覧ウィンドウ](#)」を表示します。詳細は「[部首一覧ウィンドウ](#)」を参照してください。

(4) 検索実行ボタン

部首指定エリアと総画数指定エリアの両方を満たす条件で検索を実行します。どちらか一方が未指定の場合は、指定されている条件のみで検索を実行します。

(5) 候補表示エリア

条件に合致した漢字がここに一覧表示されます。

総画数ごとにグループ化して表示されます。

右端にあるスクロールバーを使って、上下にスクロールさせることができます。文字の選択は、カーソルをあわせて Enter を押すか、マウスで直接クリックします。

この候補表示エリアで操作可能なキーは、次のとおりです。

キーコード	機能
Ctrl+F	カーソルを右へ移動します。
[→]	
Ctrl+B	カーソルを左へ移動します。
[←]	
Ctrl+P	カーソルを上へ移動します。
[↑]	
Ctrl+N	カーソルを下へ移動します。
[↓]	
Ctrl+A	カーソルを入力行の先頭（左端）へ移動します。
Home	
Ctrl+E	カーソルを行の最後尾（右端）へ移動します。
End	
Ctrl+V	次のページを表示します。カーソルはページの先頭行。
PageDown	
Ctrl+R	前のページを表示します。カーソルはページの最終行。
PageUp	
Enter	カーソル位置の候補を選択する。

(6) 選択結果表示エリア

候補表示エリアで選択した漢字がここに表示されます。選択操作を繰り返した場合は追加で反映されていきます。最大 128 文字まで入力可能です。

(7) 入力ボタン

選択結果表示エリアに表示されている文字を元のアプリケーションの入力エリアに反映し、部首入力ウィンドウを閉じます。

-
- (8) キャンセルボタン
部首入力を中断し、部首入力ウィンドウを閉じます。
-
- (9) ヘルプボタン
部首入力ウィンドウに関するヘルプを表示します。
-

ショートカット

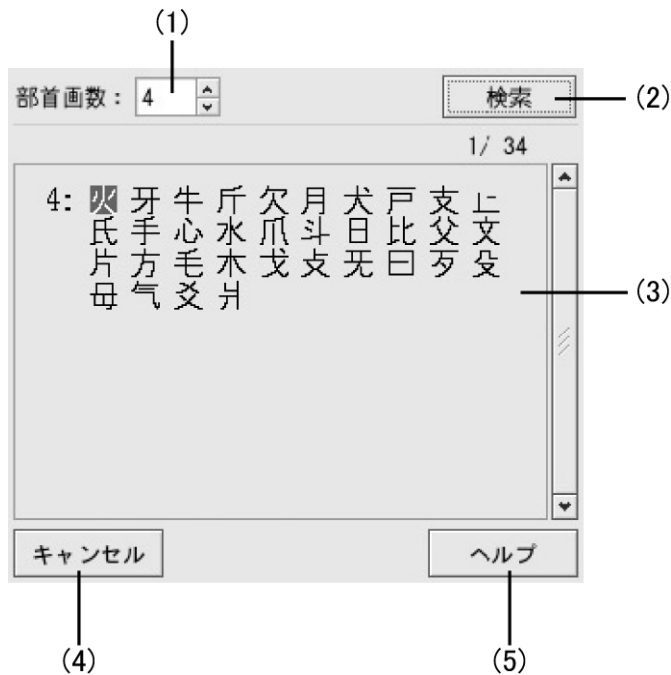
部首入力ウィンドウの各ボタンには、キー操作でも選択可能なようにショートカット機能が割り振られています。

キーコード	機能
Alt + B	部首一覧
Alt + S	検 索
Alt + L	入 力
Ctrl + G	キャンセル
Alt + H	ヘルプ

部首一覧ウィンドウ

部首名がわからないときに、画数から部首を検索します。

各部の名称と役割



(1) 部首画数指定エリア

検索部首の画数を指定します。

0～17までの数値が指定できます。0は未指定と扱われます。

(2) 検索実行ボタン

指定された部首画数で検索を実行します。

(3) 候補表示エリア

条件に合致した部首がここに一覧表示されます。

総画数ごとにグループ化して表示されます。

文字の選択は、カーソルをあわせてEnterを押すか、マウスで直接クリックします。

この候補表示エリアで操作可能なキーは以下のとおりです。

キーコード	機能
Ctrl+F	カーソルを右へ移動します。
[→]	

Ctrl+B	カーソルを左へ移動します。
[←]	
Ctrl+P	カーソルを上へ移動します。
[↑]	
Ctrl+N	カーソルを下へ移動します。
[↓]	
Ctrl+A	カーソルを入力行の先頭（左端）へ移動します。
Home	
Ctrl+E	カーソルを行の最後尾（右端）へ移動します。
End	
Ctrl+V	次のページを表示します。カーソルはページの先頭行。
PageDown	
Ctrl+R	前のページを表示します。カーソルはページの最終行。
PageUp	
Enter	カーソル位置の候補を選択する。

(4) キャンセルボタン

部首検索を中断し、部首一覧ウィンドウを閉じます。

(5) ヘルプボタン

部首一覧ウィンドウに関するヘルプを表示します。

ショートカット

部首一覧ウィンドウの各ボタンには、キー操作でも選択可能なようにショートカット機能が割り振られています。

キーコード	機能
Alt+S	検索
Ctrl+G	キャンセル
Alt+H	ヘルプ

コード入力

Wnn8には、特殊な漢字や記号などを入力する方法もあります。

コード入力とは、各種文字コードを使って入力する方法です。

文字コードセットを使った入力

コンピュータで文字や記号を扱えるように、1つ1つの文字や記号に固有のコードが定められています。これを文字コードといいます。

日本の漢字はJIS(日本工業規格)で規格化されたJISコードの他に、シフトJISやEUC(Extended Unix Code)など複数の文字コードがあります。

Wnn8では、これらの文字コードのうち「区点コード」「JISコード」「シフトJISコード」「補助区点コード」「補助JISコード」「Unicode(UCS-4)」の文字コードを利用して漢字を入力することができるようになっています。文字コードの入力ウィンドウのオープン用にショートカットキーが用意されています。

表4-1 ATOK風キースタイルでの呼び出しショートカットキー

F10	区点コード入力
Ctrl + F10	JISコード入力
Ctrl + F9	シフトJISコード入力
---	補助区点コード入力
---	補助JISコード入力
Ctrl + F8	Unicode入力



注意 - ATOK風キーバインドでは、補助区点コード入力と補助JISコード入力のショートカットキーが割りあてられていません。コード種別を選びなおして入力してください。

ヒント-JISコード

JIS (日本工業規格) が制定した日本語を扱うための文字コードセット。

当初はカタカナのみの制定でしたが、1978年から漢字も含まれるようになりました。漢字は、2965字の第1水準漢字と、3384字の第2水準漢字が定められています。第1水準漢字は、当用漢字表1850字と当時の人名用漢字別表120字を全て含んでいて五十音順に並んでおり、第2水準漢字は部首別で並んでいます。なお、同一部首内は画数順の並びになっています。

16～47区に第1水準漢字2965字、48～83区に第2水準漢字3388字が、01～08区に非漢字524字が収録されています。

区点コード

JISコードで規定されている、文字を4桁の10進数であらわす方法。

1978年の旧JIS漢字コードに定められた6802字を「区」(最初の2桁)と「点」(最後の2桁)を用いて分類したことに名前の由来があります。

16～47区に第1水準漢字2965字、48～83区に第2水準漢字3384字が、01～07区に非漢字453字が収録されています。

シフトJISコード

日本語を扱うための文字コードセットのひとつ。

MS-DOSやWindows、Mac OSなどのパソコンで使われています。2バイトで1つの文字を表示する形態はJISコードと同じですが、7ビットASCIIとの混在の際に必要な切り替えコードを不要にするため、コード領域を移動(シフト)させているのが特徴です。

JISX0213

現代日本語を符号化するために十分な文字集合を提供することを目的として従来のJISコードを拡張した規格。

2000年に制定され、新たに第3水準、第4水準の文字が追加されています。

Unicode

世界中の主要な文字を表現することを目的として、Unicodeコンソーシアムによって制定された文字コードの規格。日本語のJISコードで規定されている文字も全て格納されています。1993年に国際標準化機構(ISO)でISO/IEC 10646の一部(UCS-2、UCS-4)として採用されています。

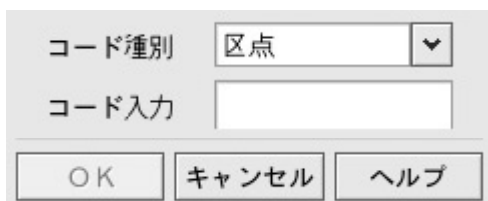
UnicodeのエンコードにはUTF-8、UTF-16、UTF-32、UCS-2およびUCS-4などがあります。

入力手順

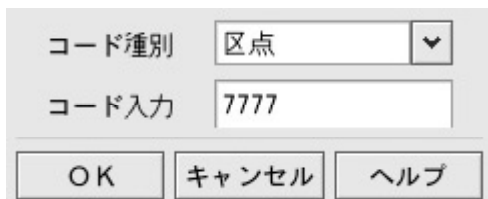
区点コード入力を例に、入力手順を説明します。

コードを直接入力する方法

1. wnn8le を入力オンの状態にし、F10 を入力します。
(※) この例は ATOK 風キースタイル時のものです。他のキースタイルではキーバインドが異なる場合があります。
2. 区点コード入力ウィンドウがオープンします。



3. コード入力の欄に区点コードを入力し、「OK」をクリックします。



4. 区点コードに対応した文字が表示されます。

逃

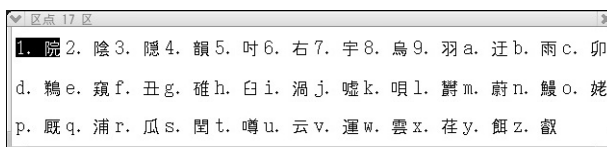
区の中から選ぶ方法 (区点コード入力のみ対応)

1. wnn8le を入力オンの状態にし、F10 を入力します。
(※) この例は ATOK 風キースタイル時のものです。他のキースタイルではキーバインドが異なる場合があります。
2. 区点コード入力ウィンドウがオープンします。

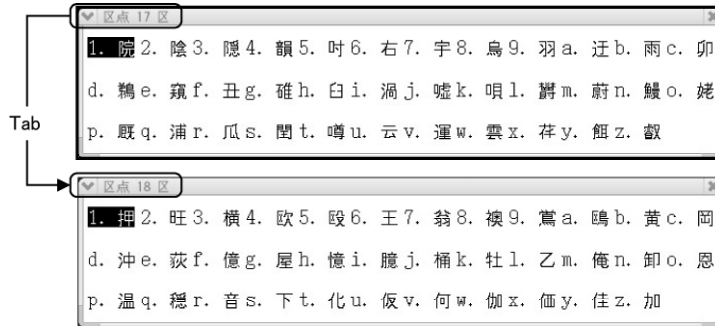
3. 区を入力し、「OK」をクリックします。区は01から83の中から選べます。

4. 区点コード一覧ウィンドウが表示されます。
文字の指定は、下記のいずれかの方法で行うことができます。

1. 該当の文字に割り振られたキーを押します
2. 該当の文字をマウスでクリックします
3. 上下左右の矢印キーで該当の文字にカーソルをあわせ Enter キーを押します



5. PageDown または PageUp キーを押すと、ページが切り替わります。また Tab キーで次の区に、Shift + Tab キーで前の区に切り替えることもできます。



文字一覧表を使った入力

Wnn8 では、記号や漢字をより円滑に入力できるように、JIS が定めた文字コード以外の一覧表を使って文字を入力することもできます。

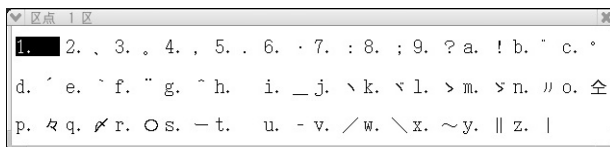
Ctrl + F3	記号一覧入力
Ctrl + F4	ギリシャ文字入力
Ctrl + F5	ロシア文字入力



注意 - この操作は Solaris 版で初期設定となっている ATOK 風キースタイルでは割りあ
たっているキーバインドが存在しません。Wnn キースタイルではそれぞれ、Ctrl + F3、
Ctrl + F4、Ctrl + F5 が割りあっています。

操作方法

1. wnn8le を入力オンの状態にし、Ctrl + F3 を入力します。
(※) この例は Wnn キースタイル時のものです。他のキースタイルではキーバインドが異なる場合があります。
2. 記号一覧入力ウィンドウがオープンします。
文字の指定は、下記の 3 通りの方法で行うことができます。
 1. 該当の文字に割り振られたキーを押します
 2. 該当の文字をマウスでクリックします
 3. 上下左右の矢印キーで該当の文字にカーソルをあわせ、Enter キーを押します



コード一覧入力

Wnn8 では、JIS コード一覧表を表示して、この一覧から任意の文字を入力することができるようになっています。

コード一覧

コード一覧は、JIS および Unicode に属する文字を一覧で表示するものです。

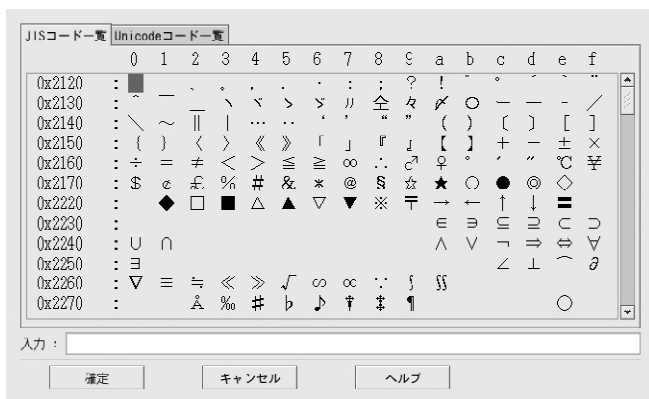
実際の文字コードがわからない場合にも、画面上から目的の文字を入力することができます。

コード一覧の起動方法

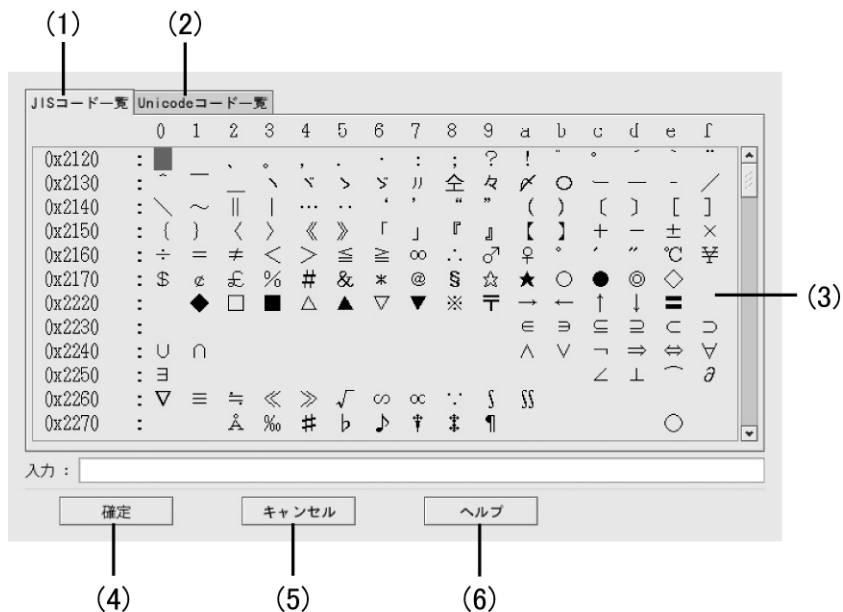
1. wnn8le を入力オンの状態にし、JIS コード一覧は Shift + F12 を、Unicode コード一覧は Ctrl + Shift + F4 を入力します。

(※) この例は ATOK 風キースタイル時のものです。他のキースタイルではキーバインドが異なる場合があります。

2. コード一覧が表示されます。



コード一覧の各部名称と役割



(1) JIS コード一覧

JIS コードの一覧です。一覧に表示された文字を選択することによって「入力項目」に反映されます。

文字の選択は、下記のキー入力で移動できます。

キーコード	機 能
Ctrl + P ↑	反転を上へ移動します。
Ctrl + N ↓	反転を下へ移動します。
Ctrl + F →	反転を右へ移動します。
Ctrl + B ←	反転を左へ移動します。
Ctrl + A Home	反転を行頭へ移動します。
Ctrl + E End	反転を行末へ移動します。
Ctrl + V PageDown	反転を次項へ移動します。
Ctrl + R PageUp	反転を前項へ移動します。

(2) Unicode 一覧

Unicode の一覧です。

詳細は (1) JIS コード一覧と同じです。

(3) 入力エリア

選択された文字が追加反映されます。ここに表示されている文字が、最終的に入力されます。最大 128 文字まで入力できます。

(4) 「確定」ボタン

入力エリアに表示されている文字を実際に入力し、コード一覧を終了します。

(5) 「キャンセル」 ボタン

表示されている内容を破棄して、コード一覧を終了します。

(6) 「ヘルプ」 ボタン

「コード一覧」 についてのオンラインヘルプを表示します。

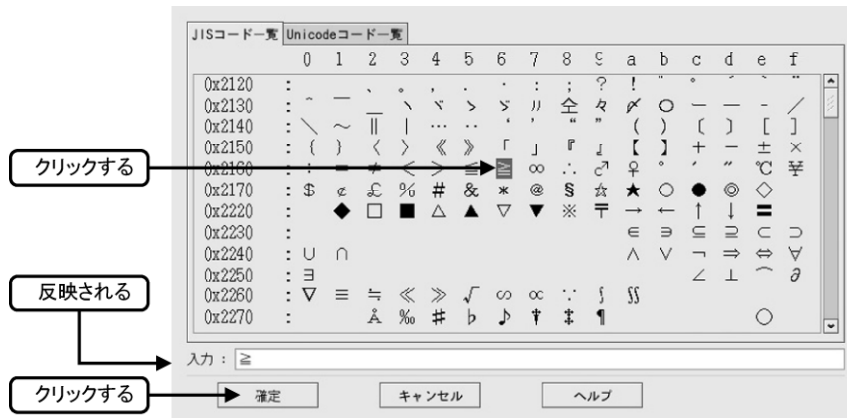
入力手順

1. wnn8le を入力オンの状態にし、JIS コード一覧は Shift + F12 を、Unicode コード一覧は Ctrl + Shift + F4 を入力します。

(※) この例は ATOK 風キースタイル時のものです。他のキースタイルではキーバインドが異なる場合があります。

2. コード一覧が表示されます。
3. マウスでクリックするかカーソルを矢印キーなどで移動して、入力したい文字を選択します。

Enter キーを押すと、入力エリアに選択した文字が反映されます。入力したい文字がすべて入力エリアに表示されたら、「確定」 ボタンをクリックします。



4. 元のアプリケーション画面に、入力エリア内の文字が入力されます。



JISX0213 文字の入力

Wnn8 では、JISX0213 で定義された第 3、第 4 水準の漢字 / 記号に対応しています。辞書設定を行うことにより、それらの文字を入力できるようになります。

対応辞書

以下が JISX0213 対応辞書ファイルです。必要に応じてこれらの辞書を Wnn8 環境に追加します。

第 3 第 4 水準対応基本辞書	kihon3_4.dic
第 3 第 4 水準対応逆引き用基本辞書	kihon3_4R.dic
第 3 第 4 水準対応単漢字辞書	tankan3_4.dic
第 3 第 4 水準対応逆引き用単漢字辞書	tankan3_4R.dic
第 3 第 4 水準対応シンボル (記号) 辞書	symbol3_4R.dic
第 3 第 4 水準対応シンボル (記号) 辞書	symbol3_4_noat.dic

逆引き用辞書は、第 3、第 4 水準文字の逆引き変換を使用されない場合は指定する必要はありません。また symbol3_4_noat.dic は、記号入力の際に @ を付加せずに入力するための辞書です。

それぞれ以下の場所に格納されています。

/usr/lib/wnn/ja_JP/dic/system 以下

辞書の追加

辞書の追加は環境設定ツール (wnnenvutil、wnnsysenv_client) で行います。

環境設定ツールの詳細については、第 6 章の「[環境設定](#)」を参照してください。

◆ ◆ ◆ 第 5 章

単語の登録と編集

この章では辞書編集ツールについて説明します。

辞書編集ツール

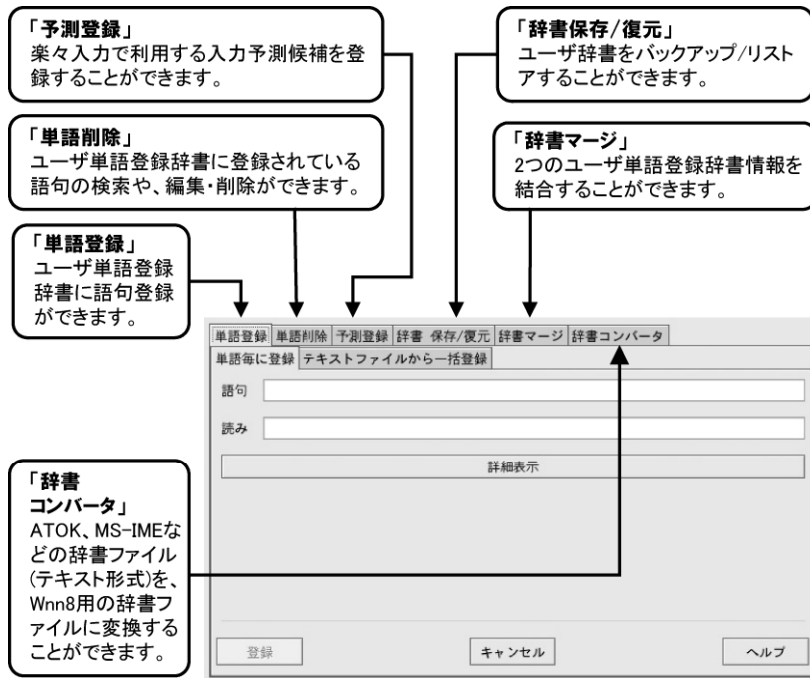
辞書編集ツールの起動と概要

Wnn8には単語登録や削除、編集などを行う「辞書編集ツール」が用意されています。辞書編集ツールはコマンドラインから起動します。

1. ターミナル上で `wnndictutil` コマンドを実行します。

```
$ wnndictutil
```

2. 辞書編集ツールが起動します。



単語登録

よく使う語句で、システム辞書に登録されていないものはユーザー単語登録辞書に登録することができます。

単語登録画面

The screenshot shows the main interface of the dictionary editing tool. At the top, there is a menu bar with options: 単語登録 (Word Registration), 単語削除 (Word Deletion), 予測登録 (Prediction Registration), 辞書 (Dictionary), 保存/復元 (Save/Restore), 辞書マージ (Dictionary Merge), and 辞書コンバータ (Dictionary Converter). Below the menu, there are two tabs: 「単語毎に登録」 (Register by word) and 「テキストファイルから一括登録」 (Batch registration from text file). The main area contains input fields for 「語句」 (Word), 「読み」 (Reading), and 「品詞」 (Part of speech). There is also a dropdown menu for 「辞書」 (Dictionary) and a 「簡易表示」 (Simple display) toggle. At the bottom, there are buttons for 「登録」 (Register), 「キャンセル」 (Cancel), and 「ヘルプ」 (Help).

「語句」
登録する語句を入力してください。全角文字(漢字、ひらがな、カタカナ、記号)、半角文字(英数字、カタカナ、記号)各々1文字として、122文字以内で入力します。

「読み」
登録する語句の読みを入力してください。全角文字(漢字、ひらがな、カタカナ、記号)、半角文字(英数字、カタカナ、記号)各々1文字として、122文字以内で入力します。

「品詞」
登録する語句の品詞を指定できます。メニューから選択してください。初期値は「固有名詞」となっています。

「登録」
指定した内容で単語登録を実行します。「語句」「読み」が入力されていない場合は操作できません。

「キャンセル」
単語登録を実行せず、辞書編集ツールを終了します。

「ヘルプ」
単語登録についての、オンラインヘルプを表示します。

「単語毎に登録」
「テキストファイルから一括登録」
「単語毎に登録」は語句を一つずつ個別に登録する機能です。登録したい単語が多い場合は、テキスト形式の辞書データを作成し「テキストファイルから一括登録」でまとめて登録することが可能です。

「辞書」
語句を登録する「ユーザ単語登録辞書」ファイル名です。「ユーザ単語登録辞書」が複数ある場合はここで選択できます。

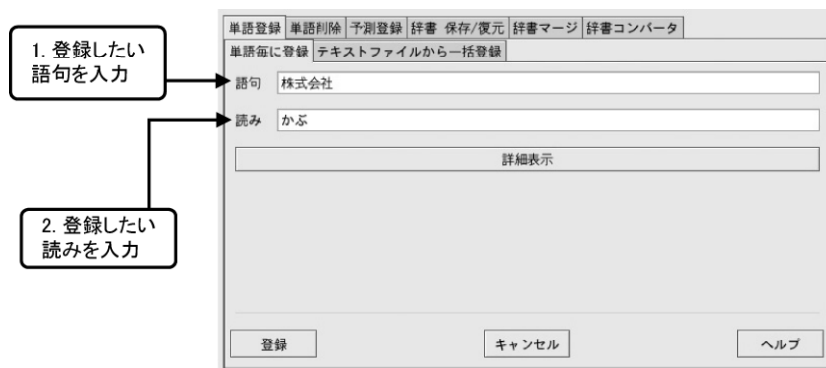
「詳細表示 / 簡易表示」
画面の表示内容を切り替えます。詳細表示で変更した設定は、表示を切り替えてもそのまま保持されます。

単語登録の操作

単語登録は下記の手順で操作します。

例として「株式会社」を「かぶ」という読みで登録します。

1. 単語登録画面の「語句」欄に登録したい語句を、「読み」欄に登録したい読みを入力する



2. 必要に応じて詳細設定を行う

初期状態では「固有名詞」としてユーザー辞書「ud」に登録されます。他の品詞や辞書に登録したい場合は、「詳細表示」より品詞と辞書を選択します。



3. 登録を実行する

「登録」ボタンをクリックし登録します。

wnnictutil 終了時に、実際に辞書ファイルに書き込まれます。

テキストファイルから一括登録

Wnn8 テキスト形式辞書フォーマットで記載されたテキストファイルから、単語データを一括登録します。登録したい語句が多い場合に便利な機能です。

「一括登録テキストファイル」
一括登録に使用するテキストファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンよりファイルを選択してください。半角文字(半角カナは不可)で、最大255文字まで入力可能です。

「登録エラーログファイル」
登録エラーロギングを行う場合、ここでログの出力先ファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンよりファイルを選択してください。半角文字(半角カナは不可)で、最大255文字まで入力可能です。
※登録エラーロギングを「する」に設定しても、ここでファイルを指定しなかった場合はログファイルは作成されません。

「辞書ファイル名」
登録を行う「ユーザ単語登録辞書」を指定します。「ユーザ単語登録辞書」が複数ある場合はここで選択できます。

「登録エラーロギング」
一括登録時のエラー情報をログに保存するかを選択します。初期値は「しない」です。

「登録」
指定した内容で一括登録を実行します。

「キャンセル」
一括登録を実行せず、辞書編集ツールを終了します。

「ヘルプ」
一括登録についてのオンラインヘルプを表示します。



注意-文字コードに関する制限事項

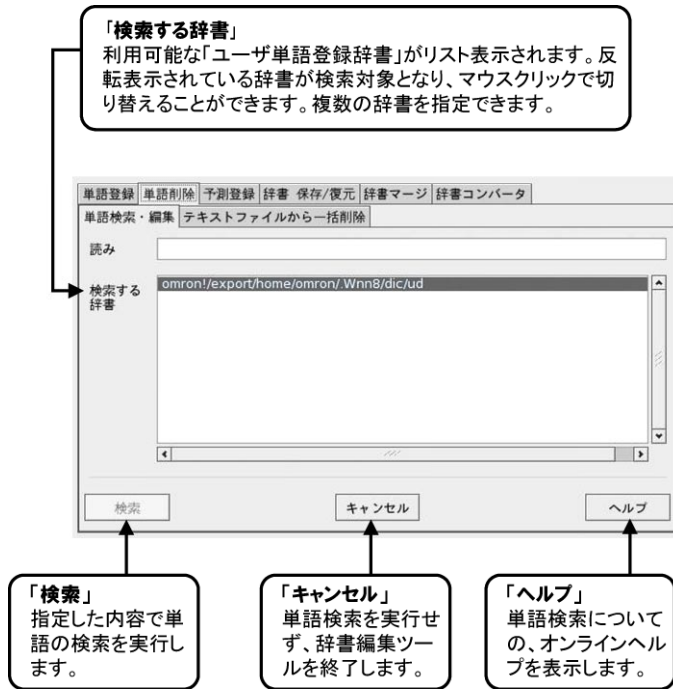
Unicode (UTF-8、UTF-16) で作成されたテキストファイルはご利用いただけません。EUC、JIS または S-JIS コードのいずれかで作成してください。

ただし、JIS の漢字集合第 2 面の文字を含むテキストには対応していません。

テキスト形式辞書ファイルのフォーマットは、付録 C の「テキスト辞書フォーマット」に記載されています。

単語削除

指定したユーザー単語登録辞書ファイル内を検索し、語句の削除や頻度編集、コメント編集を行うことができます。



注意 - 単語検索 / 編集が行える辞書

単語検索 / 編集は、「ユーザー単語登録辞書」ファイルでのみ行えます。

頻度情報ファイルやシステム辞書に対しては使用できません。

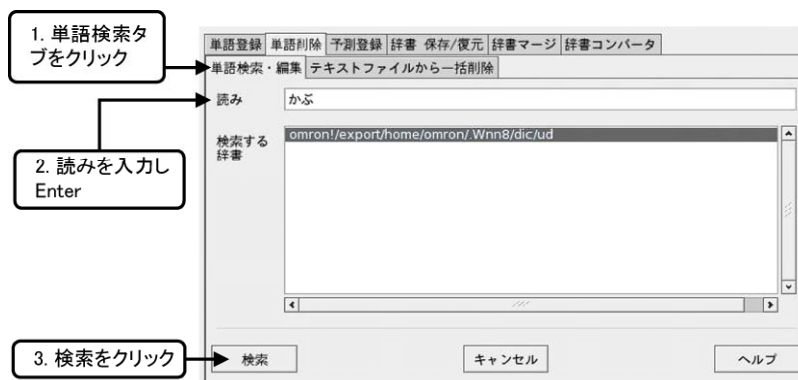
単語の検索

単語検索は「読み」をもとに行います。

検索結果画面から、語句の削除や頻度の編集、コメントの編集を行えます。

1. 「単語検索」タブをクリックして、単語検索画面を表示する

「読み」欄に検索したい単語の読みを入力し、検索を実行します。複数のユーザー単語登録辞書を使用している場合は、検索対象とする辞書を選択できます。



2. 検索結果画面で結果を確認する

検索を実行すると検索結果画面が表示され、検索した語句がリスト表示されます。

「詳細表示」ボタンをクリックすると、使用/不使用の状態、コメント内容、登録されている辞書ファイル名が表示されます。



[詳細画面]



単語の削除

登録されている単語を削除する場合は、検索結果画面から「削除」ボタンをクリックして行います。

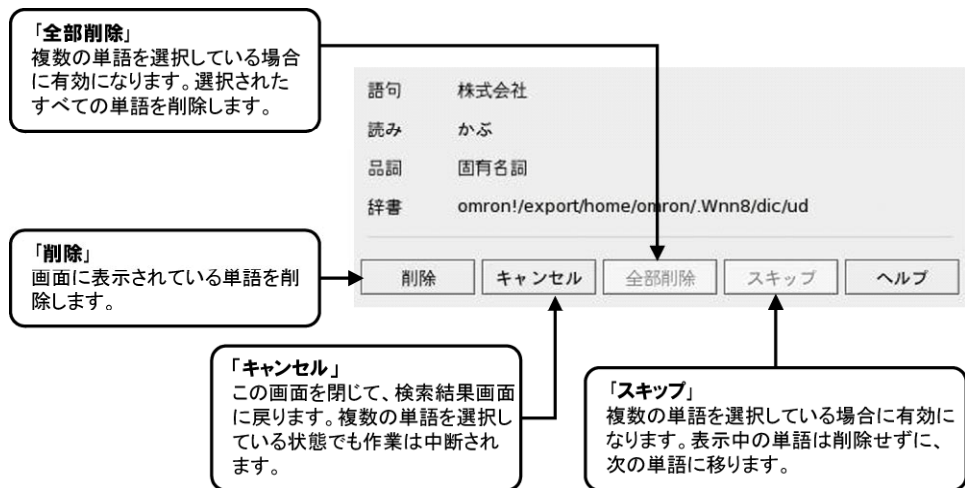
1. 検索結果画面から単語を選択し「削除」をクリックする

まず検索を実行し、検索結果画面から削除したい単語をマウスクリックで選択します。複数の単語を選択することもできます。選択したら「削除」ボタンをクリックします。



2. 削除確認画面から削除を行う

「削除」をクリックすると削除確認画面が表示されます。ここで再度「削除」を選択すると、その単語が辞書から削除されます。



コメントの編集

登録されている単語のコメントを登録/編集する場合は、検索結果画面から「コメント編集」ボタンをクリックします。

1. 検索結果画面から単語を選択し「コメント編集」をクリックする

まず検索を実行し、検索結果画面からコメント編集を行う単語をマウスクリックで選択します。複数の単語を選択することもできます。

選択したら「コメント編集削除」ボタンをクリックします。



2. コメント編集画面から登録/編集を行う

「コメント編集」をクリックするとコメント編集画面が表示されます。
お好みの内容に登録/変更してください。

「コメント」
単語に登録するコメント文字列を、全角文字(漢字、ひらがな、カタカナ、記号)、半角文字(英数字、カタカナ、記号)、各々1文字として、121文字まで入力できます。
(ただし読み、語句と合わせて合計123文字までです)

「登録」
入力した内容で、表示されている単語にコメントを登録します。

「キャンセル」
この画面を閉じて、検索結果画面に戻ります。複数の単語を選択している状態でも作業は中断されます。

「スキップ」
複数の単語を選択している場合に有効になります。表示中の単語は変更せずに次の単語に移ります。

頻度の編集

登録されている単語の頻度情報を編集する場合は、検索結果画面から「頻度編集」ボタンをクリックします。

1. 検索結果画面から単語を選択し「頻度編集」をクリックする

まず検索を実行し、検索結果画面から頻度編集を行う単語をマウスクリックで選択します。複数の単語を選択することもできます。

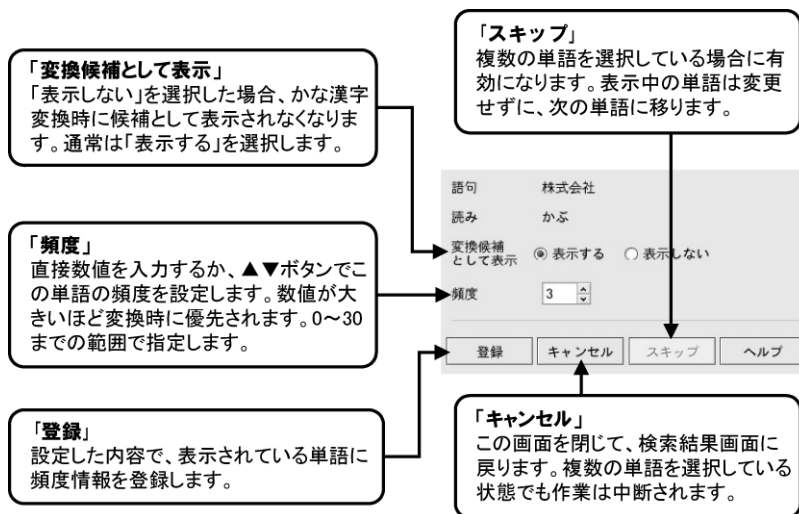
選択したら「頻度編集」ボタンをクリックします。



2. 頻度編集画面から頻度の変更を行う

「頻度編集」をクリックすると頻度編集画面が表示されます。

お好みに合わせて設定を変更してください。



テキストファイルから一括削除

Wnn8 テキスト形式辞書フォーマットで記載された単語データのうち、辞書に存在する単語を一括削除する機能です。

操作方法は「テキストファイルから一括登録」と同じです。

一括登録は登録エラーをロギングしますが、一括削除は削除した語句をロギングしません。

また削除する際には「削除確認画面」が表示されますので、そこで最終確認をしてください。



注意-文字コードに関する制限事項

一括削除には、Unicode (UTF-8、UTF-16) で作成されたテキストファイルはご利用いただけません。EUC、JISまたはS-JISコードで作成してください。またEUC3バイトコードを含むテキストには対応していません。

予測登録

「楽々入力」で使用する入力予測候補を、テキストファイルから一括登録する機能です。「楽々入力」では入力された文字を自動的に学習し予測候補として使用しますが、頻繁に使用する専門用語などの語句があれば、用語集を作成しあらかじめ登録しておくことで更に効率化がはかれます。

予測登録のテキストフォーマット

予測登録では「単語の一括登録/削除」に使用するような辞書フォーマットはありません。指定したファイル内の文章や語句を自動的に解析・抽出し、入力予測データベースに一括登録します。

よく使用する語句をまとめた用語集だけでなく、普通のテキスト文章もそのまま利用することが可能です。



注意-文字コードに関する制限事項

Unicode (UTF-8、UTF-16) で作成されたテキストファイルはご利用いただけません。EUC、JIS または S-JIS コードのいずれかで作成してください。ただし、JIS の漢字集合第 2 面の文字を含むテキストには対応していません。

予測登録画面

「予測登録」タブをクリックし、一括登録を行うためのテキストファイル名を指定します。

The screenshot shows a dialog box titled '予測登録' (Predictive Registration) with several tabs: '単語登録' (Word Registration), '単語削除' (Word Deletion), '予測登録' (Predictive Registration), '辞書保存/復元' (Dictionary Save/Restore), '辞書マージ' (Dictionary Merge), and '辞書コンバータ' (Dictionary Converter). The '予測登録' tab is active, showing a text input field labeled '一括登録に使用するファイル名' (File name for batch registration) and a '参照' (Reference) button. Below the input field are three buttons: '登録' (Register), 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help).

「一括登録に使用するファイル名」
 予測登録に使用するテキストファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンよりファイルを選択してください。ファイル名は半角文字(半角カナは不可で最大255文字まで指定可能です)。

「登録」
 指定した内容で入力予測データの一括登録作業を開始します。

「キャンセル」
 予測登録の実行をキャンセルし、辞書編集ツールを終了します。

「ヘルプ」
 予測登録についてのオンラインヘルプを表示します。

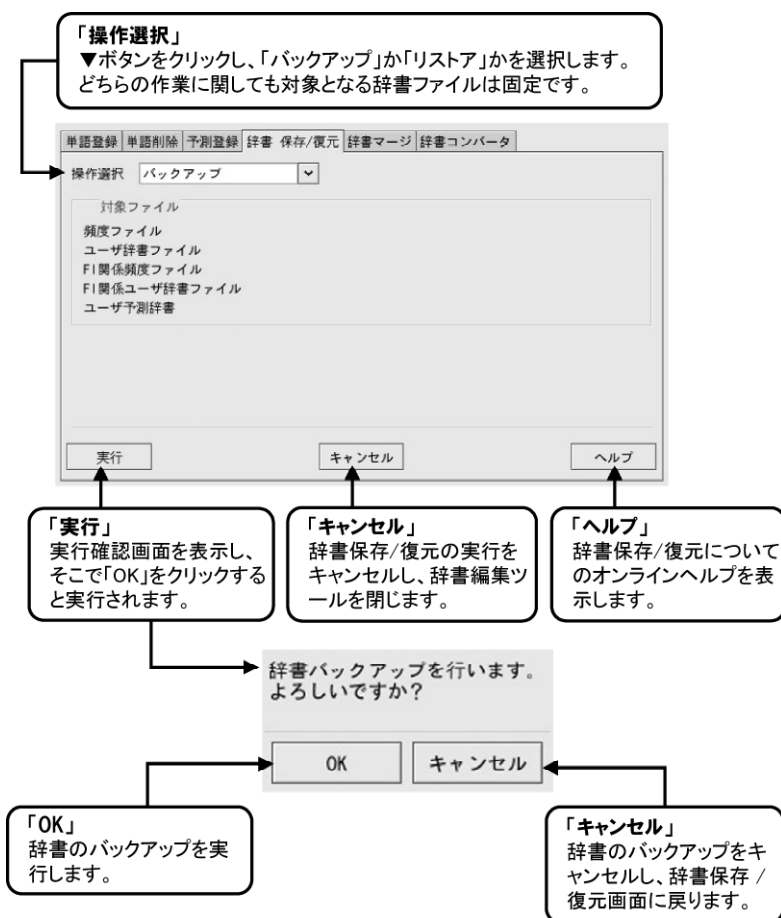
辞書保存/復元

辞書の保存/復元とは、使用中の辞書ファイルデータを保存(バックアップ)する機能と、トラブル発生時にバックアップした辞書データを復元(リストア)する機能を指します。また、この機能はトラブル時の備えとしてだけでなく、辞書データを別の辞書サーバーに移動やコピーしたい場合にも利用できます。

辞書保存/復元の操作

「辞書保存/復元」タブをクリックします。

この画面上で、保存(バックアップ)か復元(リストア)か、実行したい作業を選択します。



保存できる辞書ファイルとそのディレクトリ

辞書の保存/復元ができるのは、ユーザー辞書形式の辞書データファイルに限ります。システム辞書、グループ辞書、マージ辞書などの辞書データファイルは保存(バックアップ)することはできません。

表 5-1 【保存(バックアップ)できるファイル】

- 頻度ファイル
- ユーザー辞書ファイル
- FI 関係頻度ファイル
- FI 関係ユーザー辞書ファイル
- ユーザー予測辞書

表 5-1 【保存 (バックアップ) できるファイル】 (続き)

保存対象となるディレクトリはサーバー側のユーザー辞書ディレクトリ (/usr/lib/wnn/ja_JP/dic/usr) の下です。その他のディレクトリにある辞書ファイルは保存しません。またバックアップファイルも標準のサーバーディレクトリ (/usr/lib/wnn/ja_JP/dic) 以下に usr.backup として保存されます。

保存および復元に関する留意事項

- 特に指定をしない限り、ユーザー辞書はホームディレクトリに保存されます。その場合、ツールを用いてバックアップを行うことができません。
- 「保存」操作によって作成されたバックアップファイルのみ復元できます。バックアップファイルが作成されていない場合は実行できません。
- 復元を実行した場合、辞書ファイルはバックアップ時点の状態に戻ります。バックアップ後に行われた辞書の更新、登録、編集内容は全て破棄されます。
- 復元実行時に wnnictutil 以外のクライアント (wnn8le など) が辞書を使用している場合はエラーになります。他のクライアントを終了した上で復元してください。

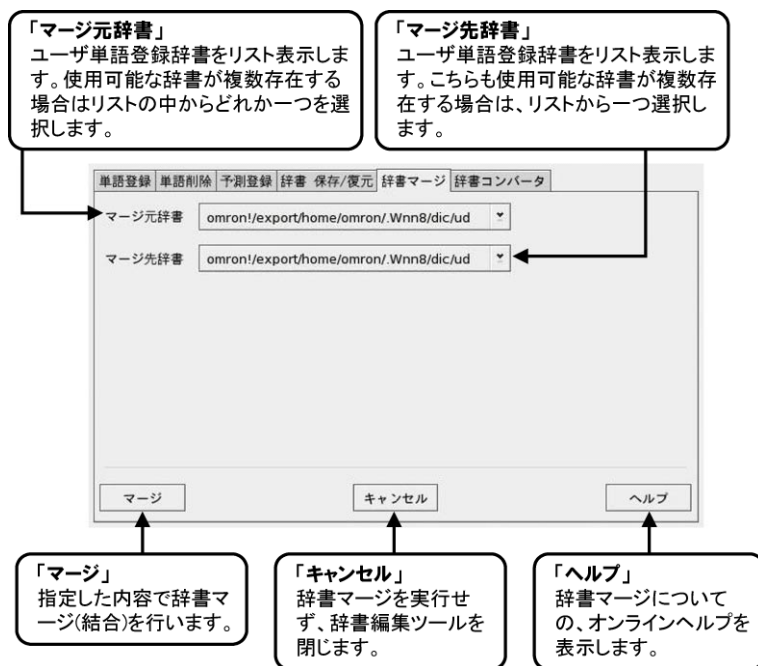
辞書マージ

2つの「ユーザー単語登録辞書」ファイルの内容を結合して、ひとつの辞書ファイルにまとめる機能です。

辞書マージを実行することで、マージ元辞書ファイルに保存されているすべての単語の「読み」「語句」「品詞」「頻度」「コメント」情報をマージ先辞書ファイルに登録します。

辞書マージの操作

「辞書マージ」タブをクリックします。



注意 - マージ元辞書とマージ先辞書に同じ辞書は指定できません。
マージ実行時にエラーになります。

辞書コンバータ

ATOK や MS-IME のユーザー辞書ファイル(テキスト形式)を、Wnn8 のユーザー単語登録辞書に変換するツールです。

また、JIS X4062 で規定された仮名漢字変換辞書交換形式に対応した辞書ファイルとの相互コンバートも可能です。

他社辞書 → Wnn8 用辞書ファイルの変換画面

「辞書コンバータ」の「他社辞書 → Wnn8 用辞書」タブをクリックします。

The screenshot shows the '辞書コンバータ' (Dictionary Converter) window. The main window title is '辞書コンバータ' and the subtitle is 'Wnn8 用辞書 ↔ JIS 規定辞書'. The interface includes several sections:

- 変換方法指定:** Radio buttons for 'ATOK' (selected) and 'MSIME'.
- 変換元ファイル名:** A text input field with a '参照' (Reference) button.
- 変換先ファイル名:** A text input field with a '参照' (Reference) button.
- 変換エラーロギング:** Radio buttons for 'する' (Do) and 'しない' (Do not).
- 変換エラーログファイル:** A text input field with a '参照' (Reference) button.
- Buttons:** '変換' (Convert), 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help).

Callout boxes provide detailed instructions for each element:

- 「変換元ファイル名」**
変換する他社テキスト辞書ファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンよりファイルを選択してください。ファイル名は半角文字(半角カナは不可)で最大255文字まで指定可能です。
- 「変換先ファイル名」**
変換したデータを保存するWnn8テキスト辞書ファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンよりファイルを選択してください。ファイル名は半角文字(半角カナは不可)で最大255文字まで指定可能です。
- 「変換方法指定」**
ATOK、またはMS-IMEのどちらの辞書ファイルをWnn8用辞書に変換するかを指定します。
- 「変換」**
辞書の変換を実行します。
- 「キャンセル」**
辞書コンバータを実行せず、辞書編集ツールを終了します。
- 「ヘルプ」**
辞書コンバータについての、オンラインヘルプを表示します。
- 「変換エラーロギング」**
辞書変換時のエラー情報をログに保存するかを選択します。初期値は「しない」です。
- 「変換エラーログファイル」**
変換エラーロギングを行う場合、ここでログの出力先ファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンよりファイルを選択してください。半角文字(半角カナは不可)で、最大255文字まで入力可能です。
※変換エラーロギングを「する」に設定しても、ここでファイルを指定しなかった場合はログファイルは作成されません。

辞書コンバータの操作 (他社辞書 → Wnn8 辞書)

例として、ATOKの辞書ファイルを変換しWnn8のユーザー辞書へ登録する手順を解説します。

1. 他社入力システムの辞書をテキスト形式で保存する

他社入力システムの辞書情報は、テキスト形式で保存する必要があります。保存方法の詳細は、それぞれのマニュアルやヘルプを参照してください。

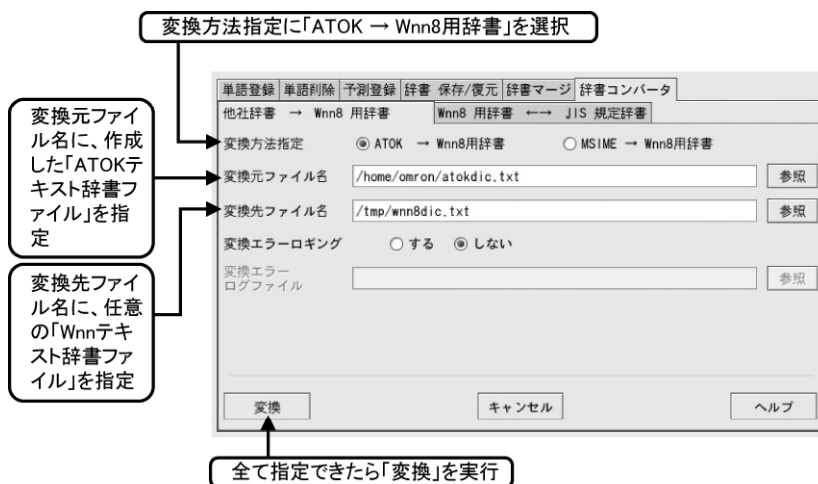


注意-辞書コンバータに関する制限事項

- 辞書コンバータが対応している他社入力システム
ATOK13、14およびMS-IME97、2000に対応しています。
異なるバージョンの辞書ファイルは正常に変換できません。
またこれら以外の製品には対応していません。
- 文字コードに関する制限事項
変換元のテキスト形式辞書に使用可能な文字コードは、EUC、JIS、S-JISおよびUnicode (UTF-8、UTF-16)です。出力されるWnn形式のテキスト辞書ファイルはEUCになります。
なお、第3、第4水準の文字には対応していません。

2. 各設定箇所を指定する

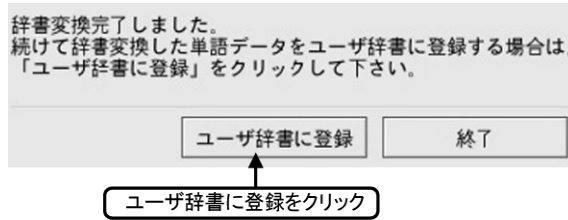
変換方法、他社のテキスト辞書ファイル、作成するWnnテキスト辞書ファイルを指定します。それぞれ指定できたら、「変換」ボタンで変換を実行します。



3. 辞書変換完了のメッセージ

変換が完了すると「変換完了ダイアログ」が表示されます。

この時点では変換が行われただけで、辞書情報までは登録されていません。続けて「ユーザー辞書に登録」を選択します。



4. 単語登録の「テキストファイルから一括登録」で辞書情報を登録

単語登録の「テキストファイルから一括登録」画面に自動的に切り替わります。「一括登録テキストファイル」欄には変換された Wnn8 テキスト辞書ファイルが転送されます。「辞書ファイル」には標準のユーザー単語登録辞書が設定されますので、必要に応じて切り替えてください。「登録」ボタンをクリックすると一括登録が行われます。



Wnn8 用辞書 ← → JIS 規定辞書ファイルの変換画面

JIS 規定辞書フォーマットのテキストファイルを Wnn8 テキスト形式辞書に変換します。逆に Wnn8 ユーザー単語登録辞書を JIS 規定辞書フォーマットのテキストファイルに変換することもできます。

「変換方法指定」
Wnn8 → JIS、JIS → Wnn8のいずれかを選択します。初期設定は、Wnn8 → JIS規定辞書です。

「Wnn8 辞書ファイル名」
Wnn8 辞書ファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンよりファイルを選択してください。ファイル名は半角文字(半角カナは不可)で最大255文字まで指定可能です。

「JIS規定辞書ファイル名」
JIS規定フォーマットのテキスト辞書ファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンより選択してください。ファイル名は半角文字(半角カナは不可)で最大255文字まで指定可能です。

「変換エラーロギング」
辞書変換時のエラー情報をログに保存するかを選択します。初期値は「しない」です。

「変換エラーログファイル」
変換エラーロギングを行う場合、ここでログの出力先ファイルを指定します。ファイル名を直接入力するか「参照」ボタンよりファイルを選択してください。半角文字(半角カナは不可)で、最大255文字まで入力可能です。
※変換エラーロギングを「する」に設定しても、ここでファイルを指定しなかった場合はログファイルは作成されません。

「変換」
指定した内容で辞書の変換(コンバート)を行います。

他社辞書 → Wnn8 用辞書 Wnn8 用辞書 ← JIS 規定辞書

変換方法指定 Wnn8用辞書 → JIS規定辞書 JIS規定辞書 → Wnn8用辞書

Wnn8辞書ファイル名 参照

JIS規定辞書ファイル名 参照

変換エラーロギング する しない

変換エラーログファイル 参照

変換 キャンセル ヘルプ



注意-文字コードに関する制限事項

変換元の JIS テキスト辞書に使用可能な文字コードは、EUC、JIS および S-JIS です。また第3、第4水準の文字には対応していません。

なお出力されるファイルは、Wnn、JIS ともに EUC になります

ヒント-指定できる Wnn8 辞書の形式

Wnn8 → JIS 変換を行う場合、Wnn8 辞書ファイルはバイナリ辞書、テキスト辞書ともに指定可能です。従って、テキスト辞書への変換を行わずに直接辞書ディレクトリ上の「ユーザー単語登録辞書」を指定することも可能です。



環境設定

この章ではユーザー環境設定ツール、システム環境設定ツールおよびサーバー環境設定ツールについて説明します。

ユーザー環境設定

Wnn8 は、ユーザー環境設定ツールから各種設定を行うことができます。設定できる項目は、変換、入力/表示、学習、辞書設定、変換環境、キースタイルおよびローマ字スタイルの変更、キーバインドおよびローマ字入力のカスタマイズです。

ユーザー環境設定ツールの起動方法

ユーザー環境設定ツール `wnnenvutil` は、コマンドラインから起動します。

X Window System を起動し、ターミナルエミュレータ上からコマンド実行してください。

```
$ wnnenvutil
```



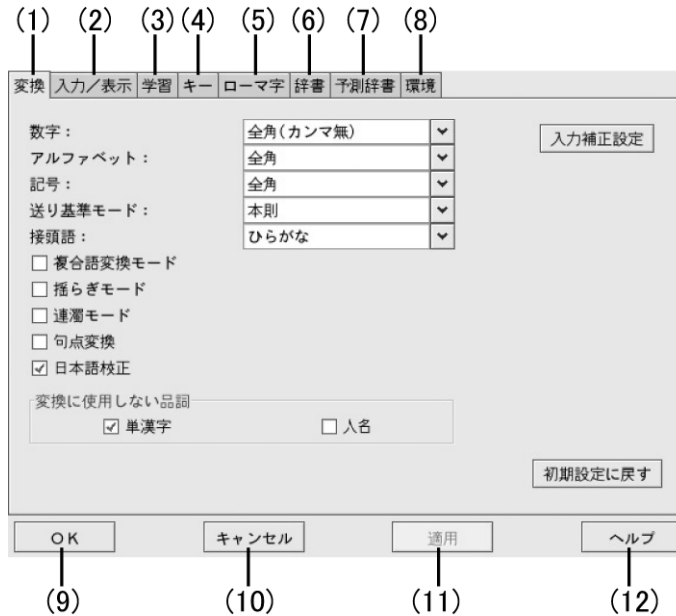
注意-ユーザー環境設定ツールで変更した設定内容は、各設定ファイルには保存されませんが稼動中のクライアントにまでは反映されません。

設定変更後は各クライアントを再起動するか、`wnn8le` の場合はメニューより「設定反映」を実行してください。

ユーザー環境設定ツールの各部名称と役割

共通操作

以下の機能は、ユーザー環境設定ツールのすべてのタブで共通で使えるものです。



(1) 「変換」タブ

「変換」についての設定を行えます。

詳しくは、85ページの「変換」を参照してください。

(2) 「入力/表示」タブ

「入力」と「表示」についての設定を行えます。

詳しくは、90ページの「入力/表示」を参照してください。

(3) 「学習」タブ設定

「学習」についての設定を行えます。

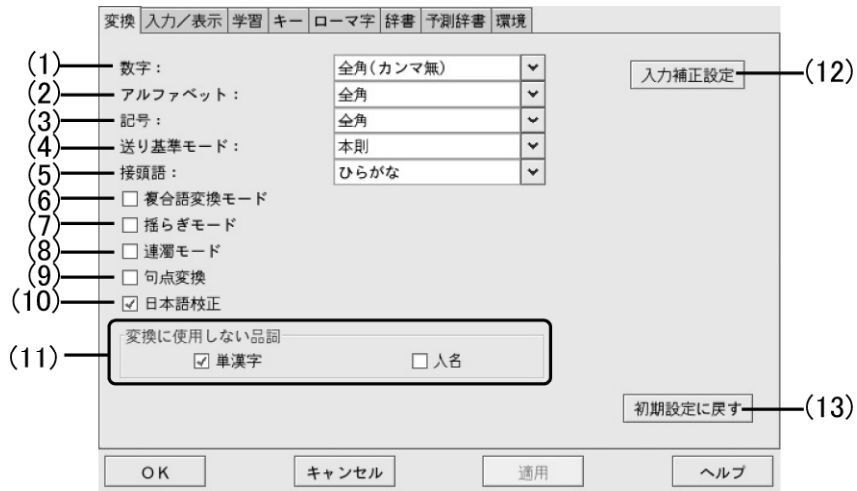
詳しくは、92ページの「学習」を参照してください。

(4) 「キー」タブ

	キースタイルの変更やキーバインドのカスタマイズを行えます。 詳しくは、 96 ページの「キー」 を参照してください。
(5)	「ローマ字」タブ ローマ字かな変換スタイルの変更やローマ字かな変換のカスタマイズを行えます。 詳しくは、 101 ページの「ローマ字」 を参照してください。
(6)	「辞書」タブ 変換に使用する辞書の追加や削除をはじめとする辞書に関する各種設定を行えます。 詳しくは、 105 ページの「辞書」 を参照してください。
(7)	「予測辞書」ボタン 「楽々入力」で使用する入力予測辞書の各種設定を行えます。 詳しくは、 110 ページの「予測辞書」 を参照してください。
(8)	「環境」タブ かな漢字変換の標準インターフェースを使用するときの環境設定を行えます。 詳しくは、 113 ページの「環境」 を参照してください。
(9)	「OK」ボタン 変更した設定をファイルに保存して、環境設定ツールを終了します。 変更した内容は、 <code>wnn8le</code> のメニューから「設定反映」を実行するか、 <code>wnn8le</code> の再起動後に有効になります。
(10)	「キャンセル」ボタン 変更した設定をすべて破棄して、環境設定ツールを終了します。
(11)	「適用」ボタン 環境設定ツールを終了せずに、変更した設定をファイルに保存します。
(12)	「ヘルプ」ボタン 表示されているページについてのオンラインヘルプを表示します。 たとえば「変換」ページが表示されているときにこのボタンを押すと「各種変換の設定」についてのオンラインヘルプが表示されます。

変換

このページでは、各種変換に関しての設定を行います。



(1) 数字

数字の変換を行なったときの変換結果の初期候補形式を指定できます。

【選択項目】	例
半角(コンマ無)	100000
全角(コンマ無)	1 0 0 0 0 0
漢字	一〇〇〇〇〇
漢数字	十万
漢数字	壹拾万
半角(コンマ入)	100,000
全角(コンマ入)	1 0 0 , 0 0 0

(2) アルファベット

アルファベットの変換を行なったときの変換結果の初期候補形式を指定できます。

【選択項目】	例
半角	abc
全角	a b c

(3) 記号

記号の変換を行なったときの変換結果の初期候補を指定できます。

【選択項目】	例
--------	---

	半角	# &
	全角	# &
(4)	送り基準モード	
	送り基準処理規則を指定できます。	
	送りがなのみの異なる候補 (例：行う、行なう) の変換を行うとき、指定された法則 (本則、送る、送らない) に一致する候補を初期候補に指定できます。	
	【選択項目】	例
	本則	行う
	送る	行なう
	送らない	行う
(5)	接頭語	
	接頭語の初期候補を指定できます。	
	【選択項目】	例
	ひらがな	お名前
	漢字	御名前
(6)	複合語変換モード	
	複合語優先変換を行う (付属語を含まない候補を優先する) かを指定します。チェックした場合、複合語優先変換を行います。	
	チェック時	「ひがしの」 → 「東野」
	未チェック時	「ひがしの」 → 「東の」
(7)	揺らぎモード	
	長音、揺らぎ処理を行うかを指定します。	
	【選択項目】	例
	チェック時	「こうり」 → 「氷」、「ほーほー」 → 「方法」などを変換候補に含める
	未チェック時	変換候補には含めない
(8)	連濁モード	
	連濁処理を行うかを指定します。	
	前回確定した連濁候補を、次回の変換時に初期候補に使用するかどうかを指定します。(変換候補内には連濁候補は含まれます。)	
	【選択項目】	

	チェック時	「がいしゃ」を「会社」で変換後、「がいしゃ」変換時には「会社」を第一候補にしない
	未チェック時	「がいしゃ」変換時に「会社」を第一候補にする
(9)	句点変換	
	句点(。)入力時に自動的に変換を行うかを指定します。	
	【選択項目】	
	チェック時	句点(。)入力時に自動変換を行う
	未チェック時	自動変換を行わない
(10)	日本語校正	
	誤用(よく間違われて使われる読み方)や当て字が入力されたときに校正を行うかを指定します。チェックすると日本語校正を行います。	
	【選択項目】	
	チェック時	「いっちょういちゆう」を「一朝一夕」に変換する
	未チェック時	日本語校正を行わない
(11)	変換に使用しない品詞	
	変換に使用しない品詞を指定します。チェックをつけた品詞は変換候補に含まれなくなります。	
	【選択項目】	
	チェック時	指定した品詞を変換に使用しない
	未チェック時	指定した品詞を変換に使用する
(12)	「入力補正設定」ボタン	
	入力補正に関する設定を行います。	
	入力補正とは、誤った読みで変換を行なったときに、読みを補正して変換を行うことです。詳しくは、表 6-1「 入力補正に関する設定 」を参照してください。	
(13)	「初期設定に戻す」ボタン	
	各項目の設定を出荷時状態に戻します。	

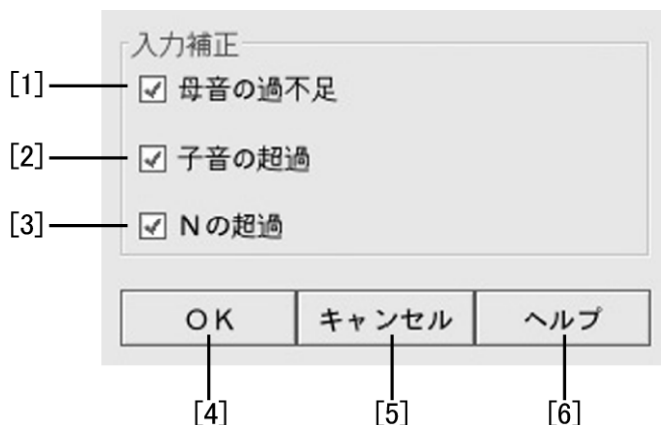


表 6-1 入力補正に関する設定

[1]	母音の過不足
	「おおおさか」→「大阪」、「きゅきゅ」→「救急」など、母音が多かったり少なかったりしたとき、補正を行なって変換するか指定します。
	【選択項目】
	チェック時 母音の超過、不足に対して補正をする
	未チェック時 母音の超過、不足に対して補正しない
[2]	子音の超過
	「いっっぱつ」→「一発」など、子音の超過に対して補正を行うかを指定します。
	【選択項目】
	チェック時 子音の超過に対して補正をする
	未チェック時 子音の超過に対して補正しない
[3]	Nの超過
	「かんんじ」→「漢字」など、N(ん)の超過に対して補正を行うかを指定します。
	【選択項目】
	チェック時 N(ん)の超過に対して補正をする
	未チェック時 N(ん)の超過に対して補正しない
[4]	「OK」ボタン
	変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。
[5]	「キャンセル」ボタン

表 6-1 入力補正に関する設定 (続き)

変更した設定をすべて破棄して、このウィンドウを閉じます。

[6] 「ヘルプ」ボタン

「入力補正設定」についてのオンラインヘルプを表示します。

入力／表示

このページでは、各種入力、表示に関しての設定を行います。



(1) 句読点モード

句読点の入力モードを指定します。

【選択項目】

、。句読点を入力したとき 、。を表示する
 ・句読点を入力したとき ・を表示する

(2) 括弧モード

括弧の入力モードを指定します。

【選択項目】

「」括弧を入力したとき 「」を表示する
 []括弧を入力したとき []を表示する

(3) 記号モード

	<p>【選択項目】</p> <p>・を入力したとき ・ を表示する ／を入力したとき ／ を表示する</p>
(4)	<p>次候補一覧・レイアウト</p> <p>次候補一覧ウィンドウのレイアウトを指定します。</p> <p>【選択項目】</p> <p>マルチカラム 次候補一覧ウィンドウを縦横のカラムを使って表示する 縦 ウィンドウを縦一列で表示する 横 ウィンドウを横一列で表示する</p>
(5)	<p>「楽々入力設定」ボタン</p> <p>楽々入力機能に関する設定を行います。</p> <p>このボタンをクリックすると、下記のウィンドウが表示されます。詳しくは、表6-2「楽々入力機能に関する設定」を参照してください。</p>
(6)	<p>「初期設定に戻す」ボタン</p> <p>各項目の設定を出荷時状態に戻します。</p>

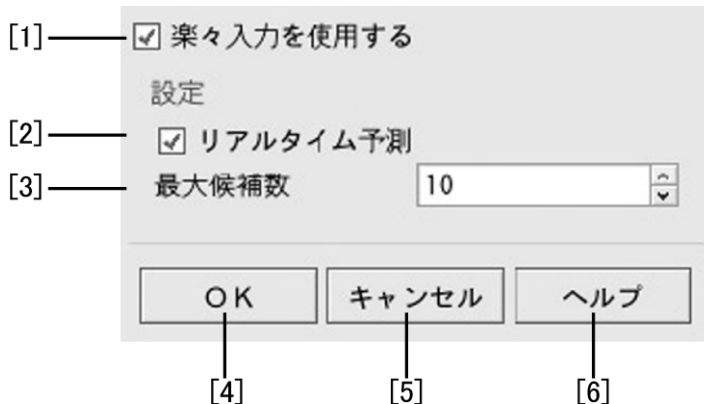


表6-2 楽々入力機能に関する設定

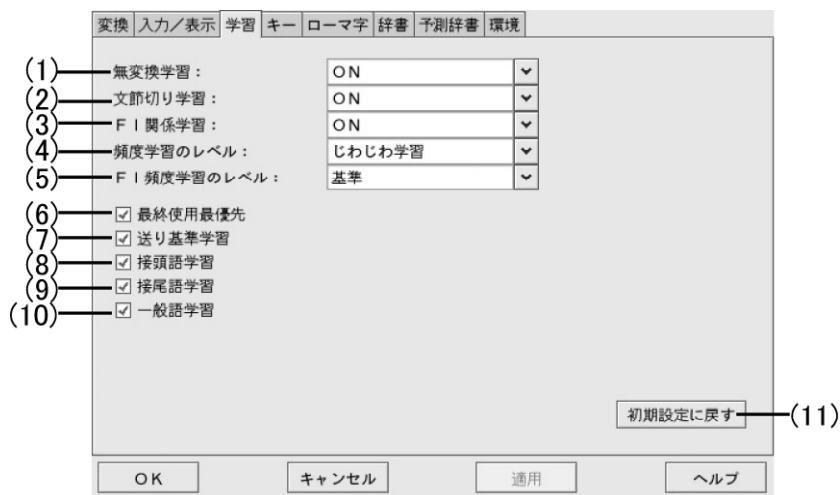
[1]	<p>楽々入力を使用する</p> <p>楽々入力を使用するか指定します。</p> <p>チェックすると「設定」以降の項目が設定可能になります。</p> <p>【選択項目】</p>
-----	---

表 6-2 楽々入力機能に関する設定 (続き)

	チェック時	楽々入力を使用する
	未チェック時	楽々入力を使用しない
[2]	リアルタイム予測	
	ユーザーが文字を入力するたびに、入力候補を自動的に表示するかを指定します。	
	【選択項目】	
	チェック時	リアルタイム予測を行う
	未チェック時	ユーザー指定予測を行う
[3]	最大候補数	
	楽々入力候補一覧の最大表示数を指定します。 1～10の範囲の数字で指定することができます。	
[4]	「OK」ボタン	
	変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。	
[5]	「キャンセル」ボタン	
	変更した設定をすべて破棄して、このウィンドウを閉じます。	
[6]	「ヘルプ」ボタン	
	「楽々入力設定」についてのオンラインヘルプを表示します。	

学習

このページでは、学習機能に関する設定を行います。



(1) 無変換学習

無変換学習を行うか指定します。

無変換学習とは、「ひらがな」、「カタカナ」および「ローマ字」に変換、もしくは変換せずにそのまま確定した語句を学習することです。

【選択項目】

ON	無変換学習を行う
OFF	無変換学習を行わない
一時	無変換学習を行うが、辞書ファイルには保存せずクライアント終了時に学習内容は破棄される

(2) 文節切り学習

文節切り学習を行うか指定します。

文節切り学習とは、文節区切り位置を変更して確定した場合、その文節区切り情報を学習することです。

【選択項目】

ON	文節切り学習を行う
OFF	文節切り学習を行わない
一時	文節切り学習を行うが、辞書ファイルには保存せずクライアント終了時に学習内容は破棄される

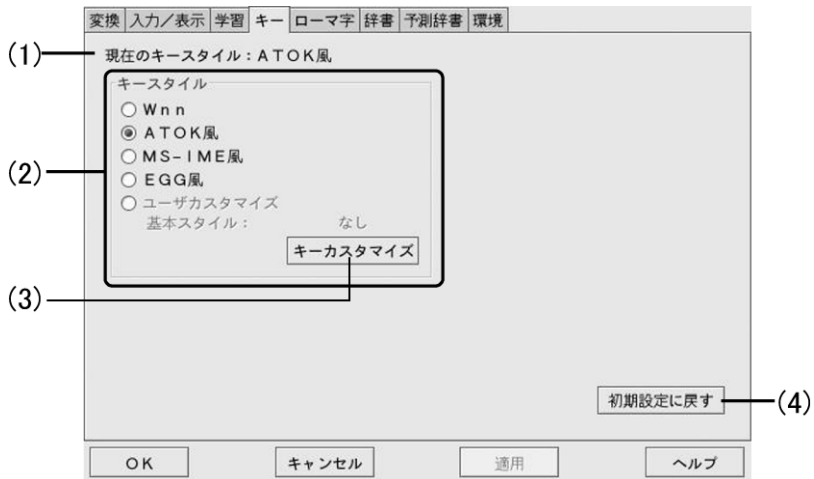
(3) F I 関係学習

	F I 関係学習を行うか設定します。	
	【選択項目】	
	ON	F I 関係学習を行う
	OFF	F I 関係学習を行わない
	一時	F I 関係学習を行うが、辞書ファイルには保存せずクライアント終了時に学習内容は破棄される
(4)	頻度学習のレベル	
	頻度学習方法を指定します。	
	【選択項目】	
	学習しない	頻度学習を行わない
	必ず学習	必ず学習する
	すぐ学習	すぐに学習する
	基準	普通に学習する
	じわじわ学習	ゆっくり学習する
(5)	F I 頻度学習のレベル	
	F I 関係の頻度学習の行われ方を指定できます。	
	【選択項目】	
	学習しない	頻度学習を行わない
	必ず学習	必ず学習する
	すぐ学習	すぐに学習する
	基準	普通に学習する
	じわじわ学習	ゆっくり学習する
(6)	最終使用最優先	
	最終使用最優先処理を行うかを指定します。	
	最終使用最優先とは、同じ読みの候補が複数存在する場合、直前に確定した候補を最初に表示するように学習することです。	
	【選択項目】	
	チェック時	最終使用最優先処理を行う
	未チェック時	最終使用最優先処理を行わない
(7)	送り基準学習	

	送り基準学習を行うかを指定します。 送り基準学習とは、確定した語句の送り基準法則を学習することです。 【選択項目】				
	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>チェック時</td> <td>送り基準学習を行う</td> </tr> <tr> <td>未チェック時</td> <td>送り基準学習を行わない</td> </tr> </tbody> </table>	チェック時	送り基準学習を行う	未チェック時	送り基準学習を行わない
チェック時	送り基準学習を行う				
未チェック時	送り基準学習を行わない				
(8)	接頭語学習 接頭語学習を行うかを指定します。 接頭語学習とは、直前に確定した接頭語情報(ひらがな、漢字)を学習することです。 【選択項目】				
	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>チェック時</td> <td>接頭語学習を行う</td> </tr> <tr> <td>未チェック時</td> <td>接頭語学習を行わない</td> </tr> </tbody> </table>	チェック時	接頭語学習を行う	未チェック時	接頭語学習を行わない
チェック時	接頭語学習を行う				
未チェック時	接頭語学習を行わない				
(9)	接尾語学習 接尾語学習を行うかを指定します。 接尾語学習とは、直前に確定した接尾語情報(送る、送らない)を学習することです。 【選択項目】				
	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>チェック時</td> <td>接尾語学習を行う</td> </tr> <tr> <td>未チェック時</td> <td>接尾語学習を行わない</td> </tr> </tbody> </table>	チェック時	接尾語学習を行う	未チェック時	接尾語学習を行わない
チェック時	接尾語学習を行う				
未チェック時	接尾語学習を行わない				
(10)	一般語学習 一般語学習を行うかを指定します。 一般語学習とは、直前に確定した一般語情報(ひらがな、カタカナ、漢字)を学習することです。 【選択項目】				
	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>チェック時</td> <td>一般語学習を行う</td> </tr> <tr> <td>未チェック時</td> <td>一般語学習を行わない</td> </tr> </tbody> </table>	チェック時	一般語学習を行う	未チェック時	一般語学習を行わない
チェック時	一般語学習を行う				
未チェック時	一般語学習を行わない				
(11)	「初期設定に戻す」ボタン 各項目の設定を出荷時状態に戻します。				

キー

このページでは、キースタイルの変更、キーバインドのカスタマイズの設定を行います。



(1) 現在のキースタイル
現在のキースタイルを表示します。

(2) キースタイル
すでに用意されているキースタイルの中から選択することができます。各キースタイルの設定内容は、付録Dの「キーバインド一覧」に記載されています。

【選択項目】

例

Wnn	Wnn キースタイルにする
ATOK 風	ATOK 風キースタイルにする
MS-IME 風	MS-IME 風キースタイルにする
EGG 風	EGG 風キースタイルにする
ユーザーカスタマイズ	ユーザーが独自にカスタマイズしたキースタイルにする (カスタマイズ実行後に有効となります)

注意-キースタイルの制限事項

- 変換 ON/OFF キーとして IIIMF に登録されていないキーを Wnn のキーバインドに登録しても、変換 ON/OFF を行うことはできません。
- Gtk アプリケーション、StarSuite などのアプリケーション上で Wnn を利用する際、アプリケーションに割り当てられている hotkey と重なるキーバインドは、Wnn で割り当てても使うことができません。
- Xsun + 日本語キーボード環境では、Ctrl + Shift + F1 および Ctrl + Shift + F2 はキーバインドとして用いることができません。

(3) 「キーカスタマイズ」ボタン

選択中のキースタイルをベースに、キーバインドのカスタマイズを行います。

このボタンをクリックすると、キーカスタマイズウィンドウが表示されます。詳しくは、表 6-3 「キーカスタマイズウィンドウ」を参照してください。

(4) 「初期設定に戻す」ボタン

各項目の設定を出荷時状態に戻します。



表 6-3 キーカスタマイズウィンドウ

[1] 「動作モード」切り替え

[2] のキーバインド一覧を、操作状態ごとに絞り込んで表示させることができます。

【選択項目】

表 6-3 キーカスタマイズウィンドウ (続き)	
全て (0-5)	すべての状態
変換後 (0)	変換結果を修正している状態
変換前 (1)	変換前の文字を入力している状態
文節操作 (2)	変換後に文節の長さを伸縮している状態
文字未入力 (3)	文字が入力されていない状態
次候補操作 (4)	候補選択をしている状態
楽々入力 (5)	楽々入力候補を選択している状態
[2]	「キーバインド」一覧
	[1] の「動作モード切り替え」で指定されたモードに対して、設定変更が可能なキーバインドの一覧を表示します。 左から、機能名、操作が有効となる動作モード、実行するキーコードの順に表示されます。
[3]	「OK」ボタン
	変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。
[4]	「キャンセル」ボタン
	変更した設定をすべて破棄して、このウィンドウを閉じます。
[5]	「ヘルプ」ボタン
	「キーカスタマイズ」についてのオンラインヘルプを表示します。
[6]	「変更」ボタン
	選択した機能に対する、キーコードの追加、削除を行います。[2] のキーバインド一覧で変更したい行を選択して、このボタンを押すとキーコード編集ウィンドウが表示されます。詳しくは、表 6-4 「キーコード編集ウィンドウ」を参照してください。



表 6-4 キーコード編集ウィンドウ

<1>	機能名
	選択された機能名を表示します。
<2>	モード
	選択された機能が動作するモードを表示します。
<3>	キーコード
	<p>選択された機能のキーコードを表示します。</p> <p>この欄を編集することによって、キーコードの追加と削除が行えます。1機能に対して、最大10個までキーコードを設定できます。</p> <p>【キーコードの表記】キーコードの表記は、8進、10進、16進が使用できます。これらはプログラミング言語Cにおける表記に準じています。</p> <p>スペースキーを表す場合、単独で用いる際には"0x20"と表記し、他のキーと組み合わせる際にはShift spaceの様に"space"と表記します。</p> <p>○ 特殊キー</p>

表 6-4 キーコード編集ウィンドウ (続き)

スペース	0x20
ファンクション	F1
	F2
	F3
矢印	Left
	Up
	Right
	Down
漢字	Kanji
変換	Henkan_Mode
無変換	Muhenkan
Insert	Insert
Delete	Delete
BackSpace	^H
Home	Home
End	End
Next	Next
Prior	Prior
Enter	^M
Tab	Tab
○コントロールキーとの組み合わせ	
Ctrl + A	^A
Ctrl + space	Ctrl space
○シフトキーとの組み合わせ	
Shift + space	Shift space
Shift + F1	Shift F1
○アルトキーとの組み合わせ	
Alt + a	Meta a
Alt + Left	Meta Left
<4>	「OK」ボタン

表 6-4 キーコード編集ウィンドウ (続き)

変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。

変更された内容は「キーバインド一覧」に反映されます。

<5> 「キャンセル」ボタン

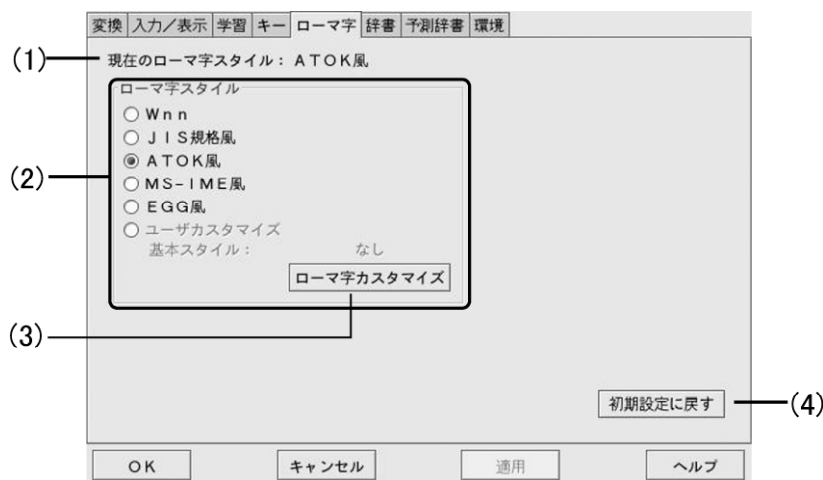
変更内容を破棄して、このウィンドウを閉じます。

<6> 「ヘルプ」ボタン

「キーバインド」についてのオンラインヘルプを表示します。

ローマ字

このページでは、ローマ字スタイルの変更、ローマ字かな変換のカスタマイズの設定を行います。



(1) 現在のローマ字スタイル

現在のローマ字スタイルを表示します。

(2) ローマ字スタイル

すでに用意されているローマ字スタイルの中から選択することができます。各ローマ字スタイルの設定内容は、付録Eの「ローマ字定義一覧」に記載されています。

【選択項目】

Wnn	Wnn のローマ字スタイルにする
JIS 規格風	JIS 規格風のローマ字スタイルにする
ATOK 風	ATOK 風のローマ字スタイルにする
MS-IME 風	MS-IME 風のローマ字スタイルにする
EGG 風	EGG 風のローマ字スタイルにする
ユーザーカスタマイズ	ユーザーが独自にカスタマイズしたローマ字スタイルにする (カスタマイズ実行後に有効となります)
(3)	「ローマ字カスタマイズ」ボタン
	<p>選択中のローマ字スタイルをベースに、ローマ字かな変換定義のカスタマイズを行います。</p> <p>このボタンをクリックすると、ローマ字カスタマイズウィンドウが表示されます。詳しくは、表 6-5「ローマ字カスタマイズウィンドウ」を参照してください。</p>
(4)	「初期設定に戻す」ボタン
	各項目の設定を出荷時状態に戻します。

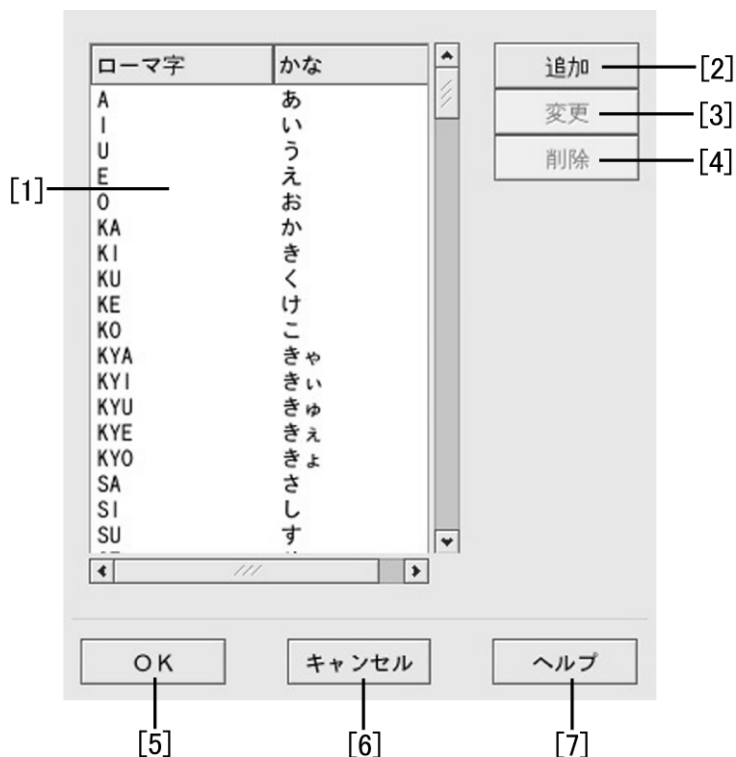


表 6-5 ローマ字カスタマイズウィンドウ

[1] 「ローマ字かな」一覧

ローマ字かな対応表の一覧を表示します。

[2] 「追加」ボタン

[1] のローマ字かな一覧にローマ字とかなの対応を追加します。

このボタンを押すとローマ字編集ウィンドウが表示されます。詳しくは、表 6-6 「ローマ字編集ウィンドウ」を参照してください。

[3] 「変更」ボタン

表 6-5 ローマ字カスタマイズウィンドウ (続き)

[1] のローマ字かな一覧の内容を変更します。

[1] のローマ字かな一覧から変更したい行を選択して、このボタンを押すと下記のウィンドウが表示されます。

各項目やボタンの使い方は、[2] 「追加」 ボタンと同じです。

The image shows a dialog box for customizing Roman characters. It has two text input fields. The first is labeled 'ローマ字:' and contains the character 'A'. The second is labeled 'かな:' and contains the character 'あ'. Below these fields are three buttons: 'OK', 'キャンセル', and 'ヘルプ'.

[4] 「削除」 ボタン

ローマ字とかなの対応設定を削除します。

ローマ字かな一覧から削除したい行を選択して、このボタンを押すとその設定が削除されます。

注意-ローマ字カスタマイズ時の制限事項

- 「N(ん)」の変更、削除はできません。
「NN(ん)」などは設定の追加を行なってください。
- 「¥(バックスラッシュ)」を含むローマ字は変更、削除できません。

[5] 「OK」 ボタン

変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。

[6] 「キャンセル」 ボタン

変更した設定を破棄して、このウィンドウを閉じます。

[7] 「ヘルプ」 ボタン

「ローマ字カスタマイズ」についてのオンラインヘルプを表示します。



表 6-6 ローマ字編集ウィンドウ

<1>	ローマ字
	<p>入力する「ローマ字」を指定します。</p> <p>文字種は、半角アルファベットと半角記号が指定できます。</p> <p>文字数は、3文字以内で指定します。</p>
<2>	かな
	<p>変換される「かな」を指定します。</p> <p>文字種は、全角ひらがなと全角カタカナ、全角記号が指定できます。</p> <p>文字数は、3文字以内で指定します。</p>
<3>	「OK」ボタン
	<p>変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。</p> <p>変更した内容は「ローマ字かな一覧」に反映されます。</p>
<4>	「キャンセル」ボタン
	<p>変更内容を破棄して、このウィンドウを閉じます。</p>
<5>	「ヘルプ」ボタン
	<p>「ローマ字かな設定の追加」についてのオンラインヘルプを表示します。</p>

辞書

このページでは、クライアント起動時に読み込む辞書の追加、変更、削除、付属語ファイル指定を行います。

ここで追加/変更設定を行なった辞書ファイルが存在しなかった場合は、クライアントの再起動時に自動的に新規作成されます。



(1) 辞書一覧

変換に使用する辞書の一覧を表示します。

【選択項目】

辞書ファイル	辞書ファイル名
頻度ファイル	指定した辞書に対応する頻度ファイル名
priority	辞書の優先度
辞書読専	辞書が READ_ONLY (読取専用) かどうか
頻度読専	頻度が READ_ONLY (読取専用) かどうか
辞書 password	辞書ファイルのパスワードを記述したファイル名
頻度 password	頻度ファイルのパスワードを記述したファイル名
正/逆	正引き辞書/逆引き辞書の指定

(2) 「追加」ボタン

変換に使用する辞書を追加します。

このボタンをクリックすると、辞書追加ウィンドウが表示されます。詳しくは、表 6-7「辞書追加ウィンドウ」を参照してください。

(3) 「変更」ボタン

クライアントが変換に使用する辞書設定を変更します。

このボタンをクリックすると、辞書変更ウィンドウが表示されます。

各項目やボタンの使い方は「辞書追加ウィンドウ」と同じです。

辞書ファイル名 :	<input type="text" value="system/kihon.dic"/>	参照
頻度ファイル名 :	<input type="text" value="!@HOME/.Wnn8/dic/kihon.h"/>	参照
辞書の優先度 :	<input type="text" value="6"/>	
辞書読み専用 :	<input type="text" value="ON"/>	▼
頻度読み専用 :	<input type="text" value="OFF"/>	▼
辞書パスワード :	<input type="text"/>	参照
頻度パスワード :	<input type="text"/>	参照
辞書の種類 :	<input type="text" value="正引き変換"/>	▼
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="ヘルプ"/>		

(4) 「削除」ボタン

変換に使用する辞書を削除します。辞書一覧から削除したい辞書を選択して、このボタンを押すとその辞書が削除されます。

(5) 付属語ファイル

クライアントが変換に使用する付属語ファイルを指定します。

「参照」ボタンからファイル選択画面を起動し、ファイルを指定することも可能です。

(6) 「初期設定に戻す」ボタン

各項目の設定を出荷時状態に戻します。

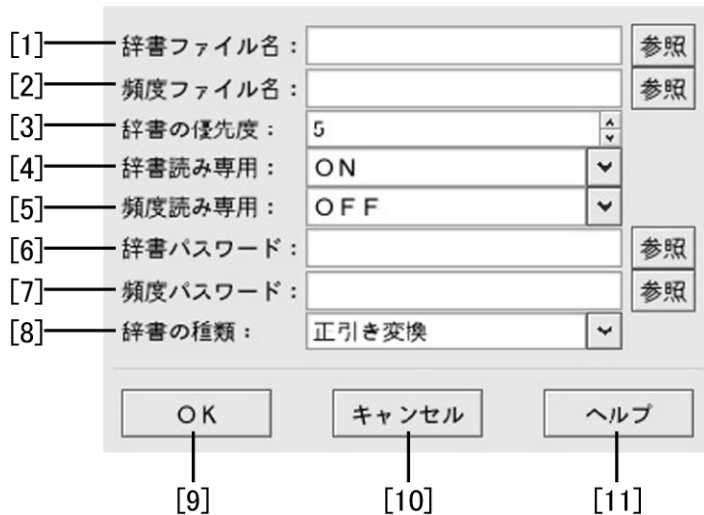


表 6-7 辞書追加ウィンドウ

[1]	辞書ファイル名
	追加する辞書ファイル名を指定します。 ASCII 文字 (半角カタカナを除く半角文字) 127 文字まで入力できます。 「参照」ボタンからファイル選択画面を起動し、ファイルを指定することも可能です。詳しくは、表 6-8 「ファイル選択画面」を参照してください。
[2]	頻度ファイル名
	追加した辞書に対応させる頻度ファイル名を指定します。 ASCII 文字 (半角カタカナを除く半角文字) 127 文字まで入力できます。 「参照」ボタンからファイル選択画面を起動し、ファイルを指定することも可能です。
[3]	辞書の優先度
	辞書の優先度を指定します。 0-127 の範囲での数字で指定します。数字が大きいほうが優先度が高くなります。
[4]	辞書読み専用
	辞書ファイルを READ_ONLY (読取専用) にするかを指定します。 【選択項目】
	ON 読み取り専用にする
	OFF 読み取り専用にしない (書き込み可)

表 6-7 辞書追加ウィンドウ (続き)

[5]	頻度読み専用
	頻度ファイルを READ_ONLY (読取専用) にするかを指定します。
	【選択項目】
	ON 読み取り専用にする
	OFF 読み取り専用にしない(書き込み可)
[6]	辞書パスワード
	辞書ファイルには、必要に応じてパスワードによる制限をかけることができます。ここでパスワードを記述したファイル名を指定します。ASCII 文字(半角カタカナを除く半角文字) 255 文字まで入力できます。「参照」ボタンからファイルを選択することも可能です。
[7]	頻度パスワード
	頻度ファイルには、必要に応じてパスワードによる制限をかけることができます。ここでパスワードを記述したファイル名を指定します。ASCII 文字(半角カタカナを除く半角文字) 255 文字まで入力できます。
	「参照」ボタンからファイルを選択することも可能です。
[8]	辞書の種類
	辞書を正引き変換に使用するか、逆引き変換に使用するかを指定します。
[9]	「OK」ボタン
	変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。変更された内容は「辞書一覧」に反映されます。
[10]	「キャンセル」ボタン
	変更した設定を破棄して、このウィンドウを閉じます。
[11]	「ヘルプ」ボタン
	「辞書追加」についてのオンラインヘルプを表示します。

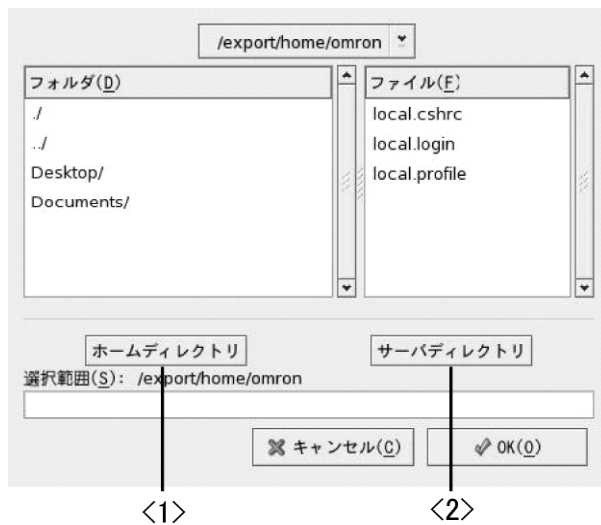
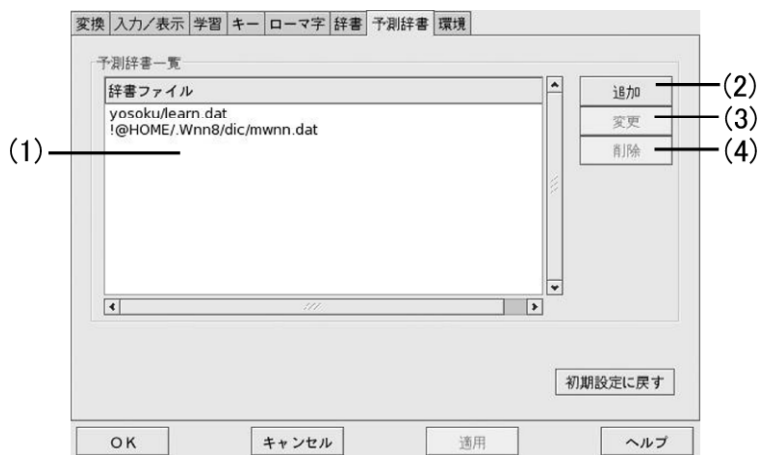


表 6-8 ファイル選択画面

<1>	「ホームディレクトリ」ボタン ホームディレクトリに移動します。
<2>	「サーバディレクトリ」ボタン サーバ側の辞書ディレクトリに移動します。

予測辞書

予測関連辞書の設定を行います。



(1) 予測辞書一覧

入力予測で使用する辞書の一覧を表示します。

(2) 追加ボタン

入力予測で使用する辞書を追加します。

このボタンをクリックすると、予測辞書追加ウィンドウが表示されます。詳しくは、表 6-9 「予測辞書追加ウィンドウ」を参照してください。

(3) 変更ボタン

予測辞書の設定内容を変更します。

予測辞書一覧から変更したい辞書を選択し、このボタンをクリックすると辞書変更ウィンドウが表示されます。

各項目については「予測辞書追加ウィンドウ」と同じです。



(4) 削除ボタン

入力予測で使用する辞書を削除します。

予測辞書一覧から削除したい辞書を選択し、このボタンをクリックすると辞書設定が削除されます。辞書ファイルそのものは削除されません。

(5) 「初期設定に戻す」ボタン

各項目の設定を出荷時状態に戻します。

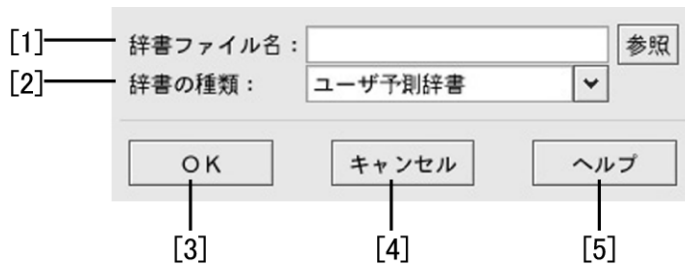
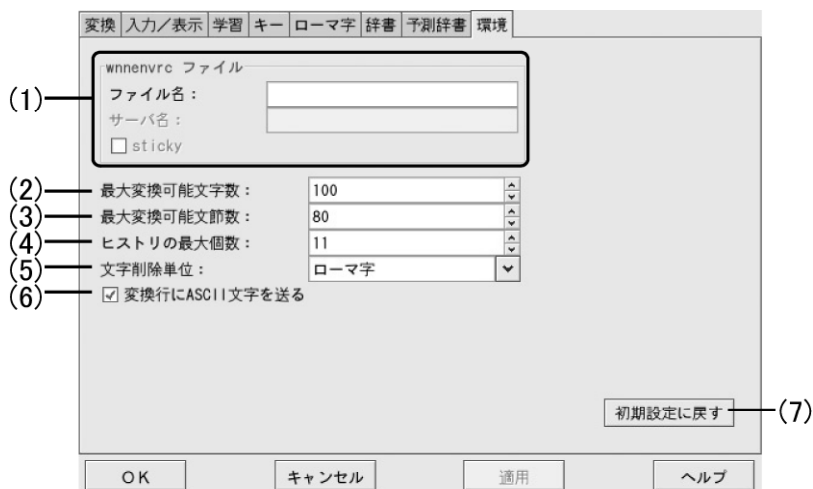


表6-9 予測辞書追加ウィンドウ

[1]	辞書ファイル名				
	使用する予測辞書のファイル名を入力します。				
[2]	辞書の種類				
	予測辞書の種類を指定します。 ※ ユーザー予測辞書は複数指定することはできません。 【選択項目】				
	<table border="0"> <tr> <td>ユーザー予測辞書</td> <td>書き込み(登録)可能な予測辞書</td> </tr> <tr> <td>通常予測辞書</td> <td>読み込み専用の予測辞書</td> </tr> </table>	ユーザー予測辞書	書き込み(登録)可能な予測辞書	通常予測辞書	読み込み専用の予測辞書
ユーザー予測辞書	書き込み(登録)可能な予測辞書				
通常予測辞書	読み込み専用の予測辞書				
[3]	「OK」ボタン				
	変更した設定を有効にして、ウィンドウを閉じます。				
[4]	「キャンセル」ボタン				
	設定を破棄してウィンドウを閉じます。				
[5]	「ヘルプ」ボタン				
	「予測辞書追加」についてのオンラインヘルプを表示します。				

環境

このページでは、かな漢字変換環境の設定を行います。



(1) **wnnenvrc ファイル**

環境設定ファイル「wnnenvrc」を標準のディレクトリ以外に配置している場合にここで指定します。詳しくは、表 6-10「wnnenvrc ファイル名を指定」を参照してください。

(2) **最大変換可能文字数**

最大変換可能文字数を指定します。
1～511 の範囲の数字で指定します。

(3) **最大変換可能文節数**

最大変換可能文節数を指定します。
1～400 の範囲の数字で指定します。

(4) **履歴の最大個数**

履歴を最大何個まで記憶するかを指定します。
1～127 の範囲の数字で指定します。

(5) **文字削除単位**

入力した文字を削除するときの、削除する単位を指定します。
【選択項目】

	ローマ字	ローマ字入力のアルファベット単位で削除する
	かな	日本語文字単位で削除する
(6)	変換行に ASCII 文字を送る	
	変換行が空のとき、アスキー文字列を変換行に送るかを指定します。	
	【選択項目】	
	チェック時	変換行にアスキー文字列を送る
	未チェック時	変換行にアスキー文字列を送らない
(7)	「初期設定に戻す」ボタン	
	各項目の設定を出荷時状態に戻します。	



表 6-10 wnnenvrc ファイル名を指定

[1]	ファイル名	wnnenvrc ファイル名を指定します。 ASCII 文字 (半角カタカナを除く半角文字) 255 文字まで入力できます。
[2]	サーバー名	接続する jserver ホスト名を指定します。(省略可) ASCII 文字 (半角カタカナを除く半角文字) 255 文字まで入力できます。「ファイル名」が入力されたときのみ、指定可能になります。
[3]	sticky	ON にするとクライアント終了後も環境が記憶され、次の起動速度が短縮されます。「ファイル名」が入力されたときのみ、指定可能になります。

システム環境設定

システム環境設定ツールでは、システム全体の環境設定を行えます。

複数のユーザーで利用する場合、共通の標準設定とすることが可能です。

ヒント-ユーザー環境設定とシステム環境設定

システム環境設定とユーザー環境設定の設定項目内容は同じです。

各クライアントは、起動時に「ユーザー環境設定」→「システム環境設定」→「出荷時設定」の順で検索し、最初に見つかった設定を使用します。

従って、各ユーザーがユーザー環境設定を行った時点でシステム環境設定は無効となります。ユーザー環境設定を行っていないユーザーや新規に Wnn8 を利用するユーザーに対しては、システム環境設定の内容が初期値となります。

システム環境設定ツールの起動方法

システム環境設定ツール `wnnsysenv_client` はコマンドラインから起動します。

X Window System を起動し、ターミナルエミュレータ上から root ユーザーにてコマンド実行してください。起動は root ユーザーのみが行えます。

```
# wnnsysenv_client
```



注意-システム環境設定ツールで変更した設定内容は、各設定ファイルには保存されませんが稼働中のクライアントにまでは反映されません。

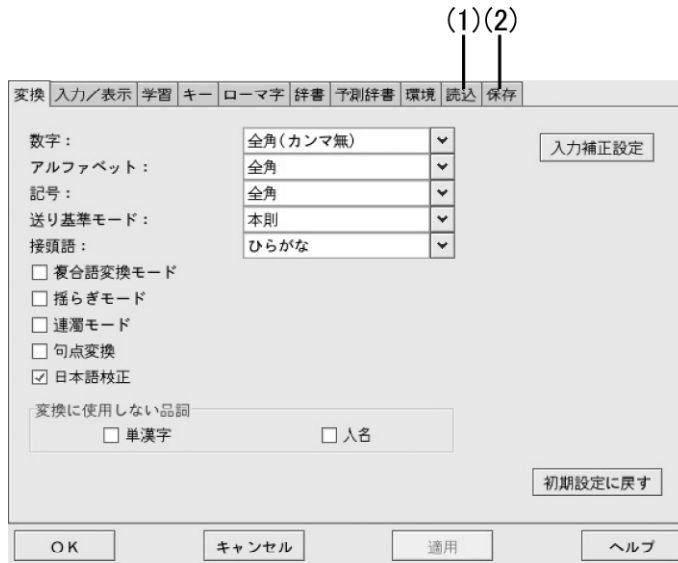
設定変更後は各クライアントを再起動するか、wnn8le の場合はメニューより「設定反映」を実行してください。

システム環境設定ツールの各部名称と役割

共通操作

システム環境設定ツールのすべてのタブで共通で使えるものです。

基本的な画面や設定方法はユーザー環境設定ツールと同じですので、詳細は「[ユーザー環境設定](#)」を参照してください。ここではシステム環境設定ツール独自の機能についてのみ解説します。



-
- (1) 「読込」タブ
設定ファイルを指定して読み込みます。
-
- (2) 「保存」タブ
設定ファイルを指定して保存します。
-

読込

このページで設定ファイルを指定して読み込むことができます。



(1) 設定ファイル種別選択

読み込む設定ファイル種別を指定します。

指定できるファイルは以下のとおりです。

wnnenvrc

uumrc

ximrc

uumkey

2B_ROMKANA

(2) ファイル名

読み込むファイル名を指定します。

ASCII文字(半角カタカナを除く半角文字)127文字まで入力できます。

「参照」ボタンからファイル選択画面を起動し、ファイルを選択することも可能です。

(3) 「読込」ボタン

指定したファイルを読み込みます。

保存

設定ファイルを指定して保存することができます。



(1) 設定ファイル種別選択

保存する設定ファイル種別を指定します。

指定できるファイルは以下のとおりです。

wnnenvrc

uumrc

ximrc

uumkey

2B_ROMKANA

(2) ファイル名

保存するファイル名を指定します。

ASCII 文字 (半角カタカナを除く半角文字) 127 文字まで入力できます。

「参照」ボタンからファイル選択画面を起動し、ファイルを選択することも可能です。

(3) 「保存」ボタン

指定したファイルに設定を保存します。

サーバー環境設定

サーバー環境設定ツールでは、`jserver`の動作に関する設定を行うことができます。設定できる項目は、`jserver`基本設定と、アクセス制御です。

サーバー環境設定ツールの起動方法

サーバー環境設定ツール `wnnsysenv_server` はコマンドラインから起動します。

X Window System を起動し、ターミナルエミュレータ上から `root` ユーザーにてコマンド実行してください。起動は `root` ユーザーのみが行えます。

```
# wnnsysenv_server
```

サーバー環境設定ツールの各部名称と役割

共通操作

以下の機能は、サーバー環境設定ツールのすべてのタブで共通で使えるものです。



(1) 「jservice 基本設定」タブ

jservice の動作環境についての設定を行います。

(2) 「アクセス制御」タブ

jservice にアクセス制限を施す場合、ここで設定を行います。

(3) 「読込」タブ

標準以外のディレクトリにある設定ファイルを読み込むことができます。

(4) 「保存」タブ

標準以外のディレクトリに設定ファイルを保存することができます。

(5) 「OK」ボタン

変更内容を保存してサーバー環境設定ツールを終了します。

(6) 「キャンセル」ボタン

変更内容をすべて破棄してサーバー環境設定ツールを終了します。

(7) 「適用」ボタン

サーバー環境設定ツールを終了せずに、変更内容の保存のみを行います。設定を変更した場合のみ有効になります。

(8) 「ヘルプ」ボタン

表示されているページについてのオンラインヘルプを表示します。



注意-サーバー環境設定ツールで変更した設定内容は、各設定ファイルには保存されませんが稼動中の jserver にまでは反映されません。

設定変更後は jserver を再起動してください。

jserver 基本設定

jserver の動作環境の設定を行います。



(1) 辞書ディレクトリ

jserver が使用する辞書が格納されているディレクトリパスを指定します。「起動時に読み込む辞書」一覧に表示される辞書は、このディレクトリパス以下に存在するものになります。

なお初期設定にある「@VARDIR」は、標準の辞書ディレクトリを示します。

ASCII 文字(半角カタカナを除く半角文字)127文字まで入力できます。「参照」ボタンからファイル選択画面を起動し、ファイルを指定することも可能です。

(2) 「起動時に読み込む辞書」一覧

jsrver が起動時に読み込む辞書の一覧が表示されています。

ディレクトリパスは省略表示されますが、実際のパスには「辞書ディレクトリ」での設定が付加されます。

ヒント-ここで指定する辞書は、"jsrver が起動時に読み込む" 辞書です。

実際にかな漢字変換に使用する辞書は「ユーザー環境設定」などで指定された辞書であり、"クライアントの起動時"に読み込まれます。

必ず使用するシステム辞書などを jsrver が事前に読み込んでおくことにより、クライアントの起動処理を高速化できます。ただし常に辞書データを保持しますので、ここで指定する辞書が増えるほどより多くのシステムリソースを消費することになります。

(3) 「追加」ボタン

jsrver が起動時に読み込む辞書を一覧に追加します。

ファイル選択画面から追加する辞書ファイルを選択します。

(4) 「変更」ボタン

辞書の設定内容を変更します。

「起動時に読み込む辞書」一覧から変更したい辞書を選択して、このボタンをクリックするとファイル選択画面が表示されます。そこでファイルを選択するか、ファイル名を直接入力します。

(5) 「削除」ボタン

「起動時に読み込む辞書」一覧から辞書を削除します。

「起動時に読み込む辞書」一覧から削除する辞書を選択し、このボタンをクリックします。

(6) 辞書 OnDisk 機能を使用する

辞書 OnDisk 機能を使用するかを指定します。

通常、辞書はメモリ上に読み込んで利用しますが、辞書 OnDisk 機能を使用するとメモリ上に読み込む量を減らし、メモリ上に無い語句が変換されたときだけ辞書ファイルにアクセスしてメモリ上に読み込みます。変換スピードは多少低下しますが、メモリ使用量を削減することができます。

(7) 固定化できる環境数

固定化できる環境の最大数を指定します。

環境の固定化とは、「ユーザー環境設定」における sticky 指定のことです。1 から 256 の範囲の数字で指定できます。

(8) 擬似品詞「英数」に追加する文字

英数字に加えて、擬似品詞「英数」として、変換に使用される文字、もしくは文字コードを指定します。

半角スペースで区切り、20個まで指定できます。

(9) 自動保存確定回数

ここで指定された回数分の確定を行うと、辞書の更新情報をユーザー辞書ファイルに自動的に書き込み保存します。

0～1024の範囲の数値が指定できます。0を指定した場合は自動保存を行いません。

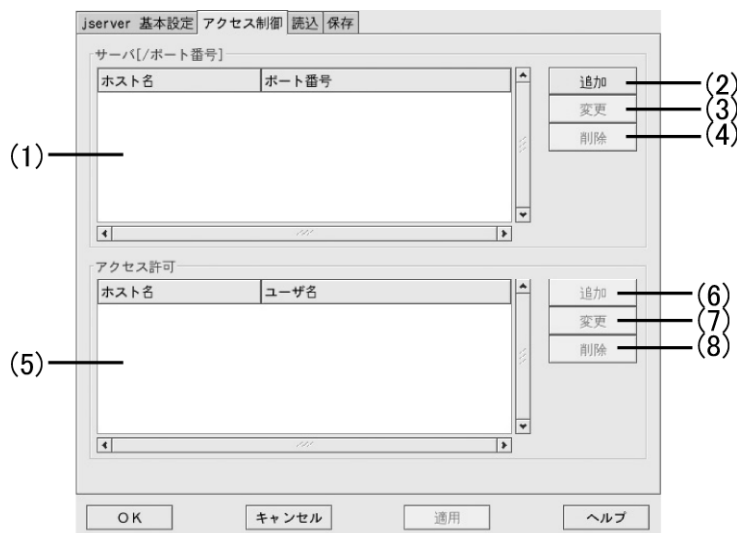
(10) 「初期設定に戻す」ボタン

各項目の設定を出荷時状態に戻します。

アクセス制御

初期状態では、ネットワーク上の全てのユーザーとホストから jserver を利用することが可能です。

もし jserver を利用するユーザーやホストを制限する必要があるれば、アクセス制御を行います。50のサーバーと、1サーバーにつき計50のホストとユーザーが登録できます。



(1) サーバー一覧

アクセス制御が設定されているサーバーとポート番号の一覧が表示されます。

(2) 「追加」ボタン

アクセス制御を行うサーバーを追加します。

このボタンをクリックすると、サーバー追加ウィンドウが表示されます。詳しくは、表 6-11 「サーバー追加ウィンドウの説明」を参照してください。

(3) 「変更」ボタン

登録済みのサーバー設定を変更します。

「サーバー」一覧から変更したいサーバーを選択し、このボタンをクリックすると、サーバー変更ウィンドウが表示されます。

各部の名称と詳細は、サーバー追加ウィンドウと同じです。

(4) 「削除」ボタン

「サーバー」一覧からサーバーを削除します。

「サーバー」一覧から削除したいサーバーを選択し、このボタンをクリックするとリストから削除されます。

(5) 「アクセス許可」一覧

「サーバー」一覧で選択したサーバーに設定されている、アクセスを許可するホスト名とユーザー名が表示されます。

(6) 「追加」ボタン

「サーバー」一覧で選択されているサーバーに対し、アクセスを許可するホストとユーザーを追加します。

このボタンをクリックすると、アクセス許可追加ウィンドウが表示されます。詳しくは、表 6-12 「アクセス許可追加ウィンドウの説明」を参照してください。

ヒント-ホスト名とユーザー名の組み合わせ

ホスト名のみを設定した場合、そのホスト上の全てのユーザーがアクセス可能になります。ユーザー名のみを設定した場合、そのユーザーはネットワーク上の全てのホストからアクセス可能になります。

ホスト名とユーザー名を同時に設定した場合は、そのホストからは指定したユーザーのみがアクセス可能となります。

(7) 「変更」ボタン

ホスト名/ユーザー名によるアクセス許可の設定内容を変更します。

「アクセス許可」一覧から変更したいホスト名/ユーザー名の設定を選択してこのボタンをクリックすると、アクセス許可変更ウィンドウが表示されます。

各部の名称と詳細は、「アクセス許可追加」画面と同じです。

(8) 「削除」ボタン

ホスト名/ユーザー名によるアクセス許可の設定内容を削除します。

「アクセス許可」一覧から削除したいホスト名/ユーザー名の設定を選択してこのボタンをクリックすると、その設定が削除されます。

表 6-11 サーバー追加ウィンドウの説明

[1]	ホスト名
	アクセス制御を設定するサーバーのホスト名を指定します。 ASCII 文字 (半角カタカナを除く半角文字) 255 文字まで入力できます。
[2]	ポート番号
	指定したサーバー上で動作する jserver のポート番号を指定します。0 から 65535 の数値で指定できます。 省略した場合、jserver 標準の 22273 が適用されます。
[3]	「OK」ボタン

表 6-11 サーバー追加ウィンドウの説明 (続き)

	変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。 追加した内容は「サーバー」一覧に反映されます。
[4]	「キャンセル」ボタン 設定を破棄して、このウィンドウを閉じます。
[5]	「ヘルプ」ボタン 「サーバーの追加」についてのオンラインヘルプを表示します。

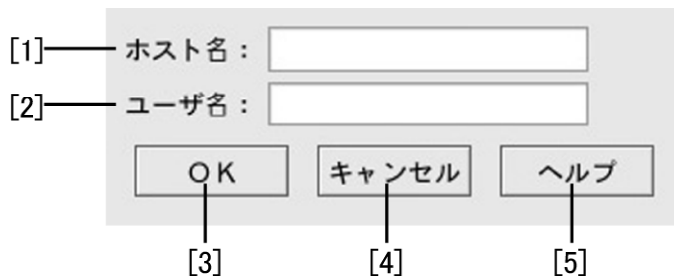


表 6-12 アクセス許可追加ウィンドウの説明

[1]	ホスト名 アクセス許可対象のホスト名を指定します。 ASCII 文字 (半角カタカナを除く半角文字) 255 文字まで入力できます。
[2]	ユーザー名 アクセス許可対象のユーザー名を指定します。 ASCII 文字 (半角カタカナを除く半角文字) 255 文字まで入力できます。 「ホスト名」を設定した場合は複数のユーザー名を指定できます。ユーザー名を";"(コンマ)で区切って入力してください。ユーザー名のみを指定する場合は、個別に追加処理を行います。
[3]	「OK」ボタン 変更した設定を有効にして、このウィンドウを閉じます。 設定内容は「アクセス許可」一覧に反映されます。
[4]	「キャンセル」ボタン 設定を破棄して、このウィンドウを閉じます。
[5]	「ヘルプ」ボタン

表 6-12 アクセス許可追加ウィンドウの説明 (続き)

「アクセス許可の追加」についてのオンラインヘルプを表示します。

読込

標準のディレクトリ以外に保存された設定ファイルを指定して、読み込むことができます。



(1) 設定ファイル種別選択

読み込む設定ファイル種別を指定します。以下の設定ファイルが指定できます。

jservice

wnnhosts

(2) ファイル名

読み込むファイル名を指定します。

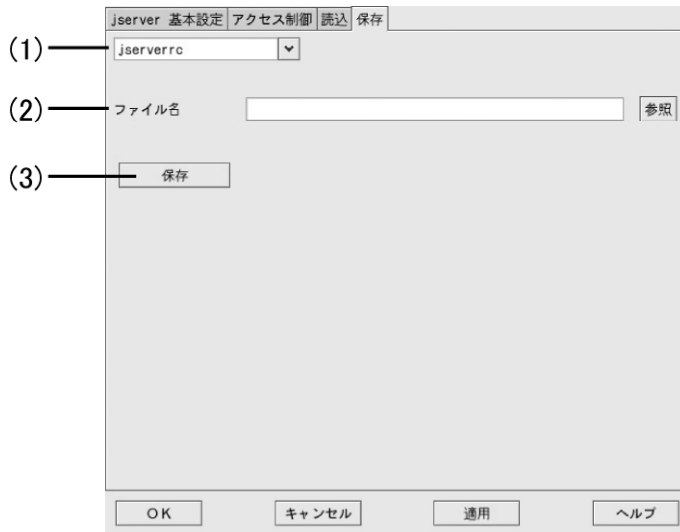
ASCII文字(半角カタカナを除く半角文字)127文字まで入力できます。「参照」ボタンからファイル選択画面を起動し、ファイルを指定することも可能です。

(3) 「読込」ボタン

指定したファイルを読み込みます。

保存

設定ファイルを標準のディレクトリ以外に指定して保存することができます。



(1) 設定ファイル種別選択

保存する設定ファイル種別を指定します。

以下の設定ファイルが指定できます。

jservice

wnnhosts

(2) ファイル名

保存するファイル名を指定します。

ASCII文字(半角カタカナを除く半角文字)127文字まで入力できます。「参照」ボタンからファイル選択画面を起動し、ファイルを指定することも可能です。

(3) 「保存」ボタン

指定したファイルに設定を保存します。

◆◆◆ 第 7 章

ライセンス管理

この章では Wnn8 のライセンス管理の概要と実行コマンドおよび設定ファイルについて説明します。

ライセンス管理の概要

Wnn8 では、「ライセンスサーバ dpkeyserv」によってライセンスを管理しています。

ライセンスサーバーによるライセンス管理

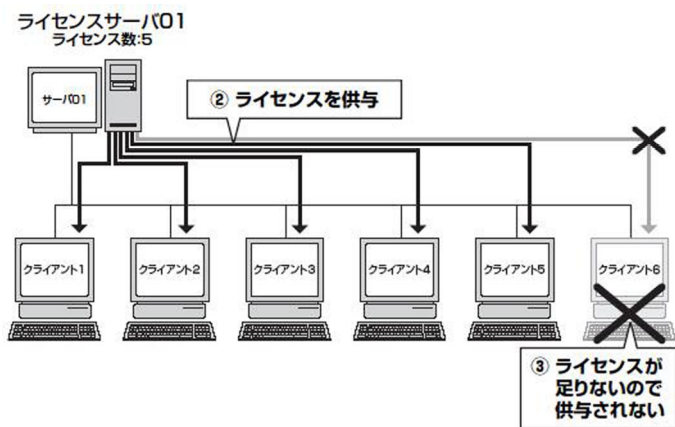
ネットワーク上で同時に使用されるクライアントソフトウェアの使用許諾数を、一括で管理するのが「ライセンスサーバ dpkeyserv」です。

入力クライアントアプリケーションが起動すると、まず「かな漢字変換サーバ jserver」に接続します。クライアントからの接続要求を受けた jserver は、dpkeyserv にライセンスの供給を依頼します。

dpkeyserv はライセンス数に空きがあれば jserver にライセンスを供給します。これでクライアントによるかな漢字変換が可能になります。

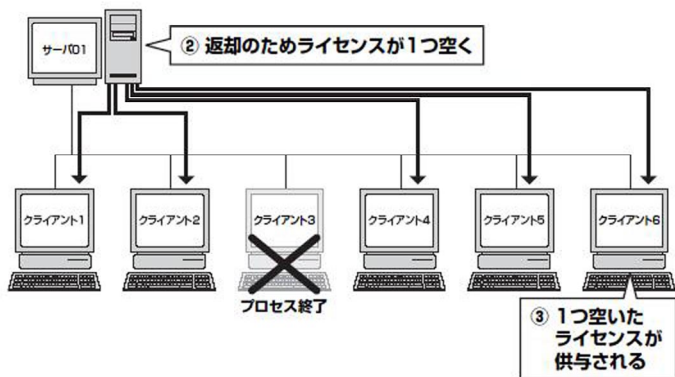
ヒント-ライセンスサーバーは他のオムロンソフトウェア株式会社製ソフトウェアでも共用できます

ライセンスサーバーは、「eWnn」など他のオムロンソフトウェア株式会社ソフトウェア製品のライセンス管理も行うことができます。ソフトウェア許諾リスト dpkeylist に、それらのソフトウェアのパスワードを追記する事により、ライセンスの一元管理が可能になります。ただし Wnn6 および Wnn7 のパスワードは無視されますのでご注意ください。



もし全てのライセンスを既に消費していた場合は、ライセンスの供給は行われず変換不能となります。

使用中のライセンスはクライアントの終了時に解放されますので、起動中の他のクライアントを終了すれば、再びライセンスが供給されるようになります。



注 - Solaris にバンドルされている Wnn8 ライセンス数は5です。Wnn の旧バージョン用の追加ライセンスは、Wnn8 では使用できません。追加ライセンスのご購入・ご質問は、下記もしくは本製品のご購入先にお問い合わせください。

オムロンソフトウェア株式会社
MS 事業部 営業部
TEL 044-246-6006
FAX 044-246-6011
Email : wnn-info@omronsoft.co.jp

実行コマンド

実行コマンドには、ライセンスサーバーの本体である `dpkeyserv` と、管理コマンドである `dpkeystat` があります。

ライセンスサーバーコマンド (dpkeyserv)

ライセンスサーバーの本体です。ライセンスサーバーは、1 ホストマシン上で1 プロセスのみ起動できます。root ユーザーのみ起動することが可能です。

保存場所

ライセンスサーバーの実体は以下の場所にあります。

```
/usr/lib/wnn/dpkeyserv
```

起動スクリプトによる起動または停止

ライセンスサーバーは通常はシステム立ち上げ時に起動されます。

手動で起動または停止する必要がある場合は、以下のコマンドを実行してください。

```
【起動】 # svcadm enable wnn8/server
```

```
【停止】 # svcadm disable wnn8/server
```

コマンドオプション

`dpkeyserv` は実行時に以下のコマンドオプションが利用できます。

ただし起動スクリプトの実行時には指定できません。

dpkeyserv	[-a dpkeyallow_file]	[-f dpkeylist_file]
	[-l <logfile>]	[-L <logfile>]
	[-t min]	[-v]

- [-a dpkeyallow_file]** アクセス制御リストのファイルパスを指定します。
指定がなければ標準の保存場所を検索します。
- [-f dpkeylist_file]** ソフトウェア許諾リストのファイルパスを指定します。
指定がなければ標準の保存場所を検索します。
- [-l <logfile>]** 通信状況のログを logfile に保存します。
ログファイル名 logfile の引数の省略時には以下の優先順位で対応します。
1. 環境変数 DPKEY_LOGFILE での指定
 2. 環境変数 DPKEYVARDIR 以下の dpkeyserv.log
 3. /var/lib/wnn/dp/dpkeyserv.log
- [-L <logfile>]** 通信パケットのダンプも含めた詳細なログを logfile に保存します。
ログファイル名省略時の対応は、-l オプションと同じです。
- [-t min]** アプリケーションが未使用の状態ここで指定した時間を経過すると、そのライセンスを強制解放します。「分」単位で指定します。
dpkeylist における「未使用時間のタイマー」と同じ機能ですが、-t オプションでは管理する全ソフトウェアに対し有効となります。
- [-v]** バージョンを表示します。

サーバー管理コマンド (dpkeystat)

dpkeyserv にアクセスし、ライセンス消費状況の確認や消費中のライセンスの解放を行うことができます。

保存場所

dpkeystat は以下の場所にあります。

/usr/lib/wnn/dpkeystat

表示内容

dpkeystat 実行時には、まず基本情報が表示されます。

```
localhost : FIW8 : 2 : ----/--/--
```

ホスト名:ソフトウェア名:ライセンス数:有効期限

":"(コロン)で各要素が区切られます。

ホスト名	管理対象となる dpkeyserv が起動しているホスト名です。
ソフトウェア名	ライセンスを供給するソフトウェア名です。
ライセンス数	供給可能なライセンスの最大数です。 ライセンスパスワードで提供されるライセンス数の合計になります。
有効期限	期限付きパスワードを使用している場合は有効期限が表示されま す。正規パスワードの場合は上記例のように期限は表示されませ ん。

ライセンスの供給を受けているクライアントがある場合は、更にそれらの詳細情報が表示されます。

```
localhost : FIW8 : 2 : ----/--/--
LNO  HOST      USR      AP    PID  TIME
  1  hostname  username  FIW8  100  Sat Jan 1 00:00:00 2005
```

LNO	ライセンス番号です。接続されたクライアントの順に自動で割り当てられま す。ライセンスを強制解放する際には、このライセンス番号を指定します。
HOST	クライアントが起動しているホスト名です。
USR	クライアントを起動しているユーザー名です。
AP	供給しているライセンスのソフトウェア名です。
PIO	クライアントのプロセス ID です。
TIME	ライセンスの供給を開始した日時です。

コマンドオプション

dpkeystat は実行時に以下のコマンドオプションが利用できます。

dpkeystat	[-D server_hostname]	[-h client_hostname]	
	[-a software_name]	[-u username]	[-i interval]
	[<-y> license_number]	[-v]	

- [-D server_hostname]** 実行対象となるライセンスサーバーマシンのホスト名を指定します。
- D オプションで指定しない場合は、localhost または dpkeyservlist に登録されているホストが適用されます。
- [-h client_hostname]** 指定されたホストで起動しているクライアントの情報のみを表示します。
- [-a software_name]** 指定されたソフトウェアの情報のみを表示します。
- [-u username]** 指定されたユーザーの情報のみを表示します。
- [-i interval]** 情報表示を interval で指定された間隔で繰り返し行います。
- interval は数値で指定し、単位は「秒」です。
- 停止する場合は Ctrl+C など強制終了してください。
- [<-y> license_number]** 消費中のライセンスを解放します。license_number には、LNO 欄に表示されるライセンス番号を指定します。
- ライセンスの解放前には実行確認を行いますが、-y を同時に指定すると無条件でライセンスを解放します。このオプションの実行にはスーパーユーザーの権限が必要になります。
- [-v]** バージョンを表示します。

設定ファイル

設定ファイルは3種類あります。ライセンスそのものの管理以外に、サーバーやクライアントの制御を行うことができます。

ソフトウェア許諾リスト (dpkeylist)

ライセンスパスワードを記述します。ライセンスを管理する上で、最も重要なファイルです。dpkeylist は、通常 Wnn8 のインストール時に自動的に設定されます。

保存場所

下記の標準ディレクトリパスで運用してください。

標準以外のパスに設置した場合、dpkeyserv の起動オプションで指定する必要があります。

/etc/wnn/dp/dpkeylist

書式

FIW8:2:1234567890ABCDEFGHIJKLMNQRSTUUVWX:10

ソフトウェア名：ライセンス数：パスワード [：未使用時の解放タイマー]

": "(コロン) で各要素が区切られています。

ソフトウェア名	Wnn8 for Solaris の場合は「FIW8」となります。
ライセンス数	この数値が使用可能なライセンス数の上限となります。
パスワード	パスワードの本体です。 1文字でも誤りがあるとエラーになります。
未使用時の解放タイマー (オプション)	クライアントが未使用の状態のままここで指定した時間を経過すると、自動的にライセンスを強制解放します。 単位は「分」です。必要に応じて設定してください。
	ヒント-
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンスパスワードの文字列は、全て半角英数字の"大文字"で記述します。 それ以外の文字種は使用できません。 ■ アルファベットの"O"(オー)と"I"(アイ)は使用しません。

編集方法

root ユーザーになり、お好みのテキストエディタで直接編集してください。

パスワードは全て「半角英数字の大文字」になります。

なお、行頭に"#"(シャープ)をつけるとコメント行となり認識されません。

行の途中に"#"があった場合も、以降の記述はコメント扱いになります。

ヒント-ライセンスパスワードの追加手順

追加ライセンスパスワードを入手された場合、手動で `dpkeylist` にパスワードを登録する必要があります。作業は全て `root` ユーザーにて行ってください。

- 稼働中の `dpkeyserv` を終了します。

```
# svcadm disable wnn8/server
```

- お好みのテキストエディタで `dpkeylist` を開きます。
- 既に記載されているパスワードの次行として、追加パスワードを記述します。追加するパスワードが2つ以上ある場合も、同様に次行として順次追加していきます。

例)

```
FIW8:5:1234567890ABCDEFGHIJKLMNPQRSTUVWXYZ
```

```
FIW8:1:ABCDEFGHIJKLMNPQRSTUVWXYZ1234567890
```

- ファイルを保存して、テキストエディタを閉じます。
- `dpkeyserv` を起動します。

```
# svcadm enable wnn8/server
```

`dpkeystat` では同じソフトウェアのライセンスは合算して表示されます。

この例では5ライセンスに1ライセンス分のパスワードを追加しましたので、合計6ライセンスとして表示されます。

```
# dpkeystat
```

```
localhost:FIW8:6:----/--/--
```

- 追加したパスワードが正しく反映されているか、`dpkeystat` で確認します。
-

アクセス制御リスト (`dpkeyallow`)

ライセンスサーバーに接続できるクライアントホストを制限することができます。`dpkeyallow` は初期状態では存在しませんので、必要に応じて新規に作成してください。

保存場所

下記の標準ディレクトリパスで運用してください。

標準以外のパスに設置した場合、`dpkeyserv` の起動オプションで指定する必要があります。

```
/etc/wnn/dp/dpkeyallow
```


書式

ライセンスサーバーへの接続を許可するクライアントホスト名を、1行ずつ列記します。

半角英数字のみ使用できます。

```
hostname1
```

```
hostname2
```

```
hostname3
```

これでネットワーク上の hostname1、hostname2 および hostname3 からの接続のみ許可され、他のホストへのライセンスの供給は行われなくなります。

編集方法

root ユーザーになり、お好みのテキストエディタで直接編集してください。

なお、行頭に "#" (シャープ) をつけるとコメント行となり認識されません。

行の途中に "#" があっても、以降の記述はコメント扱いになります。



注意 - 設定の追加 / 変更後は、dpkeysserv を再起動してください。

再起動後に変更内容が反映されます。

サーバーアクセスリスト (dpkeysservlist)

dpkeysservlist を設定することにより、ネットワーク上の複数のライセンスサーバーホストを巡回することができます。

標準のライセンスサーバーホストに障害やライセンス不足が発生し、ライセンスの供給が受けられなくなった場合、別のサーバーホストに自動的にアクセスすることができます。

dpkeysservlist は初期状態では存在しませんので、必要に応じて新規に作成してください。

保存場所

「jserver が稼動するホスト」の下記の標準ディレクトリパスで運用してください。

```
/etc/wnn/dp/dpkeysservlist
```

ヒント - dpkeysservlist を参照するのは jserver です。

jserver がライセンスの供給依頼を発行する際に、ここで設定された順でライセンスサーバーホストにアクセスしていきます。

従って、必ず jserver の稼動するホスト上に配置してください。また dpkeysservlist 作成後は、そこで設定されたサーバーホストのみ参照する様になりますので注意してください。

書式

dpkeysservlist には、ネットワーク上で稼動するライセンスサーバーホストのホスト名を 1 行ずつ列記します。記述された順にアクセスされます。

serverhost1

serverhost2

serverhost3

この例では、serverhost1 からライセンスを取得できなかった場合に、serverhost2、serverhost3 の順でライセンスを要求していきます。

ローカルマシン上でも dpkeysserv が稼動している場合は、先頭に localhost と記述してください。記述がない場合はローカルマシンの dpkeysserv を参照しなくなります。

localhost

sesrverhost1

sesrverhost2

:

困ったときは？

この章では問題を解決するための追加情報を記載しています。

解決方法

付録

各コマンドや設定ファイル、キーバインドなどの詳細については、本書の付録を参照してください。

よくある質問

比較的多く寄せられる質問内容とその回答は、オムロン社 Web サイトにまとめて掲載しています。下記アドレスよりアクセスしてください。

<http://www.omronsoft.co.jp/SP/support/pcunix/wnn8/faq/index.html>

実行コマンド

wnnstat

wnnstat は、jserver の利用状況を確認するコマンドです。

jserver の稼働状況やユーザーの利用状況、辞書の使用状況を確認することができます。

ファイルパス:

/usr/bin/wnnstat

起動オプション:

```
wnnstat [-w] [-e] [-E] [-f] [-F] [-d] [-D] [-L] [-J] [-U]
        [-S] [-v] hostname[:/]No
```

-w ユーザー名、(使用)ホスト名、ソケット番号、環境番号を表示します。

オプション未指定時のデフォルトになります。

```
$ wnnstat -w
```

ユーザー名:ホスト名	(ソケットNo.)	環境番号
------------	-----------	------

user1:hostA	(0)	0 1
user2:hostB	(1)	2 3

-e 環境番号、環境名、参照数を表示します。

\$ wnnstat -e

ENV No.	環境名	参照数
0	user3	1
1	user3R	1

-E 環境番号、環境名、参照数、付属語、辞書数(辞書番号)、ファイル名を表示します。

\$ wnnstat -E

ENV No.	環境名	参照数	付属語	辞書数(辞書 No.)	ファイル
0	user3	1	10	28 (0 1 2 33 ...)	10 1 24 25 2
1	user3R	1	10	0()	26 3 ...

-f -F 辞書ファイル ID、種類、場所、参照数、ファイル名を表示します。

\$ wnnstat -F

Fid	種類	場所	参照数	ファイル名
1	FI 辞書	LOCAL	2	/var/lib/wnn/dic/system/fisd
2	辞書	LOCAL	2	/var/lib/wnn/dic/system/kihon.dic
		LOCAL		
		:		

-d 辞書番号、種類、ニックネーム、body、ファイル名を表示します。

\$ wnnstat -d

No.種類	ニックネーム	ファイル名
2:固定	基本辞書 (Wnn8R1.01)	2:/var/lib/wnn/dic/system/kihon.dic(26)
3:固定	記号辞書(Wnn8R1.01)	3:/var/lib/wnn/dic/system/symbol.dic(27)
	:	

-D 辞書番号、種類、正/逆変換、語数、辞書(頻度)ファイル更新の不可、使用の不可、プライオリティ、ニックネーム、body、辞書(頻度)ファイル名、辞書(頻度)パスワードを表示します。

\$ wnnstat -D

No.種類	正/逆	語数	更新(頻)使用	プライオリティ	[ニックネーム]
2:固定	正変換	156613	不(可)中	6	基本辞書(Wnn8R1.01)
3:固定	正変換	854	不(可)中	1	記号辞書(Wnn8R1.01)
	:				

-LLANG LANGで指定した言語に対応する変換サーバーの使用状況を表示します。デフォルトはja_JP(jsrver)です。

-J 表示内容をJISコードで出力します。

-U 表示内容をEUCコードで出力します。

-S 表示内容をS-JISコードで出力します。

-v バージョン情報を表示します。

hostname[:/]No 変換サーバーが稼働するホスト名を"hostname"で、ポート番号を"No"で指定します。

:Noと指定すると相対ポート番号となり、jsrverの標準ポート番号(22273)にNoを加えた値をポート番号とします。たとえば:1とした場合は22274が使用されます。

/Noと指定すると絶対ポート番号となり、Noの値をそのままポート番号として使用します。

それぞれ省略時はlocalhostの標準ポート(22273)が適用されます。

wnnenvutil

wnnenvutil は、Wnn8 のユーザー環境設定を行うツールです。

設定した内容は、各ユーザーの \$HOME/.Wnn8 以下のファイルに保存されます。

ファイルパス:

/usr/bin/wnnenvutil

起動オプション:

```
wnnenvutil [-v]
```

-v バージョン情報を表示します。

wnndictutil

wnndictutil は、ユーザー辞書の編集を行うツールです。

単語の登録や削除 / 編集をはじめ、辞書コンバートなどの機能が搭載されています。

ファイルパス:

/usr/bin/wnndictutil

起動オプション:

```
wnndictutil [-D hostname:No] [-E envname] [-v]
```

-D hostname[:/]No 変換サーバーが稼働するホスト名を "hostname" で、ポート番号を "No" で指定します。

:No と指定すると相対ポート番号となり、jserver の標準ポート番号 (22273) に No を加えた値をポート番号とします。たとえば :1 とした場合は 22274 が使用されます。

/No と指定すると絶対ポート番号となり、No の値をそのままポート番号として使用します。

それぞれ省略時は localhost の標準ポート (22273) が適用されます。

- E 使用する環境名を envname で指定します。
使用中の環境名は wnnstat コマンドで確認できます。
- v バージョン情報を表示します。

wnndtoa

wnndtoa は、Wnn8 バイナリ形式の辞書を Wnn8 テキスト形式辞書に変換するコマンドです。

通常 jserver が読み込む辞書はバイナリ形式ですが、テキスト形式に変換することにより、ユーザーが直接編集することが可能になります。

ファイルパス:

/usr/bin/wnndtoa

起動オプション:

```
wnndtoa [-e] [-h hinsi_file] [-n] [-s No] [-v] dicfile
```

- e 読みと候補が同一 (ひらがなのみの候補) の場合、読みから候補データを検索できるようにします。
これにより、辞書のサイズを小さくすることができます。
- h hinsi_file 使用する品詞データファイル名を hinsi_file で指定します。
省略時には標準の品詞データファイルが適用されます。
- n テキスト形式辞書を登録順にソートします。
- s No 辞書に付加するシリアル番号を No で指定します。

- v バージョン情報を表示します。
- dicfile 変換対象となるバイナリ辞書ファイル名を指定します。

実行例

```
$ wnndtoa ud
```

ユーザー辞書 ud をテキスト形式に変換し、標準出力に表示します。

```
$ wnndtoa ud > ud.txt
```

ユーザー辞書 ud をテキスト形式に変換し、ud.txt に保存します。

wnnatod

wnnatod は、Wnn8 テキスト形式の辞書ファイルを Wnn8 バイナリ形式辞書に変換するコマンドです。

ユーザーが任意に作成したテキスト辞書をバイナリ形式辞書に変換することにより、jserver による読み込みが可能になります。

ただし、変換元となるテキスト形式辞書は、Wnn8 の辞書フォーマットに準拠し、EUC コードで作成されている必要があります。

ファイルパス:

/usr/bin/wnnatod

起動オプション:

```
wnnatod [-e] [-h hins_i_file] [-n] [-N] [-p filename] [-P filename]
        [-r] [-R] [-s No] [-S] [-v] dicfile
```

- e 読みと候補が同一（ひらがなのみの候補）の場合、読みから候補データを検索できるようにします。

これにより、辞書のサイズを小さくすることができます。

- h hins_i_file 使用する品詞データファイル名を hins_i_file で指定します。

- 省略時には標準の品詞データファイルが適用されます。
- n 頻度パスワードに "*" を設定します。変更不可能な頻度ファイルになります。
 - N 辞書パスワードに "*" を設定します。変更不可能な辞書ファイルになります。
 - p filename 頻度パスワードを記述したファイルを filename で指定します。
 - P filename 辞書パスワードを記述したファイルを filename で指定します。
 - r 変換時に読みと語句を反転します。
 - R 逆変換形式辞書として変換します。省略可能です。
 - s No 辞書内で使用する文字の最大登録数を No で指定します。初期値は 70000 です。
通常は指定の必要はありませんが、指定する場合は辞書の語数より少し大きい数値にしてください。
 - S 固定形式辞書として変換します。
 - v バージョン情報を表示します。
 - dicfile 変換対象となるテキスト辞書ファイル名を指定します。

実行例

```
$ wnnatod new.txt < new.dic
```

テキスト形式辞書 new.txt をバイナリ形式辞書に変換し、new.dic として保存します。



注意 - 作成したバイナリ辞書を Wnn8 標準の辞書ディレクトリ以外に配置する場合は、配置後の辞書ファイルのオーナーとパーミッションに注意してください。

各クライアントソフトウェアのプロセスの権限で読み書きできない場合は、辞書を使用することができなくなります。

jsERVER

jsERVER は、かな漢字変換を行うサーバープログラムです。

ネットワーク上の複数のユーザーにかな漢字変換機能を提供することができます。

jsERVER の起動には root 権限が必要になります。

通常、システム起動時に起動されます。もし、マニュアルで起動または停止する必要がある場合は、以下のコマンドを使用してください。

(起動) `svcadm enable wnn8/server`

(停止) `svcadm disable wnn8/server`

ファイルパス:

`/usr/lib/wnn/jserver`

起動オプション:

```
jserver [-A file] [-f file] [-h file] [-L hostname] [-N No]
        [-pno portNo] [-s file] [-S loglevel] [-v]
```

- A file アクセス許可ファイルとして file を読み込みます。
- f file jserver 起動時の初期化ファイルとして file を読み込みます。
- h file 品詞データファイルとして file を読み込みます。
- L hostname ライセンスサーバーが稼働するマシンのホスト名を hostname で指定します。

省略時には「dpkeyservlist での指定」→「localhost」の順でライセンスサーバーを検索します。
- N No jserver が使用するポートを、相対ポート番号で指定します。

標準のポート番号 22273 (0x5701) に No を加えた値をポート番号に使用します。

たとえば -N 1 とした場合は 22274 が使用されます。
- pno portNo jserver が使用するポートを、絶対ポート番号として portNO で指定します。

たとえば -pno 22276 とした場合は 22276 が使用されます。
- s file jserver のログ情報を file に保存します。

file に "-" を指定した場合は、標準出力になります。
- S loglevel ログレベルを指定し、syslog ファイルにログを保存します。

-v

バージョン情報を表示します。

syslog 出力:

-S オプション指定時は、syslog ファイルへ設定したレベルに従ってメッセージを保存することができます。

出力先ファイルは syslog.conf の設定で変更できます。詳細は syslog に関するドキュメントを参照してください。

表 A-1 ログレベル

値	syslogd のレベル	意味	ログ内容の概略
1	LOG_ERR	エラー	致命的なエラー。システムが終了する状態。
2	LOG_WARNING	ウォーニング	すぐに終了はしないが、最終的にはシステムが終了する状態。
3	LOG_NOTICE	処理した方がよい状態	システムは続行できるがエラーが検出された状態。
4	LOG_INFO	インフォメーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ クライアントの使用開始 / 終了情報 ■ ライセンスの取得先 ■ 辞書の種類 ■ クライアントのタイムアウト ■ バージョン情報 ■ その他
5	LOG_DEBUG	デバッグ用メッセージ	変換した文字とその結果。使用されたプロトコル情報。

表 A-2 レベルの指定方法

入力例	指定内容
-S 1	レベル 1 のログ出力
-S 1,2	レベル 1 と 2 のログ出力
-S 1-4	レベル 1 から 4 (1、2、3、4) のログ出力
-S (レベル省略時)	レベル 4 のログ出力

wnnaccess

wnnaccess は、jserver へのアクセス許可状況の情報表示と設定を行います。

wnnaccess の実行には root 権限が必要になります。

ファイルパス:

/usr/sbin/wnnaccess

出力情報:

オプション未指定で実行した場合、現在のアクセスコントロールの情報が表示されます。

先頭行はアクセスコントロールの ON/OFF の状態を示します。

次行以下は各ホストとユーザーのアクセス許可情報が表示されます。

表示例

host1

host2:

host3: userA,userB

@userC

host1 host1 からは全てのユーザーがアクセス可能です。

host2: host2 からは全てのユーザーがアクセス不可能です。

host3:userA,userB host3 からはユーザー名 userA、userB のみアクセス可能です。

userC userC は全てのホストからアクセス可能です。

起動オプション

```
wnnaccess  [+/- host1:userA,userB... host2... @userC @userD...]  
           [-D servername] [-LLANG] [-v]
```

+hostname:user @user... ホスト名、ユーザー名を指定しない場合は、アクセスコントロールを OFF にします。

	指定した場合は現在のアクセスコントロールにそれらの情報を追加します。
	"+" は省略することができます。
- hostname:user @user...	ホスト名、ユーザー名を指定しない場合は、アクセスコントロールを ON にします。
	指定した場合は現在のアクセスコントロールからそれらの情報を削除します。
-D server_name[:/]No	接続する変換サーバーが稼働するホスト名を "server_name" で、ポートを "No" で指定します。
	:No と指定すると相対ポート番号となり、jserver の標準ポート番号 (22273) に No を加えた値をポート番号とします。たとえば:1 とした場合は 22274 が使用されます。
	/No と指定すると絶対ポート番号となり、No の値をそのままポート番号として使用します。
	それぞれ省略時は localhost の標準ポート (22273) が適用されます。
-L LANG	LANG で指定した言語に対応する変換サーバーに接続します。
	省略時は環境変数 LANG の値が適用されます。
-v	バージョン情報を表示します。

実行例

```
# wnnaccess - host1:usrA,userB
```

host1 に対する userA、userB のアクセス許可情報を削除します。

```
# wnnaccess + @userD
```

userD を全てのホストからアクセス可能にします。

wnnsysenv_server

wnnsysenv_server は、jserver の環境設定を行うツールです。

設定した内容は /etc/wnn 以下のファイルに保存されます。

wnnsysenv_server の起動には root 権限が必要になります。

ファイルパス:

/usr/sbin/wnnsysenv_server

起動オプション:

```
wnnsysenv_server [-v]
```

-v バージョン情報を表示します。

wnnsysenv_client

wnnsysenv_client は、Wnn8 のシステム環境設定を行うツールです。

設定した内容は /etc/wnn 以下のファイルに保存されます。

wnnsysenv_client の起動には root 権限が必要になります。

ファイルパス:

/usr/bin/wnnsysenv_client

起動オプション:

```
wnnsysenv_client [-v]
```

-v バージョン情報を表示します。

設定ファイル

wnnenvrc

wnnenvrc は、Wnn8 を使用する際の「かな漢字変換環境」を設定します。

参照順位:

1. uumrc ファイルの setconvnv での指定 (uumrc の参照順位に準じます)
2. \$HOME/.Wnn8/wnnenvrc (ユーザー設定)
3. /etc/wnn/ja_JP/wnnenvrc (システム設定)
4. /usr/lib/wnn/ja_JP/wnnenvrc (初期設定)

書式:

エントリ 設定値 (設定値) (設定値)...

エントリ 設定値 (設定値) (設定値)...

:

- 「設定値」にはファイル名やパス、数値などが入ります。
- 「エントリ」と「設定値」の間は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- セミコロン (;) ではじまる行はコメントとなります。

エントリー一覧:

エントリー名	書式 設定値 / 設定方法
setdic	<p>setdic system/kihon.dic usr/@USR/kihon.h 610--0</p> <p>setdic 辞書ファイル 頻度ファイル 優先度 辞書 READ 頻度 READ 辞書 passwd 頻度 passwd 正 / 逆引き</p> <p>辞書情報について指定します。</p>
辞書ファイル	辞書ファイル名を指定します。
頻度ファイル	<p>頻度ファイル名を指定します。</p> <p>"-"を指定すると、辞書ファイル側の頻度情報を使用します。</p> <p>辞書ファイル、頻度ファイルのファイル名の先頭に!を付加すると、標準の辞書ディレクトリ以外の辞書を使用できます。</p> <p>例) !@HOME/.Wnn8/dic/kihon.h</p> <p>!@HOMEがホームディレクトリを示します。</p> <p>この例では \$HOME/.Wnn8/dic/kihon.h が使用されます。</p>
優先度	辞書の優先度を10進数で指定します。数値が大きいほど優先されます。

辞書 READ	<p>辞書ファイルを READ_ONLY にするかを数値で指定します。</p> <p>1 READ_ONLY 2 テンポラリ学習 3 グループ辞書 4 マージ辞書 0 上記以外の場合</p> <p>READ_ONLY を指定した場合は辞書情報の更新が行えません。</p> <p>テンポラリ学習の場合はファイル保存時に書き込みを行いません。</p> <p>グループ辞書、マージ辞書は1つの辞書ファイルを複数のユーザーで共有する場合に指定します。</p>
頻度 READ	<p>頻度ファイルを READ_ONLY にするかを数値で指定します。</p> <p>1 READ_ONLY 2 テンポラリ学習 3 グループ辞書</p> <p>READ_ONLY を指定した場合は辞書情報の更新が行えません。</p> <p>テンポラリ学習の場合はファイル保存時に書き込みを行いません。</p>
辞書 passwd	辞書ファイルのパスワードを記述したファイル名を指定します。
頻度 passwd	頻度ファイルのパスワードを記述したファイル名を指定します。
正 / 逆引き	正引きで使用する場合は0を、逆引きで使用する場合は1を指定します。
※ 頻度ファイル以降の指定を省略した場合は、自動的に "-500--0" が適用されます。	

set_fi_system_dic	set_fi_system_dic system/fisd usr/@USR/fisd.h 0 -	
	set_fi_system_dic FI 辞書ファイル FI 頻度ファイル 頻度 READ 頻度 passwd	
	FI 関係システム辞書について指定します。	
	FI 辞書ファイル	FI 関係システム辞書ファイル名を指定します。
	FI 頻度ファイル	指定した辞書に対する頻度ファイル名を指定します。 "."を指定すると頻度更新は行いません。 setdic 同様、先頭に!を指定できます。
	頻度 READ	頻度ファイルを READ_ONLY にするかを数値で指定します。 1 READ_ONLY 2 テンポラリ学習 3 グループ辞書 0 上記以外の場合 それぞれの挙動は setdic と同じです。 グループ辞書は1つの辞書ファイルを複数のユーザーで共有する場合に指定します。
頻度 passwd	頻度ファイルのパスワードを記述したファイル名を指定します。	
set_fi_user_dic	set_fi_user_dic usr/@USR/fiud 0 -	
	set_fi_user_dic FI ユーザー辞書ファイル 辞書 READ 辞書 passwd	
	FI 関係システム辞書について指定します。	
	FI ユーザー辞書ファイル	FI 関係ユーザー辞書ファイル名を指定します。 setdic 同様、先頭に!を指定できます。
	辞書 READ	辞書ファイルを READ_ONLY にするかを数値で指定します。 指定内容は set_fi_system_dic と同じです。
辞書 passwd	辞書ファイルのパスワードを記述したファイル名を指定します。	

muhenkan_gakushuu	muhenkan_gakusyuu usr/@USR/muhenkan 0 15 - 0	
	muhenkan_gakusyuu 無変換学習辞書ファイル 辞書 READ 優先度 辞書 passwd 正 / 逆引き	
	無変換学習辞書について指定します。	
	辞書ファイル	無変換学習辞書ファイル名を指定します。 setdic 同様、先頭に!を指定できます。
	辞書 READ	辞書ファイルを READ_ONLY にするかを数値で指定します。 指定内容は set_fi_system_dic と同じです。
	優先度	辞書の優先度を 10 進数で指定します。数値が大きいほど優先されます。
	辞書 password	辞書ファイルのパスワードを記述したファイル名を指定します。
正 / 逆引き	正引きで使用する場合は 0 を、逆引きで使用する場合は 1 を指定します。	
bunsetsugiri_gakusyuu	bunsetsugiri_gakusyuu usr/@USR/bunsetsu 0 15 - 0	
	bunsetsugiri_gakusyuu 辞書ファイル 辞書 READ 優先度 辞書 passwd かな / 漢字	
	文節切り学習辞書について指定します。	
	辞書ファイル	文節切り学習辞書ファイル名を指定します。 setdic 同様、先頭に!を指定できます。
	辞書 READ	辞書ファイルを READ_ONLY にするかを数値で指定します。 指定内容は set_fi_system_dic と同じです。
	優先度	辞書の優先度を 10 進数で指定します。数値が大きいほど優先されます。
	辞書 password	辞書ファイルのパスワードを記述したファイル名を指定します。
正 / 逆引き	かな漢字変換の場合は 0 を、漢字かな変換の場合は 1 を指定します。	
setfuzokugo	setfuzokugo 付属語ファイル	
setgrammar	setgrammar 付属語ファイル	
	使用する付属語ファイルを指定します。	

setparam	10個の変換パラメータと疑似品詞の頻度が整数値で指定されています。 初期値のままで使用してください。
create_without_confirm	指定された辞書/頻度ファイルが存在しない場合、無条件に新規作成します。 エントリのみ記載します。
saisyu_siyou	最終使用最優先処理を行うかを指定します。 行う場合にはTRUE、行わない場合にはFALSEを指定します。
fukugou_yuusen	複合語優先変換を行うかを指定します。 行う場合にはTRUE、行わない場合にはFALSEを指定します。
okuri_kijun	送り基準処理規則を指定します。 "本則"はREGULATION、"送る"はYES、"送らない"はNOを指定します。
settou_kouho	接頭語初期候補を指定します。 "ひらがな"はHIRAGANA、"漢字"はKANJIを指定します。
rendaku	連濁処理を行うかを指定します。 行う場合はTRUE、行わない場合はFALSEを指定します。
yuragi	長音・揺らぎ処理を行うかを指定します。 行う場合はTRUE、行わない場合はFALSEを指定します。
okuri_gakusyu	送り基準学習を行うかを指定します。 行う場合はTRUE、行わない場合はFALSEを指定します。
settou_gakusyu	接頭語学習を行うかを指定します。 行う場合はTRUE、行わない場合はFALSEを指定します。
setubi_gakusyu	接尾語学習を行うかを指定します。 行う場合はTRUE、行わない場合はFALSEを指定します。
hanyou_gakusyu	一般語学習を行うかを指定します。 行う場合はTRUE、行わない場合はFALSEを指定します。
hindo_kakuritu	頻度学習方法を指定します。 すぐに学習する場合はHIGH、普通学習の場合はNORMAL、スローで学習する場合はLOW、必ず学習する場合はALWAYS、学習しない場合はNOTを指定します。

fi_hindo_kakuritu	FI 関係頻度上昇学習方法を指定します。 すぐに学習する場合は HIGH、普通学習の場合は NORMAL、スローで学習する場合は LOW、必ず学習する場合は ALWAYS、学習しない場合は NOT を指定します。
use_hinsi	変換に使用する品詞名のリストを記述します。 20 個まで指定できます。品詞名は半角スペースまたはタブで区切ります。
unuse_hinsi	変換に使用しない品詞名のリストを記述します。 20 個まで指定できます。品詞名は半角スペースまたはタブで区切ります。
giji_number	疑似数字の変換初期候補を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 漢数字 (単位つき) . . . KANSUUJI ■ 漢数字 (単位なし) . . . KAN ■ 旧漢数字 (単位つき) . . . KANOLD ■ 半角数字 (コンマつき) . . . HANCAN ■ 全角数字 (コンマつき) . . . ZENCAN ■ 半角数字 (コンマなし) . . . HAN ■ 全角数字 (コンマなし) . . . ZEN
giji_eisuu	疑似アルファベットの変換初期候補を指定します。 半角は HAN、全角は ZEN を指定します。
giji_kigou	疑似記号の変換初期候補を指定します。 半角は HAN、JIS 候補は JIS を指定します。
kutouten	句読点入力モードを指定します。 "、。" は TRUE、"、." は FALSE を指定します。
kakko	括弧入力モードを指定します。 "「」" は TRUE、" [] " は FALSE を指定します。
kigou	記号入力モードを指定します。 "・" は TRUE、" / " は FALSE を指定します。
yosoku_use	楽々入力を使用するかを指定します。 使用する場合は TRUE、使用しない場合は FALSE を指定します。
yosoku_max_disp	楽々入力候補一覧の表示数を指定します。 1 から 10 の数値で指定します。

yosoku_realtime	楽々入力候補を自動で表示させるかを指定します。 表示させる場合は TRUE、表示させない場合は FALSE を指定します。
boin_kabusoku	母音過不足時の入力補正を行うかを指定します。 行う場合には TRUE、行わない場合には FALSE を指定します。
shiin_choka	子音超過時の入力補正を行うかを指定します。 行う場合には TRUE、行わない場合には FALSE を指定します。
n_choka	N(ん)超過時の入力補正を行うかを指定します。 行う場合には TRUE、行わない場合には FALSE を指定します。
nihongo_kousei	日本語校正を行うかを指定します。 行う場合には TRUE、行わない場合には FALSE を指定します。

記述例:

```
create_without_confirm
```

```
setfuzokugo      system/kougo.fzk
```

```
set_fi_system_dic  system/fisd      !@HOME/.Wnn8/dic/fisd.h  0 -
set_fi_user_dic    !@HOME/.Wnn8/dic/fiud  0  -
```

```
setdic  system/kihon.dic    !@HOME/.Wnn8/dic/kihon.h 6 1 0 - - 0
setdic  system/symbol.dic  !@HOME/.Wnn8/dic/symbol.h 1 1 0 - - 0
setdic  system/tel.dic     !@HOME/.Wnn8/dic/tel.h  1 1 0 - - 0
setdic  system/zip.dic     !@HOME/.Wnn8/dic/zip.h  1 1 0 - - 0
setdic  system/tankan.dic  - 1 1 1 - - 0
setdic  system/tankan2.dic - 1 1 1 - - 0
setdic  system/ikeiji.dic  - 1 1 1 - - 0
setdic  system/rensou.dic  - 1 1 1 - - 0
setdic  !@HOME/.Wnn8/dic/ud - 15 0 0 - - 0
setdic  system/kihonR.dic  - 1 1 1 - - 1
setdic  system/telR.dic   - 1 1 1 - - 1
setdic  system/zipR.dic   - 1 1 1 - - 1
setdic  system/tankanR.dic - 1 1 1 - - 1
setdic  system/tankan2R.dic - 1 1 1 - - 1
setdic  option/jinmei.dic  !@HOME/.Wnn8/dic/jinmei.h 1 1 0 - - 0
setdic  option/chimei.dic !@HOME/.Wnn8/dic/chimei.h 1 1 0 - - 0
setdic  option/address.dic !@HOME/.Wnn8/dic/address.h 1 1 0 - - 0
setdic  option/station.dic !@HOME/.Wnn8/dic/station.h 1 1 0 - - 0
setdic  option/kana_english.dic !@HOME/.Wnn8/dic/kana_english.h 1 1 0 - - 0
setdic  option/enterprise.dic !@HOME/.Wnn8/dic/enterprise.h 1 1 0 - - 0
setdic  option/airport.dic !@HOME/.Wnn8/dic/airport.h 1 1 0 - - 0
```



```

setdic option/university.dic !@HOME/.Wnn8/dic/university.h 1 1 0 - - 0
setdic option/zoo.dic !@HOME/.Wnn8/dic/zoo.h 1 1 0 - - 0
setdic option/botanical_garden.dic !@HOME/.Wnn8/dic/botanical_garden.h 1 1 0 - - 0
setdic option/aquarium.dic !@HOME/.Wnn8/dic/aquarium.h 1 1 0 - - 0
setdic option/conveni.dic !@HOME/.Wnn8/dic/conveni.h 1 1 0 - - 0
setdic option/amusement.dic !@HOME/.Wnn8/dic/amusement.h 1 1 0 - - 0
setdic option/computer.dic !@HOME/.Wnn8/dic/computer.h 1 1 0 - - 0
setdic option/jinmeiR.dic - 1 1 1 - - 1
setdic option/chimeiR.dic - 1 1 1 - - 1
setdic option/addressR.dic - 1 1 1 - - 1
setdic yosoku/learn.dat - 1 6 0 - - 0
setdic !@HOME/.Wnn8/dic/mwnn.dat - 1 5 0 - - 0
;setdic system/kihon3_4.dic !@HOME/.Wnn8/dic/kihon3_4.h 6 1 0 - - 0
;setdic system/symbol_noat.dic !@HOME/.Wnn8/dic/symbol_noat.h 1 1 0 - - 0
;setdic system/tankan3_4.dic - 1 1 1 - - 0

;setdic system/kihon3_4R.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic system/tankan3_4R.dic - 1 1 1 - - 1

;setdic option/stationR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/enterpriseR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/airportR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/universityR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/zooR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/botanical_gardenR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/aquariumR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/conveniR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/amusementR.dic - 1 1 1 - - 1
;setdic option/computerR.dic - 1 1 1 - - 1

setparam 5 10 2 45 0 80 5 1 20 0 400 -100 400 80 200 2 200

muhenkan_gakusyu !@HOME/.Wnn8/dic/muhenkan 0 15 - 0
bunsetsugiri_gakusyu !@HOME/.Wnn8/dic/bunsetsu 0 15 - 0

saisyu_siyou TRUE
okuri_gakusyu TRUE
fukugou_yuusen FALSE
okuri_kijun REGULATION
settou_kouho HIRAGANA
settou_gakusyu TRUE
setubi_gakusyu TRUE
hanyou_gakusyu TRUE
hindo_kakuritu LOW
giji_number ZEN
giji_eisuu ZEN
giji_kigou JIS

```

yuragi FALSE

unuse_hinsi 単漢字 郵便番号 電話番号 異形字

fi_hindo_kakuritu NORMAL

kutouten TRUE

kakko TRUE

kigou TRUE

boin_kabusoku TRUE

shiin_choka TRUE

n_choka TRUE

nihongo_kousei TRUE

rendaku FALSE

yosoku_use TRUE

yosoku_max_disp 10

yosoku_realttime TRUE

wnnlerc

wnnlerc では、wnn8le の動作環境を設定します。

参照順位:

1. \$HOME/.Wnn8/wnnlerc (ユーザー設定)
2. /etc/wnn/ja_JP/wnnlerc (システム設定)
3. /usr/lib/wnn/ja_JP/wnnlerc (初期設定)

書式:

エントリ 設定値

エントリ 設定値

:

- 「設定値」にはファイル名やパス、数値などが入ります。
- 「エントリ」と「設定値」の間は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- セミコロン (;) ではじまる行はコメントとなります。

エントリー一覧:

エントリー名	書式 設定値 / 設定方法
set_jserver	<p>set_jserver サーバーホスト名</p> <p>接続する jserver が稼動するマシンのホスト名を指定します。初期値は "localhost" です。</p> <p>省略時には以下の優先順で参照されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境変数 JSERVER での指定 2. /etc/hosts ファイルにおける jserver ホストの指定 3. Unix-Domain <p>/etc/hosts で指定する場合は、サーバーマシンの IP アドレスに対して "jserver" というホスト名を追加します。</p>
set_geometry	<p>set_geometry X 座標 + Y 座標</p> <p>wnn8le ツールパレットの表示位置を指定します。</p> <p>指定方法は、X Window System でのポジション指定に準じます。</p> <p>ポジションは全て + の座標で指定します。</p> <p>たとえば 200 + 500 と指定した場合、画面左上隅を基点とし、右に 200、下に 500 の位置に表示されます。</p>
henkan_on_map	<p>henkan_on_map TRUE/FALSE</p> <p>ツールパレットの表示方式を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ TRUE . . . 入力オンの状態でのみ表示します ■ FALSE . . . 常に表示します

記述例:

set_jserver localhost

set_geometry 200+500

henkan_on_map TRUE

unmrc

uumrc は、かな漢字変換の入力インタフェース環境を設定します。

参照順位:

1. ximrc ファイルでの setuumrc での指定 (ximrc ファイルの参照順位に準じます)
2. \$HOME/.Wnn8/uumrc (ユーザー設定)
3. /etc/wnn/ja_JP/uumrc (システム設定)
4. /usr/lib/wnn/ja_JP/uumrc (初期設定)

書式:

エントリ 設定値

エントリ 設定値

:

- 「設定値」にはファイル名やパス、数値などが入ります。
- 「エントリ」と「設定値」の間は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- セミコロン(;) で始まる行はコメントとなります。

エントリー一覧:

エントリ名	書式 設定値 / 設定方法
setconvenv	setconvenv [サーバーホスト名] wnnenvrc ファイル名 [sticky]
	wnnenvrc ファイルを指定します。 接続する jserver マシンのホスト名を指定することができます。 また "sticky" を指定すると、環境がクライアント終了時にも記憶されます。

setkankanaenv	setkankanaenv [サーバーホスト名] wnnenvrc ファイル名 [sticky]] "漢字かな" 変換用の環境設定ファイルを指定します。 省略時には標準のシステム辞書が使用されます。 また setconvencv 同様、接続する jserver のホスト名や "sticky" を指定することができます。
setuumkey	setuumkey uumkey ファイル名 キーバインド定義ファイル uumkey を指定します。 省略時には uumkey ファイルの参照順位が適用されます。
setrkfile	setrkfile mode ファイル名 ローマ時かな変換定義ファイル mode を指定します。 省略時には mode ファイルの参照順位が適用されます。 ファイルが格納されているディレクトリ名のみ指定する事も可能です。その場合は自動的にそれ以下にある mode が読み込まれます。
not_send_ascii_char	かな漢字変換バッファ (変換行) が空のとき、ASCII 文字をかな漢字変換バッファに送ります。 エントリ名のみ記述します。※ エントリ省略時には有効と扱われます。
send_ascii_char	かな漢字変換バッファ (変換行) が空のとき、ASCII 文字をかな漢字変換バッファに送りません。 エントリ名のみ記述します。
henkan_off_kuten	句点 (。) が入力されても自動的に漢字変換を行いません。 エントリ名のみ記述します。※ エントリ省略時には有効と扱われます。
henkan_on_kuten	句点 (。) が入力された時点で自動的に漢字変換を行います。 エントリ名のみ記述します。
waking_up_in_henkan_mode	日本語入力モード ON の状態で起動します。 エントリ名のみ記述します。※ エントリ省略時には有効と扱われます。
waking_up_no_henkan_mode	日本語入力モード OFF の状態で起動します。 エントリ名のみ記述します。
setmaxchg	最大変換可能文字数を、1 から 511 の範囲の数値で指定します。 省略時や 0 以下の数字の指定時には初期値の 100 が適用されます。

setmaxbunsetsu	最大変換可能文節数を、1 から 400 の範囲の数値で指定します。 省略時や 0 以下の数字の指定時には初期値の 80 が適用されます。
setmaxhistory	ヒストリの最大記憶数を、1 から 127 の範囲の数値で指定します。 省略時や 0 以下の数字の指定時には初期値の 11 が適用されます。
excelLent_delete	ローマ時入力時、文字の消去をアルファベット単位で行います。 エン트리名のみ記述します。※エントリ省略時には有効と扱われます。
simple_delete	ローマ時入力時、文字の消去を日本語単位で行います。 エン트리名のみ記述します。

記述例:

```

;setconvenv      @LIBDIR/@LANG/wnnenvrc
;setkankanaenv   @LIBDIR/@LANG/wnnenvrc_R

setjishopath     @VARDIR/dic/system/
sethindopath     @VARDIR/dic/usr/@USR/

setuumkey        @LIBDIR/@LANG/uumkey
setrkfile        @LIBDIR/@LANG/rk

;send_ascii_char

```

unmkey

uumkey は、入力クライアントのキーバインド環境を設定します。

参照順位:

1. uumrc ファイルの setuumkey エントリでの指定 (uumrc ファイルの参照順位に準じます)
2. \$HOME/.Wnn8/uumkey (ユーザー設定)
3. /etc/wnn/ja_JP/uumkey (システム設定)
4. /usr/lib/wnn/ja_JP/uumkey (初期設定)

書式:

機能エントリ キーコード [キーコード] . . .

機能エントリ キーコード [キーコード] . . .

:

- キーコードの表記では、C言語における定数の表記に準拠して8進数、10進数、16進数が使用できます。
- コントロールキーは、^で表記します。(例: Ctrl+A → ^A)
- 「機能エントリ」や各「キーコード」の間は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- セミコロン(;)ではじまる行はコメントとなります。

機能エントリー一覧:

各機能エントリは、その機能が有効となる変換操作の状態が、動作モードとして定められています。

動作モードが複数ある場合、そのキーバインドはそれぞれの状態で同じ動作を行います。

モード番号	かな漢字変換操作の状態
0	変換後に変換結果を修正している状態
1	文字を入力している状態
2	変換後に文節の長さを伸縮している状態
3	文字が未入力の状態
4	変換候補を選択している状態
5	楽々入力機能を使用している状態

※ 末尾に "_e" がついている機能エントリは、バッファが空の状態でも "_e" のつかない同名称のエントリと同じ動作を行います。

機能エントリ名	動作モード	機能
henkan_on	01234	日本語入力の ON/OFF を切り替えます。 キーコード変換されたコードは指定できません。

quote_keyin	01234	次の入力文字をクォートします。 henkan_on にバインドされたキーコードを、文字として入力する際に使用します。
send_string	012	バインドされたキーコードを入力中の文字列に付加し、アプリケーションに送ります。
kakutei	0125	入力中の文字列を確定します。
one_char_kakutei	012	先頭の1文字のみを確定します。
one_char_no_henkan	01	先頭の1文字以外を変換します。
forward_char	1	カーソルを1文字右に移動します。
backward_char	1	カーソルを1文字左に移動します。 ただし、漢字変換を解除した直後の状態でカーソルがその文字列の左端にある場合は、連文節変換を行って一つ左の文節に移動する挙動になります。
goto_top_of_line	1	行の先頭文字へカーソルをジャンプします。
goto_end_of_line	1	行の末尾の文字へカーソルをジャンプします。
delete_char_at_cursor	15	カーソル位置の文字を消去します。
kaijo	02	カーソルのある文節以降の変換中文字列を、読みの状態に戻します。
henkan	1	連文節変換を行います。
tan_henkan	1	単文節変換を行います。
nobi_henkan	2	文節の伸縮時、反転エリアを単文節変換し、それ以降を連文節変換します。
jikouho	0	次候補を表示します。
zenkouho	0	前候補を表示します。
select_jikouho	0	次候補一覧を表示します。
kana_henkan	1	逆引き形式辞書を使用していれば、漢字かな変換を行います。
kill	1	カーソル位置とそれ以降の文字を消去し、バッファに蓄積します。
yank	1	バッファの内容をカーソル位置に挿入します。
yank_e	13	バッファの内容をカーソル位置に挿入します。バッファが空の状態でも動作します。
bunsetu_nobasi	0	文節の長さを1文字分伸ばします。

bunsetu_chijime	0	文節の長さを1文字分縮めます。
sainyuuryoku	1	直前に入力された"かな"文字列を、カーソル位置に挿入します。
sainyuuryoku_e	1 3	直前に入力された"かな"文字列を、カーソル位置に挿入します。バッファが空の状態でも動作します。
redraw_line	0 1 2 4	変換行の書き直しを行います。
redraw_line_e	0 1 2 3 4	変換行の書き直しを行います。バッファが空の状態でも動作します。
previous_history	1	履歴に記憶されている、1つ前の文字列を挿入します。
previous_history_e	1 3	履歴に記憶されている、1つ前の文字列を挿入します。バッファが空の状態でも動作します。
next_history	1	履歴に記憶されている、1つ後ろの文字列を挿入します。
next_history_e	1 3	履歴に記憶されている、1つ後ろの文字列を挿入します。バッファが空の状態でも動作します。
all_history	1	これまで確定してきた文字列を一覧表示します。
all_history_e	1 3	履歴に記憶されている、1つ後ろの文字列を挿入します。バッファが空の状態でも動作します。
quit	4 5	候補一覧などのウィンドウを閉じます。
change_to_insert_mode	0	変換された文字列をもう一度編集できる状態にします。ここで変換された漢字は、かなには戻せません。
quote	1	次の入力文字がhenkan_on以外であれば、その文字をquoteします。 つまり次の入力文字がキーバインド定義されていても、それを無効として直接入力します。
quote_e	1 3	次の入力文字がhenkan_on以外であれば、その文字をquoteします。 つまり次の入力文字がキーバインド定義されていても、それを無効として直接入力します。バッファが空の状態でも動作します。
forward_select	4	候補を選択する際、反転部分を右方向へ移動させます。
backward_select	4	候補を選択する際、反転部分を左方向へ移動させます。

next_select	4	候補を選択する際、次の行 / 画面へ移動します。
previous_select	4	候補を選択する際、前の行 / 画面へ移動します。
linestart_select	4	候補を選択する際、先頭画面へ移動します。
lineend_select	4	候補を選択する際、最終画面へ移動します。
select_select	4	候補を選択する際、候補選択と同時にモードから抜けます。
send_ascii_char	0 1 2 3 4	それ以降のバッファが空の状態 ASCII 文字が入力された場合、それをバッファに蓄積しないようにします。
not_send_ascii_char	0 1 2 3 4	それ以降のバッファが空の状態 ASCII 文字が入力された場合、それをバッファに蓄積します。
toggle_send_ascii_char	0 1 2 3 4	それ以降のバッファが空の状態 ASCII 文字が入力された場合、動作を反対の状態にします。
quote_send_ascii_char	3	send_ascii_char でバッファが空の場合、次の ASCII 文字をバッファに蓄積します。 それ以降のバッファが空の場合は蓄積しないようにします。
reconnect_jserver	0 1 2 3 4	jserver との再接続を行います。
forward_bunsetsu	0	1 文節右へ移動します。 未定義の場合は forward_char で定義されているキーコードで動作します。
backward_bunsetsu	0	1 文節左へ移動します。 未定義の場合は backward_char で定義されているキーコードで動作します。
henkan_forward	2	反転表示されている部分を単文節変換、それ以降を連文節変換して、1 つ右の文節へ移動します。 未定義の場合は forward_char で定義されているキーコードで動作します。
henkan_backward	2	反転表示されている部分を単文節変換、それ以降を連文節変換して、1 つ左の文節へ移動します。 未定義の場合は backward_char で定義されているキーコードで動作します。
top_bunsetsu	0	行の先頭の文節へ移動します。 未定義の場合は goto_top_of_line で定義されているキーコードで動作します。

end_bunsetsu	0	行の末尾の文字へ移動します。 未定義の場合は goto_end_of_line で定義されているキーコードで動作します。
jmptijime	2	行の先頭の文節へ移動します。 未定義の場合は goto_top_of_line で定義されているキーコードで動作します。
c_end_nobi	2	行の末尾の文字へ移動します。 未定義の場合は goto_end_of_line で定義されているキーコードで動作します。
forward	2	文節の長さを1文字分長くします。 未定義の場合は bunsetu_nobasi で定義されているキーコードで動作します。
chijime	2	文節の長さを1文字分短くします。 未定義の場合は bunsetu_chijime で定義されているキーコードで動作します。
reboot	1	カーソルの左にある文字を消去します。 キーコードの指定は1バイトに制限されます。
touroku	0 1 2	wnn8le の簡易単語登録画面を起動します。
touroku_e	0 1 2 3	wnn8le の簡易単語登録画面を起動します。 バッファが空の状態でも動作します。
bushu_e	0	部首入力画面を起動します。
tankan_henkan	0 1	単漢字変換を行います。
select_ikeiji_dai	0 1	異形字変換を行います。
zip_henkan	0 1 2	郵便番号変換を行います。
tel_henkan	0 1 2	電話番号変換を行います。
select_assoc_dai	0	連想変換を行います。
hankaku	0 1 2	入力文字を半角に変換します。
eisuu	0 1 2	入力文字を英数字に変換します。
hiragana	0 1 2	入力文字をひらがなに変換します。
katakana	0 1 2	入力文字をカタカナに変換します。
eg_Aa_henkan_big_loop	0 1 2	[ひらがな] → [カタカナ] → [半角カタカナ] → [全角英数字] → [半角英数字] の変換を繰り返します。

eg_Aa_henkan_small_loop	0 1 2	[ひらがな] → [カタカナ] → [半角カタカナ] の変換を繰り返します。
reverse_conv	1 3	逆引き変換画面を起動します。
unicode_input	1 3	Unicode 入力ツールを起動します。
kuten	1	区点コード入力画面を表示します。
kuten_e	1 3	区点コード入力画面を表示します。バッファが空の状態でも動作します。
jis	1	JIS コード入力画面を表示します。
jis_e	1 3	JIS コード入力画面を表示します。バッファが空の状態でも動作します。
sjis	1	SJIS コード入力画面を表示します。
sjis_e	1 3	SJIS コード入力画面を表示します。バッファが空の状態でも動作します。
kuten2	1 3	補助区点コード入力画面を表示します。
is2	1 3	補助 JIS コード入力画面を表示します。
next_ku_kuten	4	区点一覧表で、次の区点を表示します。
previous_ku_kuten	4	区点一覧表で、前の区点を表示します。
next_page	4	候補一覧表や区点一覧表で、次のページを表示します。
previous_page	4	候補一覧表や区点一覧表で、前のページを表示します。
greek	1 3	ギリシャ語一覧を表示します。
russian	1 3	ロシア語一覧を表示します。
kigou	1 3	記号一覧を表示します。
codelist	1 3	コード一覧画面を起動します。
unicode_codelist	1 3	Unicode 一覧画面を起動します。
yosoku_modein	1 5	楽々入力候補を選択します。
wnnle_setup	3	環境設定の変更内容を wnn8le に反映します。

また、機能エントリを無効にする機能外エントリを設定することも可能です。

unset 機能エントリ名	定された機能エントリの設定を取り消します。
---------------	-----------------------

記述例:

```

henkan_on          ^\ 0x9D 0x1BF 0x119 0x1BE
quit               ^G 0x9C 0x1B9
;
kakutei           ^L ^M ^J 0x9F
;
henkan            ^W 0x9E 0x20
;
forward_char      ^F 0x90
backward_char     ^B 0x91
goto_top_of_line  ^A 0x9A
goto_end_of_line  ^E 0x9B
;
bunsetu_nobasi    ^O 0x94
bunsetu_chijime   ^I 0x8D
;
delete_char_at_cursor ^D 0x10F
rubout            ^H
kaijo             ^K 0x99 0x1B9
kill              ^K 0x99
;
hiragana          0x86
katakana          0x87
hankaku           0x88
eisuu             0x89

```

ximrc

ximrc では、入力クライアントの動作環境を設定します。

参照順位:

1. 境変数 XIMRC での指定
2. \$HOME/.Wnn8/ximrc (ユーザー設定)
3. /etc/wnn/ximrc (システム設定)
4. /usr/lib/wnn/ximrc (初期設定)

書式:

エントリ 設定値

エントリ 設定値

:

- 「設定値」には言語名やファイル名が入ります。
- 「エントリ」と「設定値」の間は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- セミコロン(;)ではじまる行はコメントとなります。

エントリー一覧:

エントリ名	書式 設定値 / 設定方法
setuumrc	setuumrc 言語名 uumrc ファイル名 使用する言語に対応する uumrc ファイルを指定します。 省略時には uumrc の参照順位が適用されます。
preloadrkfile	preloadrkfile 言語名 ローマ字変換の言語名を指定します。 その言語に対応する uumrc で指定されたローマ字定義ファイルを読み込みます。
setlayout	setlayout レイアウト名 次候補一覧表示時のレイアウトを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ horiz . . . 横一列で表示 ■ vert . . . 縦一列で表示 ■ multi . . . 縦横のカラムを使って表示

記述例:

```
;setuumrc ja_JP /usr/lib/wnn/ja_JP/uumrc.xim
;preloadrkfile ja_JP
setlayout      multi
```

2A_CTRL

コントロールコマンド定義表です。変換用のキー設定を行います。

ここで定義されたキーコードは、uumkey ファイルの設定で使用されます。

たとえば F1 ~ F4 とカーソルキーが入力された場合に受け取るコードは以下のようになります。

入力キー	受け取るコード	入力キー	受け取るコード
F1	0x81	→	0x90
F2	0x82	←	0x91
F3	0x83	↓	0x92
F4	0x84	↑	0x93

ファイルパス:

/usr/lib/wnn/ja_JP/rk/2A_CTRL

書式:

エントリ 設定値

エントリ 設定値

:

- 「設定値」には言語名やファイル名などが入ります。
- 「エントリ」と「設定値」の間は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- セミコロン(;)ではじまる行はコメントとなります。

cvt_xim_tbl

ファンクションキーおよびメタキー変換データベースです。

ここで設定されたデータに従って、Keysym を1バイトの文字に変換します。

変換されたキーコードは、2A_CTRL ファイル (初期設定) によって評価され、次に uumkey ファイルによって評価されます。

ファイルパス:

/usr/lib/wnn/cvt_xim_tbl

書式:

keysym コード

keysym コード

:

- 「Keysym」と「コード」の間は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- セミコロン(;)ではじまる行はコメントとなります。
- 8進数、10進数、16進数で表記できます。?には整数値が入ります。

8進数 0??

10進数 ??

16進数 0x??, 0X??

jserverrc

jserverrc は、かな漢字変換サーバ jserver 起動時の基本設定を行う初期化ファイルです。

参照順位:

1. jserver の起動オプション -f での指定
2. /etc/wnn/ja_JP/jserverrc (システム設定)
3. /usr/lib/wnn/ja_JP/jserverrc (初期設定)

書式:

エントリ 設定値

エントリ 設定値

:

- 「設定値」にはファイル名やパス、数値などが入ります。
- 「エントリ」と「設定値」の間は、半角スペースまたはタブで区切ります。
- セミコロン(;)ではじまる行はコメントとなります。

エントリー一覧:

エントリ名	書式 設定値 / 設定内容

readfile	<p>readfile 辞書ファイル名</p> <p>jserrvc が起動時に読み込む辞書ファイル名を指定します。</p> <p>ここで指定された辞書は、プロセスが終了するまで jserrvc が保持し続けます。</p>
max_client	<p>max_client 整数値</p> <p>続でできるクライアントの最大数を指定します。</p> <p>未設定時には 64 が初期値として適用されます。</p>
max_sticky_env	<p>max_sticky_env 整数値</p> <p>固定化する環境の最大数を指定します。</p> <p>環境の固定化とは、クライアントを終了してもユーザーの設定環境を jserrvc が記憶し続ける事です。環境の再作成が不要になるため、次回クライアントの接続処理が速くなります。</p> <p>未設定時には、10 が初期値として適用されます。</p>
jserrvc_dir	<p>jserrvc_dir パス</p> <p>jserrvc が管理する辞書ディレクトリを指定します。</p> <p>ユーザー単語登録辞書や頻度ファイルが、指定されたディレクトリ以下で管理されます。</p> <p>@VARDIR を用いて表記を簡略化することも可能です。</p> <p>@VARDIR は以下のパスを示します。</p> <p style="padding-left: 40px;">/var/lib/wnn/ja_JP</p> <p>未設定時には標準の辞書ディレクトリが初期値として適用されま す。</p>
def_param	<p>def_param 整数値 整数値 整数値 ...</p> <p>かな漢字変換に使用する変換パラメータ値や擬似品詞の頻度が整数値で設定されています。</p> <p>初期値のままで使用してください。</p>
set_giji_eisuu	<p>set_giji_eisuu code code code</p> <p>指定したコードの文字を、「英数字」の擬似品詞として使用できるようになります。</p> <p>最大 20 コードが指定可能です。16 進数、10 進数、8 進数で表記できます。</p>
ondisk_off	<p>ondisk_off</p> <p>辞書 OnDisk 機能を使用しない場合、エントリのみ記述します。</p> <p>辞書 OnDisk 機能を使わない場合は、メモリ使用量が増加します。</p>

autosave	<p>autosave 整数値</p> <p>自動保存を実行する変換 / 確定回数を指定します。</p> <p>ここで指定した回数の変換 / 確定を行うと、自動的にユーザー辞書ファイルへの書き込み保存を行います。0 を指定した場合は自動保存は行われません。</p>
----------	--

記述例:

```

jserver_dir @VARDIR/dic

readfile system/fisd

readfile system/kihon.dic
;readfile system/kihon3_4.dic
readfile system/symbol.dic
;readfile system/symbol_noat.dic

readfile system/tel.dic
readfile system/zip.dic

readfile system/tankan.dic
readfile system/tankan2.dic
;readfile system/tankan3.dic
;readfile system/tankan3_4.dic

readfile system/ikeiji.dic
readfile system/rensou.dic

readfile system/kougo.fzk

readfile option/jinmei.dic
readfile option/chimei.dic
readfile option/address.dic
readfile option/station.dic
readfile option/kana_english.dic
readfile option/enterprise.dic
readfile option/airport.dic
readfile option/university.dic
readfile option/zoo.dic
readfile option/botanical_garden.dic
readfile option/aquarium.dic
readfile option/conveni.dic
readfile option/amusement.dic
readfile option/computer.dic
readfile option/business.dic
readfile option/food.dic

```

```

readfile option/hobby.dic
readfile option/mailextend.dic
readfile option/person.dic
readfile option/sports.dic
readfile option/spot.dic
readfile yosoku/learn.dat

def_param 5 10 2 45 0 80 5 1 20 0 400 -100 ...

set_giji_eisuu '-' '_' 0x20 'ー' '＿' 'ー',
autosave      0

```

wnnhosts

wnnhosts は、変換サーバーに接続できるホストやユーザーを制限することができます。

初期状態では wnnhosts は用意されておらず、jserver に対するアクセス制御は設定されていません。

アクセス制御を行う場合に新規に作成してください。

wnnsysenv_server から設定を行えば、wnnhosts は自動的に作成されます。

wnnhosts を作成し jserver を再起動した時点から、アクセス制御が有効になります。

参照順位:

1. jserver の起動オプション -A での指定
2. /etc/wnn/wnnhosts (システム設定)

書式:

```

[変換サーバー名][変換サーバーの言語][サーバーホスト名:/ポート番号(数値)] {
[アクセスデータ]
[アクセスデータ]
:
}

```

- [変換サーバー名] と [変換サーバーの言語] は、Wnn8 ではそれぞれ jserver と ja_JP が固定値となります。

- [サーバーホスト名:/ポート番号]と{の間は、必ず半角スペースで区切ります。
- ポート番号の省略時は、jserver の標準ポート(22273)が適用されます。
- [:ポート番号]とコロンで区切ると相対ポート番号となり、jserver の標準ポート番号(22273)に設定値を加えた値をポート番号とします。たとえば:1とした場合は22274が使用されます。
[/ポート番号]とスラッシュで区切ると絶対ポート番号となり、設定値をそのままポート番号として使用します。
- セミコロン(;)ではじまる行はコメントとなります。

アクセスデータの書式

[ホスト名]	このホストからはすべてのユーザーがアクセス可能になります。
[ホスト名:ユーザー名,ユーザー名,...]	このホストからは、ユーザー名で指定したユーザーのみがアクセス可能となります。複数のユーザーを指定する場合はコンマ(,)で区切ります。
[@ユーザー名]	このユーザーはすべてのホストからアクセス可能になります。

記述例:

```
jserver ja_JP localhost {  
;hostA:user1,user2,user3  
hostA:user1,user4  
hostB  
@user5  
}
```

この例ではlocalhostのjserverに対し、hostAからはuser1とuser4のみがアクセス可能になります。

hostBからはすべてのユーザーがアクセス可能になります。

user5に限り、ネットワーク上のすべてのホストからアクセスできます。

その他、記載されていないホストやユーザーは一切アクセスできなくなります。

2行目は行頭の;でコメントされているため、無効になります。

テキスト辞書フォーマット

単語の一括登録で使用する **Wnn8** テキスト形式辞書

単語の一括登録で使用する Wnn8 テキスト形式辞書とは、専用のフォーマットで記載されたテキストファイルのことです。

書式:

\comment

\total 0

\hinsi

読み 語句 品詞 頻度 コメント

ヘッダ部

冒頭の3行 "\comment"、"\total"、"\hinsi" はヘッダ部であり、この辞書の設定値を記述します。

ヘッダ部がないとテキスト辞書とはみなされません。必ず記述してください。

コメント (\comment)

この辞書に対するコメントを設定します。

総頻度 (\total 0)

辞書全体の頻度を設定します。

登録部

登録する語句の情報を記述します。

それぞれの記述の間は、半角スペースまたはタブ入力で区切ります。

- 読み 語句の読みを設定します。最大 122 文字まで指定できます。
半角英数字の場合、大文字 / 小文字を区別しません。
- 語句 登録する語句を記述します。
全角 / 半角文字、外字などの文字表現が可能です。最大 122 文字まで指定できません。
スペース、改行などの制御文字は、"¥0" に続く 2 桁の 8 進数であらわします。
"¥" の後に "0" 以外の文字が続いた場合はエスケープ記号として扱われます。
(たとえば ¥¥ は "¥" という文字として扱われます)
- 品詞 その語句の品詞を指定します。
- 頻度 その語句の頻度値を設定します。0~30 までの値が指定できます。
- コメント その語句に対するコメントを設定します。最大 121 文字まで指定できます。
- 1 登録につき、読み、語句、コメントに使用できる文字数は、合計で 123 文字までとなります(半角文字も 1 文字として数えます)。
 - ファイル作成に使用できる文字コードは EUC、JIS および Shift-JIS です。それ以外の文字コードには対応していません。
 - 改行コードは "LF" または "CR+LF" を使用してください。
 - バイナリファイルには対応していません。

記述例:

```
comment
\total 0
\hinsi
```

きよみずでら	清水寺	固有名詞	1	観光名所
きんかくじ	金閣寺	固有名詞	1	
おむろ	御室	地名	1	出身地
おむろん	OMRON	企業名	1	

キーバインダー一覧

各キースタイルにおけるキーバインド

各キースタイルの標準のキーバインド設定の一覧です。

これらのキーバインドは、uumkey ファイルによって定義されます。

各機能には動作モードが設定されており、その状態 (モード) にある時にキーバインドが有効になります。

動作モード:

- 0 確定前の変換結果を修正している状態
- 1 文字を入力している状態
- 2 文節の長さを伸縮している状態
- 3 文字を入力していない状態
- 4 変換候補を選択している状態
- 5 楽々入力を操作している状態

※ ご使用のデスクトップ環境やアプリケーションによっては、キーコードが無効にされてしまう場合があります。

Wnn

機能名	機能	キーバインド
動作モード		
変換 ON / OFF	日本語入力モードの ON / OFF を切り替えます。	Ctrl + Space
0 1 2 3 4		Ctrl + \
		Ctrl + @
右へ進む	1 文字分右にカーソルを移動します。	→
1		Ctrl + F
左へ進む	1 文字分左にカーソルを移動します。 変換解除した文字列の左端にカーソルがある状態では、連文節変換を行なった上で1つ左の文節に移動します。	←
1		Ctrl + B
行の先頭に飛ぶ	行の先頭にカーソルを移動します。	Ctrl + A
1		Alt + ←
行の後端に飛ぶ	行の末尾にカーソルを移動します。	Ctrl + E
1		Alt + →
連文節変換	つながりのある 1 文節に拡張して変換します。	Space
1		Ctrl + W
N 文字無変換	先頭の 1 文字を変換せずに、残りの文字列を変換します。	Shift + F6
0 1		
文節伸ばし変換	文節の伸縮操作時、反転中の文字列を単文節変換しそれ以降を連文節変換します。	Space
2		Ctrl + W
		Ctrl + Z
文節変換	各品詞単位 (名詞、接頭語、接尾語、助数詞) で変換します。	Ctrl + Z
1		
文節次候補	文節単位で次候補を表示します。	Ctrl + N
0		↓

文節前候補	文節単位で前候補を表示します。	Ctrl + P
0		↑
文節次候補一覧	文節単位で次候補一覧を表示します。	Space
0		Ctrl + W Ctrl + Z Alt + ↓
文節1文字長く	反転中の文節を1文字分長くします。	Ctrl + O
0		
文節1文字短く	反転中の文節を1文字分短くします。	Ctrl + I
0		
文節右移動	反転中の文節を1文節右へ移動します。	→
0	未定義の場合は「右へ進む」での定義が適用されます。	Ctrl + F
文節右移動	伸縮後、反転部を単文節変換し、それ以降の文字を連文節変換して1文節右へ移動します。	→
2	未定義の場合は「右へ進む」での定義が適用されます。	Ctrl + F
文節左移動	反転中の文節を1文節左へ移動します。	←
0	未定義の場合は「左へ進む」での定義が適用されます。	Ctrl + B
文節左移動	伸縮後、反転部を単文節変換し、それ以降の文字を連文節変換して1文節左へ移動します。	←
2	未定義の場合は「左へ進む」での定義が適用されます。	Ctrl + B
先頭の文節へ移動	行の先頭の文節に移動します。	---
0	未定義の場合は「行の先頭へ飛ぶ」の定義が適用されます。	
最後の文節へ移動	行の末尾の文節に移動します。	---
0	未定義の場合は「行の後端へ飛ぶ」の定義が適用されます。	

かな文字列消去	カーソル位置にある文字以降を消去してバッファに蓄積します。	Ctrl + K Alt + ↑
1		
1文字消去(カーソル左)	カーソルの左にある文字を消去します。	BackSpace Ctrl + H
1	キーコードは1バイトに制限されます。	
1文字消去(カーソル位置)	カーソル位置にある文字を消去します。	Delete Ctrl + D
15		
削除	入力中の文字列をすべて削除します。	---
15		
文字列送り	変換行内の文字列に、バインドされているキーコードを付け加えてアプリケーションに送ります。	Ctrl + [
012		
変換再編集	変換した文字列を再度編集可能な状態にします。	Ctrl + C
0	編集後に変換した文字列は元に戻せません。	
漢字をかなに戻す	カーソル位置の文節以降の変換済文字列を、変換前の状態に戻します。	Ctrl + K Alt + ↑ 無変換
02		
ATOK 解除	カーソル位置の文節以降の変換済文字列を、変換前の状態に戻します。	---
02		
ATOK 全解除	変換済文字列の全文を、変換前の状態に戻します。	---
02		
VJE 取り消し	未変換文字列は削除し、変換済文字列は変換前の状態に戻します。	---
012		
キーのクォート	キーバインドの機能を無効にし、キーコードを文字列として入力します。	Ctrl + V
1		
ヤंक(ペースト)	バッファの内容をカーソル位置に挿入します。	Ctrl + Y
1		

直前読み文字列	入力中の文字を、直前に入力されたかな文字列に置き換えます。	Ctrl + U
1		
直前読み文字列	入力中の文字を、直前に入力されたかな文字列に置き換えます。	F12
1 3		
MS-IME 全角スペース入力	全角スペースを入力します。行頭でも入力できます。	---
0 2		
再表示	変換行の再描画を行います。	Ctrl + R
0 1 2 4		
履歴置き換え (直前) 確定文字列	履歴に記録されている、直前に確定した文字列に置き換えます。	Ctrl + P
1		
履歴置き換え (直前) 確定文字列	履歴に記録されている、直前に確定した文字列に置き換えます。	↑
1 3		
履歴置き換え (直後) 確定文字列	履歴に記録されている、直後に確定した文字列に置き換えます。	Ctrl + N
1		
履歴置き換え (直後) 確定文字列	履歴に記録されている、直後に確定した文字列に置き換えます。	↓
1 3		
履歴一覧	今まで確定してきた文字列を一覧で表示します。	Shift + F4
1 3		
正 (右) 移動	候補一覧画面などでカーソルを右方向に移動します。	Ctrl + F →
4		
逆 (左) 移動	候補一覧画面などでカーソルを左方向に移動します。	Ctrl + B ←
4		
画面先頭へ移動	候補一覧画面などで画面上の先頭位置に移動します。	Ctrl + A Alt + ←
4		
画面末尾へ移動	候補一覧画面などで画面上の末尾に移動します。	Ctrl + E Alt + →
4		

次ページ表示	候補一覧やコード一覧などの表示画面で次のページに移動します。	PageDown
4		
前ページ表示	候補一覧やコード一覧などの表示画面で前のページに移動します。	PageUp
4		
次画面選択	候補一覧画面などで次の画面に移動します。	Ctrl + N ↓
4		
前画面選択	候補一覧画面などで前の画面に移動します。	Ctrl + P ↑
4		
候補選択	変換候補を選択します。	Enter Ctrl + J Ctrl + M
4		
ATOK 次候補	候補一覧画面上でカーソルを次候補に移動します。	---
4		
ATOK 前候補	候補一覧画面上でカーソルを前候補に移動します。	---
4		
ATOK 次候補群	候補一覧画面上で次候補群に移動します。	---
4		
ATOK 前候補群	候補一覧画面上で前候補群に移動します。	---
4		
ATOK 次候補一覧	ATOK 風の次候補一覧を表示します。	---
4		
VJE 次候補一覧	次候補一覧を表示します。	---
4		
キャンセル	変換候補や予測候補を閉じて入力状態に戻します。	Ctrl + G Alt + ↓ 無変換
45		

文字列確定	入力中の文字列を確定します。	Enter Ctrl + J Ctrl + L Ctrl + M
0125		
一文字確定	先頭の1文字のみを確定し、残りを未変換状態にします。	Shift + F5
012		
先頭一文字確定	先頭の1文字のみを確定し、残りを未変換状態にします。	---
02		
末尾一文字確定	文節の末尾1文字のみを確定し、残りを消去します。	---
02		
一音確定	先頭の1かな文字のみ確定し、残りを未変換状態にします。	---
1		
対象文節確定	先頭からカーソル位置までの文節を確定し、次の文節に移動します。	---
02		
一文節確定	先頭の1文節を確定し、次の文節に移動します。	---
02		
MS-IME 文節確定	先頭からカーソル上の文節までを確定します。	---
02		
英数字変換	入力文字を全角英数字に変換します。	F9
012		
半角変換	入力文字を半角に変換します。	F8
012		
MS-IME 半角英数字変換	文字列を半角英数字に変換します。	---
012		
ひらがな変換	入力文字をひらがなに変換します。	F6
012		
カタカナ変換	入力文字を全角カタカナに変換します。	F6
012		

順変換 1	ひらがな → カタカナ → 半角カタカナ → 全角英数字 → 半角英数字の変換を繰り返します。	---
012		
順変換 2	ひらがな → カタカナ → 半角カタカナの変換を繰り返します。	---
012		
単漢字変換	入力文字を単漢字として変換します。	Shift + F1
01		
異形字一覧	変換した語句の旧字体、新字体などの異形字の候補を表示します。	Shift + F8
0		
電話番号変換	市外局番(数字)を該当する住所に変換します。	Shift + F3
012		
郵便番号変換	郵便番号(数字7桁)を該当する住所に変換します。	Shift + F2
012		
連想変換	変換した語句の類義語や同義語を表示します。	Shift + F9
0		
逆引き変換	逆引き変換ツールを起動します。	Shift + F10
13		
単語登録起動	単語登録ツール(簡易版)を起動します。	Ctrl + T
012		
単語登録起動	単語登録ツール(簡易版)を起動します。	Alt + F11
0123		
部首入力起動	部首入力ツールを起動します。	Shift + F7
13		
区点入力	区点コード入力ツールを起動します。	Ctrl +]
1		
区点入力	区点コード入力ツールを起動します。	Ctrl + F1 Alt + 英数
13		
JISコード入力	JISコード入力ツールを起動します。	Ctrl + _
1		

JIS コード入力	JIS コード入力ツールを起動します。	Ctrl + F2
13		
シフト JIS コード入力	シフト JIS コード入力ツールを起動します。	Ctrl + F9
13		
Unicode 入力	Unicode 入力ツールを起動します。	Ctrl + F8
13		
補助漢字区点コード入力	補助漢字区点コード入力ツールを起動します。	Ctrl + Shift + F1
13		
補助漢字 JIS コード入力	補助漢字 JIS コード入力ツールを起動します。	Ctrl + Shift + F2
13		
ギリシャ語入力	ギリシャ語一覧表を表示します。	Ctrl + F4
13		
ロシア語入力	ロシア語一覧表を表示します。	Ctrl + F5
13		
記号一覧入力	記号区点コード一覧表を表示します。	Ctrl + F3
13		
記号前区点表示	記号区点コード一覧表の先頭ページを表示します。	---
4		
記号外字先頭表示	記号区点コード一覧表の外字領域の先頭ページを表示します。	---
4		
次の区へ移動	区点一覧表で、次の区点を表示します。	Tab
4		
前の区へ移動	区点一覧表で、前の区点を表示します。	Shift + Tab
4		
コード一覧	コード一覧画面を起動します。	Shift + F12
13		
Unicode 一覧	Unicode 一覧画面を起動します。	Ctrl + Shift + F4
13		

楽々入力候補操作	楽々入力(入力予測)候補を表示 または選択します。	Tab
15		
設定反映	変更した環境設定内容を wnn8le に反映します。	Shift + F5
3		

ATOK 風

機能名	機能	キーバインド
動作モード		
変換 ON / OFF	日本語入力モードの ON / OFF を切り替えます。	Ctrl + Space Ctrl + \\ Ctrl + @
01234		
右へ進む	1文字分右にカーソルを移動し ます。	→ Ctrl + L
1		
左へ進む	1文字分左にカーソルを移動し ます。 変換解除した文字列の左端に カーソルがある状態では、連文 節変換を行なった上で1つ左の 文節に移動します。	← Ctrl + K
1		
行の先頭に飛ぶ	行の先頭にカーソルを移動しま す。	Ctrl + ←
1		
行の後端に飛ぶ	行の末尾にカーソルを移動しま す。	Ctrl + →
1		
連文節変換	つながりのある1文節に拡張し て変換します。	Space Shift + Space
1		
N文字無変換	先頭の1文字を変換せずに、残 りの文字列を変換します。	---
01		
文節伸ばし変換	文節の伸縮操作時、反転中の文 字列を単文節変換しそれ以降を 連文節変換します。	Space Shift + Space
2		

文節変換	各品詞単位 (名詞、接頭語、接尾語、助数詞) で変換します。	---
1		
文節次候補	文節単位で次候補を表示します。	---
0		
文節前候補	文節単位で前候補を表示します。	---
0		
文節次候補一覧	文節単位で次候補一覧を表示します。	---
0		
文節1文字長く	反転中の文節を1文字分長くします。	Ctrl + L →
0		
文節1文字短く	反転中の文節を1文字分短くします。	Ctrl + K ←
0		
文節右移動	反転中の文節を1文節右へ移動します。 未定義の場合は「右へ進む」での定義が適用されます。	Shift + →
0		
文節右移動	伸縮後、反転部を単文節変換し、それ以降の文字を連文節変換して1文節右へ移動します。 未定義の場合は「右へ進む」での定義が適用されます。	Shift + →
2		
文節左移動	反転中の文節を1文節左へ移動します。 未定義の場合は「左へ進む」での定義が適用されます。	Shift + ←
0		
文節左移動	伸縮後、反転部を単文節変換し、それ以降の文字を連文節変換して1文節左へ移動します。 未定義の場合は「左へ進む」での定義が適用されます。	Shift + ←
2		
先頭の文節へ移動	行の先頭の文節に移動します。 未定義の場合は「行の先頭へ飛ぶ」の定義が適用されます。	Shift + →
0		

最後の文節へ移動	行の末尾の文節に移動します。	Shift + ←
0	未定義の場合は「行の後端へ飛ぶ」の定義が適用されます。	
かな文字列消去	カーソル位置にある文字以降を消去してバッファに蓄積します。	---
1		
1 文字消去 (カーソル左)	カーソルの左にある文字を消去します。	---
1	キーコードは1バイトに制限されます。	
1 文字消去 (カーソル位置)	カーソル位置にある文字を消去します。	Delete
15		
削除	入力中の文字列をすべて削除します。	Esc
15		Ctrl + [
文字列送り	変換行内の文字列に、バインドされているキーコードを付け加えてアプリケーションに送ります。	---
0 1 2		
変換再編集	変換した文字列を再度編集可能な状態にします。	---
0	編集後に変換した文字列は元に戻せません。	
漢字をかなに戻す	カーソル位置の文節以降の変換済文字列を、変換前の状態に戻します。	---
0 2		
ATOK 解除	カーソル位置の文節以降の変換済文字列を、変換前の状態に戻します。	BackSpace
0 2		Ctrl + H
ATOK 全解除	変換済文字列の全文を、変換前の状態に戻します。	Insert
0 2		
VJE 取り消し	未変換文字列は削除し、変換済文字列は変換前の状態に戻します。	---
0 1 2		
キーのクォート	キーバインドの機能を無効にし、キーコードを文字列として入力します。	---
1		

ヤンク (ペースト)	バッファの内容をカーソル位置に挿入します。	---
1		
直前読み文字列	入力中の文字を、直前に入力されたかな文字列に置き換えます。	---
1		
直前読み文字列	入力中の文字を、直前に入力されたかな文字列に置き換えます。	Shift + BackSpace
13		
MS-IME 全角スペース入力	全角スペースを入力します。行頭でも入力できます。	---
02		
再表示	変換行の再描画を行います。	---
0124		
履歴置き換え (直前) 確定文字列	履歴に記録されている、直前に確定した文字列に置き換えます。	---
1		
履歴置き換え (直前) 確定文字列	履歴に記録されている、直前に確定した文字列に置き換えます。	Ctrl + ↑ Alt + ↑
13		
履歴置き換え (直後) 確定文字列	履歴に記録されている、直後に確定した文字列に置き換えます。	---
1		
履歴置き換え (直後) 確定文字列	履歴に記録されている、直後に確定した文字列に置き換えます。	Ctrl + ↓ Alt + ↑
13		
履歴一覧	今まで確定してきた文字列を一覧で表示します。	---
13		
正 (右) 移動	候補一覧画面などでカーソルを右方向に移動します。	---
4		
逆 (左) 移動	候補一覧画面などでカーソルを左方向に移動します。	---
4		
画面先頭へ移動	候補一覧画面などで画面上の先頭位置に移動します。	---
4		

画面末尾へ移動	候補一覧画面などで画面上の末尾に移動します。	---
4		
次ページ表示	候補一覧やコード一覧などの表示画面で次のページに移動します。	PageDown
4		
前ページ表示	候補一覧やコード一覧などの表示画面で前のページに移動します。	PageUp
4		
次画面選択	候補一覧画面などで次の画面に移動します。	---
4		
前画面選択	候補一覧画面などで前の画面に移動します。	---
4		
候補選択	変換候補を選択します。	---
4		
ATOK 次候補	候補一覧画面上でカーソルを次候補に移動します。	Space Shift + Space
4		
ATOK 前候補	候補一覧画面上でカーソルを前候補に移動します。	↑
4		
ATOK 次候補群	候補一覧画面上で次候補群に移動します。	Alt + ↓
4		
ATOK 前候補群	候補一覧画面上で前候補群に移動します。	Alt + ↑
4		
ATOK 次候補一覧	ATOK 風の次候補一覧を表示します。	Space Shift + Space
4		
VJE 次候補一覧	次候補一覧を表示します。	---
4		
キャンセル	変換候補や予測候補を閉じて入力状態に戻します。	Ctrl + G
4 5		
文字列確定	入力中の文字列を確定します。	Enter
0 1 2 5		Ctrl + M

一文字確定	先頭の1文字のみを確定し、残りを未変換状態にします。	Shift + F5
012		
先頭一文字確定	先頭の1文字のみを確定し、残りを未変換状態にします。	PageUp
02		
末尾一文字確定	文節の末尾1文字のみを確定し、残りを消去します。	PageDown
02		
一音確定	先頭の1かな文字のみ確定し、残りを未変換状態にします。	Shift + ↓
1		
対象文節確定	先頭からカーソル位置までの文節を確定し、次の文節に移動します。	↓ Ctrl + N
02		
一文節確定	先頭の1文節を確定し、次の文節に移動します。	---
02		
MS-IME 文節確定	先頭からカーソル上の文節までを確定します。	---
02		
英数字変換	入力文字を全角英数字に変換します。	F9 Ctrl + P
012		
半角変換	入力文字を半角に変換します。	F8 Ctrl + O
012		
MS-IME 半角英数字変換	文字列を半角英数字に変換します。	---
012		
ひらがな変換	入力文字をひらがなに変換します。	F6 Ctrl + U
012		
カタカナ変換	入力文字を全角カタカナに変換します。	F7 Ctrl + I
012		
順変換 1	ひらがな → カタカナ → 半角カタカナ → 全角英数字 → 半角英数字の変換を繰り返します。	---
012		
順変換 2	ひらがな → カタカナ → 半角カタカナの変換を繰り返します。	---
012		

単漢字変換	入力文字を単漢字として変換します。	Shift + F1
01		
異形字一覧	変換した語句の旧字体、新字体などの異形字の候補を表示します。	Shift + F8
0		
電話番号変換	市外局番(数字)を該当する住所に変換します。	Shift + F3
012		
郵便番号変換	郵便番号(数字7桁)を該当する住所に変換します。	Shift + F2
012		
連想変換	変換した語句の類義語や同義語を表示します。	Shift + F9
0		
逆引き変換	逆引き変換ツールを起動します。	Shift + F9
13		
単語登録起動	単語登録ツール(簡易版)を起動します。	---
012		
単語登録起動	単語登録ツール(簡易版)を起動します。	---
0123		
部首入力起動	部首入力ツールを起動します。	Shift + F6
13		
区点入力	区点コード入力ツールを起動します。	---
1		
区点入力	区点コード入力ツールを起動します。	F10 Alt + 英数
13		
JISコード入力	JISコード入力ツールを起動します。	---
1		
JISコード入力	JISコード入力ツールを起動します。	Ctrl + F10
13		
シフト JISコード入力	シフト JISコード入力ツールを起動します。	Ctrl + F9
13		

Unicode 入力	Unicode 入力ツールを起動します。	Ctrl + F8
13		
補助漢字区点コード入力	補助漢字区点コード入力ツールを起動します。	---
13		
補助漢字 JIS コード入力	補助漢字 JIS コード入力ツールを起動します。	---
13		
ギリシャ語入力	ギリシャ語一覧表を表示します。	---
13		
ロシア語入力	ロシア語一覧表を表示します。	---
13		
記号一覧入力	記号区点コード一覧表を表示します。	---
13		
記号前区点表示	記号区点コード一覧表の先頭ページを表示します。	Home
4		
記号外字先頭表示	記号区点コード一覧表の外字領域の先頭ページを表示します。	Shift + Home
4		
次の区へ移動	区点一覧表で、次の区点を表示します。	Tab
4		
前の区へ移動	区点一覧表で、前の区点を表示します。	Shift + Tab
4		
コード一覧	コード一覧画面を起動します。	Shift + F12
13		
Unicode 一覧	Unicode 一覧画面を起動します。	Ctrl + Shift + F4
13		
楽々入力候補操作	楽々入力(入力予測)候補を表示または選択します。	Tab
15		
設定反映	変更した環境設定内容を wnn8le に反映します。	Shift + F5
3		

MS-IME 風

機能名	機能	キーバインド
動作モード		
変換 ON / OFF	日本語入力モードの ON / OFF を切り替えます。	Ctrl + Space
0 1 2 3 4		Ctrl + \
		Ctrl + @
右へ進む	1 文字分右にカーソルを移動します。	→
		Shift + →
1		Ctrl + D
		Ctrl + L
左へ進む	1 文字分左にカーソルを移動します。	←
	変換解除した文字列の左端にカーソルがある状態では、連文節変換を行なった上で1つ左の文節に移動します。	Shift + ←
1		Ctrl + K
		Ctrl + S
行の先頭に飛ぶ	行の先頭にカーソルを移動します。	Home
		↑
1		Ctrl + ←
		Ctrl + A
		Ctrl + E
行の後端に飛ぶ	行の末尾にカーソルを移動します。	End
		↓
1		Ctrl + →
		Ctrl + ↓
		Ctrl + N
		Ctrl + X
連文節変換	つながりのある 1 文節に拡張して変換します。	Space
1		
N 文字無変換	先頭の 1 文字を変換せずに、残りの文字列を変換します。	Shift + F6
0 1		

文節伸ばし変換	文節の伸縮操作時、反転中の文字列を単文節変換しそれ以降を連文節変換します。	Space
2		
文節変換	各品詞単位 (名詞、接頭語、接尾語、助数詞) で変換します。	---
1		
文節次候補	文節単位で次候補を表示します。	---
0		
文節前候補	文節単位で前候補を表示します。	---
0		
文節次候補一覧	文節単位で次候補一覧を表示します。	---
0		
文節1文字長く	反転中の文節を1文字分長くします。	Shift + → Ctrl + L
0		
文節1文字短く	反転中の文節を1文字分短くします。	Shift + ← Ctrl + K
0		
文節右移動	反転中の文節を1文節右へ移動します。	→ Ctrl + D
0	未定義の場合は「右へ進む」での定義が適用されます。	
文節右移動	伸縮後、反転部を単文節変換し、それ以降の文字を連文節変換して1文節右へ移動します。	---
2	未定義の場合は「右へ進む」での定義が適用されます。	
文節左移動	反転中の文節を1文節左へ移動します。	← Ctrl + S
0	未定義の場合は「左へ進む」での定義が適用されます。	
文節左移動	伸縮後、反転部を単文節変換し、それ以降の文字を連文節変換して1文節左へ移動します。	---
2	未定義の場合は「左へ進む」での定義が適用されます。	

先頭の文節へ移動	行の先頭の文節に移動します。	Home
0	未定義の場合は「行の先頭へ飛ぶ」の定義が適用されます。	Ctrl + ← Ctrl + A
最後の文節へ移動	行の末尾の文節に移動します。	End
0	未定義の場合は「行の後端へ飛ぶ」の定義が適用されます。	Ctrl + → Ctrl + F
かな文字列消去	カーソル位置にある文字以降を消去してバッファに蓄積します。	---
1		
1文字消去(カーソル左)	カーソルの左にある文字を消去します。	BackSpace Ctrl + H
1	キーコードは1バイトに制限されます。	
1文字消去(カーソル位置)	カーソル位置にある文字を消去します。	Delete Ctrl + G
15		
削除	入力中の文字列をすべて削除します。	---
15		
文字列送り	変換行内の文字列に、バインドされているキーコードを付け加えてアプリケーションに送ります。	---
012		
変換再編集	変換した文字列を再度編集可能な状態にします。	---
0	編集後に変換した文字列は元に戻せません。	
漢字をかなに戻す	カーソル位置の文節以降の変換済文字列を、変換前の状態に戻します。	---
02		
ATOK 解除	カーソル位置の文節以降の変換済文字列を、変換前の状態に戻します。	---
02		
ATOK 全解除	変換済文字列の全文を、変換前の状態に戻します。	---
02		
VJE 取り消し	未変換文字列は削除し、変換済文字列は変換前の状態に戻します。	Ctrl + [
012		

キーのクォート	キーバインドの機能を無効にし、キーコードを文字列として入力します。	---
1		
ヤンク (ペースト)	バッファの内容をカーソル位置に挿入します。	---
1		
直前読み文字列	入力中の文字を、直前に入力されたかな文字列に置き換えます。	---
1		
直前読み文字列	入力中の文字を、直前に入力されたかな文字列に置き換えます。	F12
13		
MS-IME 全角スペース入力	全角スペースを入力します。行頭でも入力できます。	Ctrl + Shift + Space
02		
再表示	変換行の再描画を行います。	---
0124		
履歴置き換え (直前) 確定文字列	履歴に記録されている、直前に確定した文字列に置き換えます。	---
1		
履歴置き換え (直前) 確定文字列	履歴に記録されている、直前に確定した文字列に置き換えます。	Ctrl + F10
13		
履歴置き換え (直後) 確定文字列	履歴に記録されている、直後に確定した文字列に置き換えます。	---
1		
履歴置き換え (直後) 確定文字列	履歴に記録されている、直後に確定した文字列に置き換えます。	Ctrl + F11
13		
履歴一覧	今まで確定してきた文字列を一覧で表示します。	Shift + F4
13		
正 (右) 移動	候補一覧画面などでカーソルを右方向に移動します。	---
4		
逆 (左) 移動	候補一覧画面などでカーソルを左方向に移動します。	---
4		

画面先頭へ移動	候補一覧画面などで画面上の先頭位置に移動します。	Home
4		
画面末尾へ移動	候補一覧画面などで画面上の末尾に移動します。	End
4		
次ページ表示	候補一覧やコード一覧などの表示画面で次のページに移動します。	---
4		
前ページ表示	候補一覧やコード一覧などの表示画面で前のページに移動します。	---
4		
次画面選択	候補一覧画面などで次の画面に移動します。	---
4		
前画面選択	候補一覧画面などで前の画面に移動します。	---
4		
候補選択	変換候補を選択します。	---
4		
ATOK 次候補	候補一覧画面上でカーソルを次候補に移動します。	Space ↓ Ctrl + X
4		
ATOK 前候補	候補一覧画面上でカーソルを前候補に移動します。	Shift + Space ↑ Ctrl + E
4		
ATOK 次候補群	候補一覧画面上で次候補群に移動します。	PageDown Shift + ↓
4		
ATOK 前候補群	候補一覧画面上で前候補群に移動します。	PageUp
4		
ATOK 次候補一覧	ATOK 風の次候補一覧を表示します。	---
4		
VJE 次候補一覧	次候補一覧を表示します。	Space ↓ Ctrl + X
4		

キャンセル	変換候補や予測候補を閉じて入力状態に戻します。	Ctrl + G
45		Ctrl + [
文字列確定	入力中の文字列を確定します。	Enter
0125		Ctrl + M
一文字確定	先頭の1文字のみを確定し、残りを未変換状態にします。	---
012		
先頭一文字確定	先頭の1文字のみを確定し、残りを未変換状態にします。	---
02		
末尾一文字確定	文節の末尾1文字のみを確定し、残りを消去します。	---
02		
一音確定	先頭の1かな文字のみ確定し、残りを未変換状態にします。	Shift + ↓
1		
対象文節確定	先頭からカーソル位置までの文節を確定し、次の文節に移動します。	---
02		
一文節確定	先頭の1文節を確定し、次の文節に移動します。	Shift + ↓
02		
MS-IME 文節確定	先頭からカーソル上の文節までを確定します。	Ctrl + Down
02		Ctrl + N
英数字変換	入力文字を全角英数字に変換します。	F9
012		Ctrl + P
半角変換	入力文字を半角に変換します。	F8
012		Ctrl + O
MS-IME 半角英数字変換	文字列を半角英数字に変換します。	F10
012		Ctrl + T
ひらがな変換	入力文字をひらがなに変換します。	F6
012		Ctrl + U
カタカナ変換	入力文字を全角カタカナに変換します。	F7
012		Ctrl + I

順変換 1	ひらがな → カタカナ → 半角カタカナ → 全角英数字 → 半角英数字の変換を繰り返します。	Ctrl + Shift + B
0 1 2		
順変換 2	ひらがな → カタカナ → 半角カタカナの変換を繰り返します。	Ctrl + B
0 1 2		
単漢字変換	入力文字を単漢字として変換します。	Shift + F1
0 1		
異形字一覧	変換した語句の旧字体、新字体などの異形字の候補を表示します。	Shift + F8
0		
電話番号変換	市外局番(数字)を該当する住所に変換します。	Shift + F3
0 1 2		
郵便番号変換	郵便番号(数字7桁)を該当する住所に変換します。	Shift + F2
0 1 2		
連想変換	変換した語句の類義語や同義語を表示します。	Shift + F9
0		
逆引き変換	逆引き変換ツールを起動します。	Ctrl + J
1 3		
単語登録起動	単語登録ツール(簡易版)を起動します。	---
0 1 2		
単語登録起動	単語登録ツール(簡易版)を起動します。	Ctrl + F1
0 1 2 3		
部首入力起動	部首入力ツールを起動します。	F5
1 3		Ctrl + Y
区点入力	区点コード入力ツールを起動します。	---
1		
区点入力	区点コード入力ツールを起動します。	Shift + F7
1 3		Alt + 英数
JIS コード入力	JIS コード入力ツールを起動します。	---
1		

JIS コード入力	JIS コード入力ツールを起動します。	Shift + F9
13		Ctrl + F4
シフト JIS コード入力	シフト JIS コード入力ツールを起動します。	Ctrl + F9
13		
Unicode 入力	Unicode 入力ツールを起動します。	Ctrl + F8
13		
補助漢字区点コード入力	補助漢字区点コード入力ツールを起動します。	Ctrl + Shift + F3
13		
補助漢字 JIS コード入力	補助漢字 JIS コード入力ツールを起動します。	Ctrl + Shift + F2
13		
ギリシャ語入力	ギリシャ語一覧表を表示します。	Ctrl + F6
13		
ロシア語入力	ロシア語一覧表を表示します。	Ctrl + F7
13		
記号一覧入力	記号区点コード一覧表を表示します。	Shift + F10
13		
記号前区点表示	記号区点コード一覧表の先頭ページを表示します。	---
4		
記号外字先頭表示	記号区点コード一覧表の外字領域の先頭ページを表示します。	---
4		
次の区へ移動	区点一覧表で、次の区点を表示します。	Ctrl + N
4		
前の区へ移動	区点一覧表で、前の区点を表示します。	Ctrl + P
4		
コード一覧	コード一覧画面を起動します。	Shift + F12
13		
Unicode 一覧	Unicode 一覧画面を起動します。	Ctrl + Shift + F4
13		

楽々入力候補操作	楽々入力(入力予測)候補を表示 または選択します。	Tab
15		
設定反映	変更した環境設定内容を wnn8le に反映します。	Shift + F5
3		

Egg 風

機能名	機能	キーバインド
動作モード		
変換 ON / OFF	日本語入力モードの ON / OFF を切り替えます。	Ctrl + Space Ctrl + \
01234		
右へ進む	1文字分右にカーソルを移動し ます。	→ Ctrl + F
1		
左へ進む	1文字分左にカーソルを移動し ます。 変換解除した文字列の左端に カーソルがある状態では、連文 節変換を行なった上で1つ左の 文節に移動します。	← Ctrl + B
1		
行の先頭に飛ぶ	行の先頭にカーソルを移動しま す。	Ctrl + A
1		
行の後端に飛ぶ	行の末尾にカーソルを移動しま す。	Ctrl + E
1		
連文節変換	つながりのある1文節に拡張し て変換します。	Space Ctrl + W
1		
N文字無変換	先頭の1文字を変換せずに、残 りの文字列を変換します。	Shift + F6
01		
文節伸ばし変換	文節の伸縮操作時、反転中の文 字列を単文節変換しそれ以降を 連文節変換します。	Space Ctrl + W Ctrl + Z
2		

文節変換	各品詞単位 (名詞、接頭語、接尾語、助数詞) で変換します。	Ctrl + Z
1		
文節次候補	文節単位で次候補を表示します。	Alt + S Alt + Z
0		
文節前候補	文節単位で前候補を表示します。	---
0		
文節次候補一覧	文節単位で次候補一覧を表示します。	---
0		
文節1文字長く	反転中の文節を1文字分長くします。	Ctrl + O
0		
文節1文字短く	反転中の文節を1文字分短くします。	Ctrl + I
0		
文節右移動	反転中の文節を1文節右へ移動します。 未定義の場合は「右へ進む」での定義が適用されます。	---
0		
文節右移動	伸縮後、反転部を単文節変換し、それ以降の文字を連文節変換して1文節右へ移動します。 未定義の場合は「右へ進む」での定義が適用されます。	---
2		
文節左移動	反転中の文節を1文節左へ移動します。 未定義の場合は「左へ進む」での定義が適用されます。	---
0		
文節左移動	伸縮後、反転部を単文節変換し、それ以降の文字を連文節変換して1文節左へ移動します。 未定義の場合は「左へ進む」での定義が適用されます。	---
2		
先頭の文節へ移動	行の先頭の文節に移動します。 未定義の場合は「行の先頭へ飛ぶ」の定義が適用されます。	---
0		

最後の文節へ移動	行の末尾の文節に移動します。	---
0	未定義の場合は「行の後端へ飛ぶ」の定義が適用されます。	
かな文字列消去	カーソル位置にある文字以降を消去してバッファに蓄積します。	Ctrl + K
1		
1 文字消去 (カーソル左)	カーソルの左にある文字を消去します。	Delete
1	キーコードは1バイトに制限されます。	
1 文字消去 (カーソル位置)	カーソル位置にある文字を消去します。	Ctrl + D
15		
削除	入力中の文字列をすべて削除します。	---
15		
文字列送り	変換行内の文字列に、バインドされているキーコードを付け加えてアプリケーションに送ります。	Ctrl + [
0 1 2		
変換再編集	変換した文字列を再度編集可能な状態にします。	---
0	編集後に変換した文字列は元に戻せません。	
漢字をかなに戻す	カーソル位置の文節以降の変換済文字列を、変換前の状態に戻します。	Ctrl + K
0 2		
ATOK 解除	カーソル位置の文節以降の変換済文字列を、変換前の状態に戻します。	---
0 2		
ATOK 全解除	変換済文字列の全文を、変換前の状態に戻します。	---
0 2		
VJE 取り消し	未変換文字列は削除し、変換済文字列は変換前の状態に戻します。	Ctrl + C Ctrl + G
0 1 2		
キーのクォート	キーバインドの機能を無効にし、キーコードを文字列として入力します。	Ctrl + V
1		

ヤンク (ペースト)	バッファの内容をカーソル位置に挿入します。	Ctrl + Y
1		
直前読み文字列	入力中の文字を、直前に入力されたかな文字列に置き換えます。	Ctrl + U
1		
直前読み文字列	入力中の文字を、直前に入力されたかな文字列に置き換えます。	F12
1 3		
MS-IME 全角スペース入力	全角スペースを入力します。行頭でも入力できます。	---
0 2		
再表示	変換行の再描画を行います。	Ctrl + R
0 1 2 4		
履歴置き換え (直前) 確定文字列	履歴に記録されている、直前に確定した文字列に置き換えます。	Ctrl + P
1		
履歴置き換え (直前) 確定文字列	履歴に記録されている、直前に確定した文字列に置き換えます。	↑
1 3		
履歴置き換え (直後) 確定文字列	履歴に記録されている、直後に確定した文字列に置き換えます。	Ctrl + N
1		
履歴置き換え (直後) 確定文字列	履歴に記録されている、直後に確定した文字列に置き換えます。	↓
1 3		
履歴一覧	今まで確定してきた文字列を一覧で表示します。	Shift + F4
1 3		
正 (右) 移動	候補一覧画面などでカーソルを右方向に移動します。	Ctrl + F
4		→
逆 (左) 移動	候補一覧画面などでカーソルを左方向に移動します。	Ctrl + B
4		←
画面先頭へ移動	候補一覧画面などで画面上の先頭位置に移動します。	Ctrl + A
4		

画面末尾へ移動	候補一覧画面などで画面上の末尾に移動します。	Ctrl + E
4		
次ページ表示	候補一覧やコード一覧などの表示画面で次のページに移動します。	PageDown
4		
前ページ表示	候補一覧やコード一覧などの表示画面で前のページに移動します。	PageUp
4		
次画面選択	候補一覧画面などで次の画面に移動します。	Ctrl + N ↓
4		
前画面選択	候補一覧画面などで前の画面に移動します。	Ctrl + P ↑
4		
候補選択	変換候補を選択します。	Enter
4		
ATOK 次候補	候補一覧画面上でカーソルを次候補に移動します。	---
4		
ATOK 前候補	候補一覧画面上でカーソルを前候補に移動します。	---
4		
ATOK 次候補群	候補一覧画面上で次候補群に移動します。	---
4		
ATOK 前候補群	候補一覧画面上で前候補群に移動します。	---
4		
ATOK 次候補一覧	ATOK 風の次候補一覧を表示します。	---
4		
VJE 次候補一覧	次候補一覧を表示します。	---
4		
キャンセル	変換候補や予測候補を閉じて入力状態に戻します。	Ctrl + G
4 5		
文字列確定	入力中の文字列を確定します。	Enter
0 1 2 5		Ctrl + L Ctrl + M

一文字確定	先頭の1文字のみを確定し、残りを未変換状態にします。	Shift + F5
012		
先頭一文字確定	先頭の1文字のみを確定し、残りを未変換状態にします。	---
02		
末尾一文字確定	文節の末尾1文字のみを確定し、残りを消去します。	---
02		
一音確定	先頭の1かな文字のみ確定し、残りを未変換状態にします。	---
1		
対象文節確定	先頭からカーソル位置までの文節を確定し、次の文節に移動します。	---
02		
一文節確定	先頭の1文節を確定し、次の文節に移動します。	---
02		
MS-IME 文節確定	先頭からカーソル上の文節までを確定します。	---
02		
英数字変換	入力文字を全角英数字に変換します。	Alt + M
012		
半角変換	入力文字を半角に変換します。	---
012		
MS-IME 半角英数字変換	文字列を半角英数字に変換します。	Alt + N
012		
ひらがな変換	入力文字をひらがなに変換します。	Alt + H
012		
カタカナ変換	入力文字を全角カタカナに変換します。	Alt + K
012		
順変換 1	ひらがな → カタカナ → 半角カタカナ → 全角英数字 → 半角英数字の変換を繰り返します。	---
012		
順変換 2	ひらがな → カタカナ → 半角カタカナの変換を繰り返します。	---
012		

単漢字変換	入力文字を単漢字として変換します。	Shift + F1
01		
異形字一覧	変換した語句の旧字体、新字体などの異形字の候補を表示します。	Shift + F8
0		
電話番号変換	市外局番(数字)を該当する住所に変換します。	Shift + F3
012		
郵便番号変換	郵便番号(数字7桁)を該当する住所に変換します。	Shift + F2
012		
連想変換	変換した語句の類義語や同義語を表示します。	Shift + F9
0		
逆引き変換	逆引き変換ツールを起動します。	Shift + F10
13		
単語登録起動	単語登録ツール(簡易版)を起動します。	Ctrl + T
012		
単語登録起動	単語登録ツール(簡易版)を起動します。	---
0123		
部首入力起動	部首入力ツールを起動します。	Shift + F7
13		
区点入力	区点コード入力ツールを起動します。	Ctrl +]
1		
区点入力	区点コード入力ツールを起動します。	Ctrl + F1
13		
JISコード入力	JISコード入力ツールを起動します。	Ctrl + _
1		
JISコード入力	JISコード入力ツールを起動します。	Ctrl + F2
13		
シフト JISコード入力	シフト JISコード入力ツールを起動します。	Ctrl + F9
13		

Unicode 入力	Unicode 入力ツールを起動します。	Ctrl + F8
13		
補助漢字区点コード入力	補助漢字区点コード入力ツールを起動します。	Ctrl + Shift + F1
13		
補助漢字 JIS コード入力	補助漢字 JIS コード入力ツールを起動します。	Ctrl + Shift + F2
13		
ギリシャ語入力	ギリシャ語一覧表を表示します。	Ctrl + F4
13		
ロシア語入力	ロシア語一覧表を表示します。	Ctrl + F5
13		
記号一覧入力	記号区点コード一覧表を表示します。	Ctrl + ^
13		Ctrl + F3
記号前区点表示	記号区点コード一覧表の先頭ページを表示します。	---
4		
記号外字先頭表示	記号区点コード一覧表の外字領域の先頭ページを表示します。	---
4		
次の区へ移動	区点一覧表で、次の区点を表示します。	Tab
4		
前の区へ移動	区点一覧表で、前の区点を表示します。	Shift + Tab
4		
コード一覧	コード一覧画面を起動します。	Shift + F12
13		
Unicode 一覧	Unicode 一覧画面を起動します。	Ctrl + Shift + F4
13		
楽々入力候補操作	楽々入力(入力予測)候補を表示または選択します。	Tab
15		
設定反映	変更した環境設定内容を wnn8le に反映します。	Shift + F5
3		

ローマ字定義一覧

Wnn

Wnn									
A	あ	I	い	U	う	E	え	O	お
KA	か	KI	き	KU	く	KE	け	KO	こ
SA	さ	SI	し	SU	す	SE	せ	SO	そ
TA	た	TI	ち	TU	つ	TE	て	TO	と
NA	な	NI	に	NU	ぬ	NE	ね	NO	の
HA	は	HI	ひ	HU	ふ	HE	へ	HO	ほ
MA	ま	MI	み	MU	む	ME	め	MO	も
YA	や	YI	い	YU	ゆ	YE	いえ	YO	よ
RA	ら	RI	り	RU	る	RE	れ	RO	ろ
LA	ら	LI	り	LU	る	LE	れ	LO	ろ
WA	わ	WI	ゐ	WU	う	WE	ゑ	WO	を
N	ん	N'	ん	NN	ん				
GA	が	GI	ぎ	GU	ぐ	GE	げ	GO	ご
ZA	ざ	ZI	じ	ZU	ず	ZE	ぜ	ZO	ぞ
DA	だ	DI	ぢ	DU	づ	DE	で	DO	ど
BA	ば	BI	び	BU	ぶ	BE	べ	BO	ぼ
PA	ぱ	PI	ぴ	PU	ぷ	PE	ぺ	PO	ぽ

Wnn									
KYA	きや	KYI	きい	KYU	きゅ	KYE	きえ	KYO	きよ
SYA	しや	SYI	しい	SYU	しゅ	SYE	しえ	SYO	しよ
SHA	しゃ	SHI	し	SHU	しゅ	SHE	しえ	SHO	しよ
TYA	ちや	TYI	てい	TYU	ちゅ	TYE	ちえ	TYO	ちよ
THA	てや	THI	てい	THU	てゅ	THE	てえ	THO	てよ
CHA	ちや	CHI	ち	CHU	ちゅ	CHE	ちえ	CHO	ちよ
NYA	にや	NYI	にい	NYU	にゅ	NYE	にえ	NYO	によ
HYA	ひや	HYI	ひい	HYU	ひゅ	HYE	ひえ	HYO	ひよ
FA	ふあ	FI	ふい	FU	ふ	FE	ふえ	FO	ふお
FYA	ふや	FYI	ふい	FYU	ふゅ	FYE	ふえ	MYO	みよ
MYA	みや	MYI	みい	MYU	みゅ	MYE	みえ	MYO	みよ
RYA	りや	RYI	りい	RYU	りゅ	RYE	りえ	RYO	りよ
LYA	りや	LYI	りい	LYU	りゅ	LYE	りえ	LYO	りよ
XA	あ	XI	い	XU	う	XE	え	XO	お
XYA	や			XYU	ゅ			XYO	よ
\A	あ	\I	い	\U	う	\E	え	\O	お
\YA	や			\YU	ゅ			\YO	よ
GYA	ぎや	GYI	ぎい	GYU	ぎゅ	GYE	ぎえ	GYO	ぎよ
JA	じゃ	JI	じ	JU	じゅ	JE	じえ	JO	じよ
ZYA	じゃ	ZYI	じい	ZYU	じゅ	ZYE	じえ	ZYO	じよ
DYA	ぢや	DYI	でい	DYU	ぢゅ	DYE	ぢえ	DYO	ぢよ
DHA	でや	DHI	でい	DHU	でゅ	DHE	でえ	DHO	でよ
BYA	びや	BYI	びい	BYU	びゅ	BYE	びえ	BYO	びよ
PYA	ぴや	PYI	ぴい	PYU	ぴゅ	PYE	ぴえ	PYO	ぴよ
KWA	くわ	KWI	くい	KWU	く	KWE	くえ	KWO	くお
GWA	ぐわ	GWI	ぐい	GWU	ぐ	GWE	ぐえ	GWO	ぐお
TSA	つあ	TSI	つい	TSU	つ	TSE	つえ	TSO	つお
XTI	てい	XDI	でい	XDU	どう	XDE	でえ	XDO	どお
		XWI	うい			XWE	うえ	XWO	うお
XTU	つ	XWA	わ						

Wnn									
XKA	(カ)	XKE	(ケ)						
\KA	(カ)	\KE	(ケ)						
VA	ぶあ	VI	ぶい	VU	ぶ	VE	ぶえ	VO	ぶお
VHA	うゝあ (ヴァ)	VHI	うゝい (ヴィ)	VHU	うゝ (ヴ)	VHE	うゝえ (ヴェ)	VHO	うゝお (ヴォ)

注-()内の変換は、カタカナモードの場合に限り、適応されます。

最後に" ^ "または" ¯ "を入力すると、次のような変換を行います。

(例)

A ^	ああ	I ^	いい	U ^	うう	E ^	えい	O ^	おう
A ¯	ああ	I ¯	いい	U ¯	うう	E ¯	えい	O ¯	おう
KA ^	かあ	KI ^	きい	KU ^	くう	KE ^	けい	KO ^	こう
—	ー	.	。	[「	Z.	...	Z—	～
,	、	/	・]	」				

X—	-	X,	,	X/	/	X;	;	X:	:
X[[X]]	X^	^	X¯	~	X.	.
X\	\								

「ん」「っ」「ー」について	
ん	<p>Nの次に子音または英数記号を入力すると、「ん」に変換します。</p> <p>NのつぎにYまたは、A、I、U、E、Oを入力して、「ん」と変換する場合は、Nの次に、'を入力します。</p> <p>また、Mの次にBまたはM、Pを入力しても、「ん」に変換します。</p> <p>(例) HONDA (ほんだ)</p> <p>(例) HON'YA (ほんや)</p> <p>(例) HOMMONO (ほんもの)</p>

っ	M、N、Q及びX以外の子音を連続で入力すると、「っ」に変換します。 また、Tの次にCHを入力しても、「っ」に変換します。 (例) SIPPO(しっぽ) (例) RITCHI(りっち)
ー	ローマ字かなの状態で、「ー」を入力します。

JIS規格風

JIS									
A	あ	I	い	U	う	E	え	O	お
KA	か	KI	き	KU	く	KE	け	KO	こ
SA	さ	SI	し	SU	す	SE	せ	SO	そ
TA	た	TI	ち	TU	つ	TE	て	TO	と
NA	な	NI	に	NU	ぬ	NE	ね	NO	の
HA	は	HI	ひ	HU	ふ	HE	へ	HO	ほ
MA	ま	MI	み	MU	む	ME	め	MO	も
YA	や			YU	ゆ	YE	いえ	YO	よ
RA	ら	RI	り	RU	る	RE	れ	RO	ろ
WA	わ	WYI	ゐ			WYE	ゑ	WO	を
N	ん	N'	ん	NN	ん				
GA	が	GI	ぎ	GU	ぐ	GE	げ	GO	ご
ZA	ざ	ZI	じ	ZU	ず	ZE	ぜ	ZO	ぞ
DA	だ	DI	ぢ	DU	づ	DE	で	DO	ど
BA	ば	BI	び	BU	ぶ	BE	べ	BO	ぼ
PA	ぱ	PI	ぴ	PU	ぷ	PE	ぺ	PO	ぽ

JIS									
KYA	きや			KYU	きゅ			KYO	きよ
SYA	しや			SYU	しゅ	SYE	しえ	SYO	しよ
SHA	しゃ	SHI	し	SHU	しゅ	SHE	しえ	SHO	しよ
TYA	ちや			TYU	ちゅ	TYE	ちえ	TYO	ちよ
CYA	ちや			CYU	ちゅ			CYO	ちよ
CHA	ちや	CHI	ち	CHU	ちゅ	CHE	ちえ	CHO	ちよ
NYA	にや			NYU	にゅ			NYO	によ
HYA	ひや			HYU	ひゅ	FE	ふえ	HYO	ひよ
FA	ふあ	FI	ふい	FU	ふ			FO	ふお
MYA	みや			MYU	みゅ			MYO	みよ
RYA	りや			RYU	りゅ			RYO	りよ
XA	あ	XI	い	XU	う	XE	え	XO	お
XYA	や			XYU	ゅ			XYO	よ
GYA	ぎや			GYU	ぎゅ			GYO	ぎよ
JA	じゃ	JI	じ	JU	じゅ	JE	じえ	JO	じよ
JYA	じゃ			JYU	じゅ			JYO	じよ
ZYA	じゃ			ZYU	じゅ	ZYE	じえ	ZYO	じよ
DYA	ぢや			DYU	ぢゅ			DYO	ぢよ
BYA	びや			BYU	びゅ			BYO	びよ
PYA	ぴや			PYU	ぴゅ			PYO	ぴよ
KWA	くわ	KWI	くい			KWE	くえ	KWO	くお
GWA	ぐわ								
TSA	つあ	TSI	つい	TSU	つ	TSE	つえ	TSO	つお
HWA	ふあ	HWI	ふい			HWE	ふえ	HWO	ふお
		WHI	うい			WHE	うえ	WHO	うお
		WI	うい			WE	うえ		
THI	てい	DHI	でい	THU	てゅ	DHU	でゅ		
T'I	てい	D'I	でい						

JIS									
TWU	とう	DWU	どう	FYU	ふゆ	VYU	う`ゆ		
T`U	とう	D`U	どう						
XTU	っ	XWA	わ						
XKA	(カ)	XKE	(ケ)						
VA	ぶあ (ヴァ)	VI	ぶい (ヴィ)	VU	ぶ (ヴ)	VE	ぶえ (ヴェ)	VO	ぶお (ヴォ)

注-()内の変換は、カタカナモードの場合に限り、適応されます。

ー	ー	.	。	[「				
/	・	,	,]	」				

「ん」「っ」「ー」について	
ん	Nの次に子音または英数記号を入力すると、「ん」に変換します。 NのつぎにYまたは、A、I、U、E、Oを入力して、「ん」と変換する場合は、Nの次に、'を入力します。 (例) HONDA (ほんだ) (例) HON'YA (ほんや)
っ	NまたはQ以外の子音を連続で入力すると、「っ」に変換します。 (例) SIPPO (しっぽ)
ー	ローマ字かなの状態で、「ー」を入力します。

ATOK風

ATOK									
A	あ	I	い	U	う	E	え	O	お
KA	か	KI	き	KU	く	KE	け	KO	こ
SA	さ	SI	し	SU	す	SE	せ	SO	そ
TA	た	TI	ち	TU	つ	TE	て	TO	と
NA	な	NI	に	NU	ぬ	NE	ね	NO	の
HA	は	HI	ひ	HU	ふ	HE	へ	HO	ほ
MA	ま	MI	み	MU	む	ME	め	MO	も
YA	や	YI	い	YU	ゆ	YE	いえ	YO	よ
RA	ら	RI	り	RU	る	RE	れ	RO	ろ
WA	わ	WI	うい	WU	う	WE	うい	WO	を
N	ん	NN	ん	N'	ん				
GA	が	GI	ぎ	GU	ぐ	GE	げ	GO	ご
ZA	ざ	ZI	じ	ZU	ず	ZE	ぜ	ZO	ぞ
DA	だ	DI	ぢ	DU	づ	DE	で	DO	ど
BA	ば	BI	び	BU	ぶ	BE	べ	BO	ぼ
PA	ぱ	PI	ぴ	PU	ぷ	PE	ぺ	PO	ぽ

ATOK									
KYA	きや	KYI	きい	KYU	きゅ	KYE	きえ	KYO	きよ
SYA	しや	SYI	しい	SYU	しゅ	SYE	しえ	SYO	しよ
SHA	しゃ	SHI	し	SHU	しゅ	SHE	しえ	SHO	しよ
TYA	ちや	TYI	ちい	TYU	ちゅ	TYE	ちえ	TYO	ちよ
THA	ちや	THI	てい	THU	てゅ	THE	てえ	THO	てよ
CYA	ちや	CYI	ちい	CYU	ちゅ	CYE	ちえ	CYO	ちよ
CHA	ちや	CHI	ち	CHU	ちゅ	CHE	ちえ	CHO	ちよ
TSA	つあ	TSI	つい	TSU	つ	TSE	つえ	TSO	つお
NYA	にや	NYI	にい	NYU	にゅ	NYE	にえ	NYO	によ
HYA	ひや	HYI	ひい	HYU	ひゅ	HYE	ひえ	HYO	ひよ
FA	ふあ	FI	ふい	FU	ふ	FE	ふえ	FO	ふお
FYA	ふや	FYI	ふい	FYU	ふゅ	FYE	ふえ	FYO	ふよ
MYA	みや	MYI	みい	MYU	みゅ	MYE	みえ	MYO	みよ
RYA	りや	RYI	りい	RYU	りゅ	RYE	りえ	RYO	りよ
LA	あ	LI	い	LU	う	LE	え	LO	お
LYA	や	LYI	い	LYU	ゅ	LYE	え	LYO	よ
GYA	ぎや	GYI	ぎい	GYU	ぎゅ	GYU	ぎえ	GYO	ぎよ
JA	じゃ	JI	じ	JU	じゅ	JE	じえ	JO	じよ
JYA	じゃ	JYI	じい	JYU	じゅ	JYE	じえ	JYO	じよ
ZYA	じゃ	ZYI	じい	ZYU	じゅ	ZYE	じえ	ZYO	じよ
DYA	ぢや	DYI	ぢい	DYU	ぢゅ	DYE	ぢえ	DYO	ぢよ
DHA	でや	DHI	でい	DHU	でゅ	DHE	でえ	DHO	でよ
BYA	びや	BYI	びい	BYU	びゅ	BYE	びえ	BYO	びよ
PYA	ぴや	PYI	ぴい	PYU	ぴゅ	PYE	ぴえ	PYO	ぴよ
KWA	くわ								
GWA	ぐわ								
				TWU	とう				
				DWU	どう				
				LTU	っ				

ATOK									
VA	ぶあ (ヴァ)	VI	ぶい (ヴィ)	VU	ぶ (ヴ)	VE	ぶえ (ヴェ)	VO	ぶお (ヴォ)

注-()内の変換は、カタカナモードの場合に限り、適応されます。

—	—	.	。	[「				
/	・	,	、]	」				

「ん」「っ」「ー」について	
っ	N、Q、X以外の子音を連続で入力すると、「っ」に変換します。 (例) SHIPPO(しっぽ)
ー	ローマ字かなの状態で、「ー」を入力します。

MS-IME 風

MS-IME									
A	あ	I	い	U	う	E	え	O	お
KA	か	KI	き	KU	く	KE	け	KO	こ
CA	か	CI	し	CU	す	CE	せ	CO	こ
SA	さ	SI	し	SU	す	SE	せ	SO	そ
TA	た	TI	ち	TU	つ	TE	て	TO	と
NA	な	NI	に	NU	ぬ	NE	ね	NO	の
HA	は	HI	ひ	HU	ふ	HE	へ	HO	ほ
MA	ま	MI	み	MU	む	ME	め	MO	も
YA	や	YI	い	YU	ゆ	YE	いえ	YO	よ
RA	ら	RI	り	RU	る	RE	れ	RO	ろ
WA	わ	WI	うい	WU	う	WE	うえ	WO	を
N	ん	NN	ん	N'	ん	XN	ん		

MS-IME									
GA	が	GI	ぎ	GU	ぐ	GE	げ	GO	ご
ZA	ざ	ZI	じ	ZU	ず	ZE	ぜ	ZO	ぞ
DA	だ	DI	ぢ	DU	づ	DE	で	DO	ど
BA	ば	BI	び	BU	ぶ	BE	べ	BO	ぼ
PA	ぱ	PI	ぴ	PU	ぷ	PE	ぺ	PO	ぽ
KYA	きゃ	KYI	きい	KYU	きゅ	KYE	きえ	KYO	きよ
SYA	しゃ	SYI	しい	SYU	しゅ	SYE	しえ	SYO	しよ
SHA	しゃ	SHI	し	SHU	しゅ	SHE	しえ	SHO	しよ
TYA	ちゃ	TYI	ちい	TYU	ちゅ	TYE	ちえ	TYO	ちよ
THA	てゃ	THI	てい	THU	てゅ	THE	てえ	THO	てよ
CYA	ちゃ	CYI	ちい	CYU	ちゅ	CYE	ちえ	CYO	ちよ
CHA	ちゃ	CHI	ち	CHU	ちゅ	CHE	ちえ	CHO	ちよ
NYA	にゃ	NYI	にい	NYU	にゅ	NYE	にえ	NYO	によ
HYA	ひゃ	HYI	ひい	HYU	ひゅ	HYE	ひえ	HYO	ひよ
FA	ふぁ	FI	ふい	FU	ふ	FE	ふえ	FO	ふお
FYA	ふゃ	FYI	ふい	FYU	ふゅ	FYE	ふえ	FYO	ふよ
MYA	みゃ	MYI	みい	MYU	みゅ	MYE	みえ	MYO	みよ
RYA	りゃ	RYI	りい	RYU	りゅ	RYE	りえ	RYO	りよ
XA	ぁ	XI	い	XU	う	XE	え	XO	お
XYA	ゃ	XYI	い	XYU	ゅ	XYE	え	XYO	よ
LA	ぁ	LI	い	LU	う	LE	え	LO	お
LYA	ゃ	LYI	い	LYU	ゅ	LYE	え	LYO	よ
GYA	ぎゃ	GYI	ぎい	GYU	ぎゅ	GYE	ぎえ	GYO	ぎよ
JA	じゃ	JI	じ	JU	じゅ	JE	じえ	JO	じよ
JYA	じゃ	JYI	じい	JYU	じゅ	JYE	じえ	JYO	じよ
ZYA	じゃ	ZYI	じい	ZYU	じゅ	ZYE	じえ	ZYO	じよ
DYA	ぢゃ	DYI	ぢい	DYU	ぢゅ	DYE	ぢえ	DYO	ぢよ
DHA	でゃ	DHI	でい	DHU	でゅ	DHE	でえ	DHO	でよ
BYA	びゃ	BYI	びい	BYU	びゅ	BYE	びえ	BYO	びよ
PYA	ぴゃ	PYI	ぴい	PYU	ぴゅ	PYE	ぴえ	PYO	ぴよ

MS-IME									
GWA	ぐあ	GWI	ぐあ	GWU	ぐう	GWE	ぐえ	GWO	ぐお
SWA	すあ	SWI	すい	SWU	すう	SWE	すえ	SWO	すお
TSA	つあ	TSI	つい	TSU	つ	TSE	つえ	TSO	つお
TWA	とあ	TWI	とい	TWU	とう	TWE	とえ	TWO	とお
DWA	どあ	DWI	どい	DWU	どう	DWE	どえ	DWO	どお
FWA	ふあ	FWI	ふい	FWU	ふう	FWE	ふえ	FWO	ふお
WHA	うあ	WHI	うい	WHU	う	WHE	うえ	WHO	うお
QA	くあ	QI	くい	QU	く	QE	くえ	QO	くお
QWA	くあ	QWI	くい	QWU	くう	QWE	くえ	QWO	くお
QYA	くや	QYI	くい	QYU	くゆ	QYE	くえ	QYO	くよ
XTU	っ	LTU	っ						
VA	ヴあ (ヴァ)	VI	ヴい (ヴィ)	VU	ヴ(ヴ)	VE	ヴえ (ヴェ)	VO	ヴお (ヴォ)
VYA	ヴや (ヴァ)	VYI	ヴい (ヴィ)	VYU	ヴゆ (ヴユ)	VYE	ヴえ (ヴェ)	VYO	ヴよ (ヴォ)

注-()内の変換は、カタカナモードの場合に限り、適応されます。

—	ー	.	。	[「				
/	・	,	、]	」				

「っ」「ー」について	
っ	N以外の子音を連続で入力すると、「っ」に変換します。 また、Tの次にCHを入力しても、「っ」に変換します。 (例)SIPPO(しっぱ)
ー	ローマ字かなの状態で、「ー」を入力します。

EGG 風

EGG 風のローマ字定義には以下の特徴があります。

- 小文字入力で「ひらがな」 / 大文字入力で「英数字」

例) 通常の A キー入力 (小文字) → 「あ」

Shift + A または Caps Lock ON での A キー入力 → 「A」

- Z キー (大文字) に続いて入力したアスキー文字キーは全角になります。

例) Shift + Z または Caps Lock ON での Z キー入力 + A キー → 「a」

- Z キー (小文字) で始まるキー入力でシンボル (記号) 入力が可能です。

(例) 通常の Z キー入力 + P キー → 「〒」

EGG									
a	あ	i	い	u	う	e	え	o	お
ka	か	ki	き	ku	く	ke	け	ko	こ
sa	さ	si	し	su	す	se	せ	so	そ
ta	た	ti	ち	tu	つ	te	て	to	と
na	な	ni	に	nu	ぬ	ne	ね	no	の
ha	は	hi	ひ	hu	ふ	he	へ	ho	ほ
ma	ま	mi	み	mu	む	me	め	mo	も
ya	や	yi	い	yu	ゆ	ye	いえ	yo	よ
ra	ら	ri	り	ru	る	re	れ	ro	ろ
la	ら	li	り	lu	る	le	れ	lo	ろ
wa	わ	wi	ゐ	wu	う	we	ゑ	wo	を
n	ん	n'	ん	N	ん				
ga	が	gi	ぎ	gu	ぐ	ge	げ	go	ご
za	ざ	zi	じ	zu	ず	ze	ぜ	zo	ぞ
da	だ	di	ぢ	du	づ	de	で	do	ど
ba	ば	bi	び	bu	ぶ	be	べ	bo	ぼ
pa	ぱ	pi	ぴ	pu	ぷ	pe	ぺ	po	ぽ

EGG									
kya	きや			kyu	きゆ	kye	きえ	kyo	きよ
sya	しゃ			syu	しゆ	sye	しえ	syo	しよ
sha	しゃ	shi	し	shu	しゆ	she	しえ	sho	しよ
tya	ちや	tyi	てい	tyu	ちゆ	tye	ちえ	tyo	ちよ
tha	てや	thi	てい	thu	てゆ	the	てえ	tho	てよ
cha	ちや	chi	ち	chu	ちゆ	che	ちえ	cho	ちよ
nya	にや			nyu	にゆ	nye	にえ	nyo	によ
hya	ひや			hyu	ひゆ	hye	ひえ	hyo	ひよ
fa	ふあ	fi	ふい	fu	ふ	fe	ふえ	fo	ふお
mya	みや			myu	みゆ	mye	みえ	myo	みよ
rya	りや			ryu	りゆ	rye	りえ	ryo	りよ
lya	りや			lyu	りゆ	lye	りえ	lyo	りよ
xa	あ	xi	い	xu	う	xe	え	xo	お
xya	や			xyu	ゆ			xyo	よ
gya	ぎや			gyu	ぎゆ	gye	ぎえ	gyo	ぎよ
ja	じゃ	ji	じ	ju	じゆ	je	じえ	jo	じよ
zya	じゃ			zyu	じゆ	zye	じえ	zyo	じよ
dya	ぢや	dyi	でい	dyu	ぢゆ	dye	ぢえ	dyo	ぢよ
bya	びや			byu	びゆ	bye	びえ	byo	びよ
pya	ぴや			pyu	ぴゆ	pye	ぴえ	pyo	ぴよ
jya	じゃ			jyu	じゆ	jye	じえ	jyo	じよ
kwa	くわ	kwi	くい	kwu	く	kwe	くえ	kwo	くお
gwa	ぐわ	gwi	ぐい	gwu	ぐ	gwe	ぐえ	gwo	ぐお
tsa	つあ	tsi	つい	tsu	つ	tse	つえ	tso	つお
xti	てい	xdi	でい	xdu	どう	xde	でえ	xdo	どお
		xwi	うい			xwe	うえ	xwo	うお
xtu	つ	xwa	わ						
xka	カ	xke	ケ						
va	ヴァ	vi	ヴィ	vu	ヴ	ve	ヴェ	vo	ヴォ

—	—	.	。	[「	\((
,	,	/	・]	」	\))		

「ん」「っ」「ー」について	
ん	Mの次にBまたはM、P入力しても、「ん」に変換します。 (例) HOMMONO (ほんもの)
っ	M、N、Q及びX以外の子音を連続で入力すると、「っ」に変換します。 また、Tの次にCHを入力しても、「っ」に変換します。 (例) SIPPO (しっぽ) (例) RITCHI (りっち)
ー	ローマ字かなの状態、「ー」を入力します。

z1	○	z2	▽	z3	△	z4	□	z5	◇
z6	☆	z7	◎	z8	♣	z9	♂	z0	♀
z-	～	z=	≠	z\	\	z'	'		
zq	《	zw	》	zr	々	zt	↗	zp	〒
z[『	z]	』	zs	、	zd	、	zf	”
zg	-	zh	←	zj	↓	zk	↑	zl	→
z;	、	zc	○	zv	※	zb	。		
zn	,	zm	”	z,	…	z.	…	z/	・
z!	●	z@	▼	z#	▲	z\$	■	z%	◆
z^	★	z&	£	z*	×	z_	∴	z+	±
z		z [—]	..	zQ	<	zW	>	zR	仝
zP	↑	z{	[z}]	zS	∞	zD	≠
zF	→	zG	—	z:	°	zC	℃	zV	÷
zB	←	zN	↓	zM	≡	z<	≤	z>	≥
z?	∞	zT	§						



F

部首一覧

1画

表 F-1 部首一覧 1画

部首	部首名
一	いち
丨	ぼう
丶	てん
丿	の・のめ
乙	おつ・れ
丿	はねぼう

2画

表 F-2 部首一覧 2画

部首	部首名
二	に
刀・	かたな・りっとう
リ	
ナ	けいさん・なべふた・なべぶた
人・イ	ひと・にん・にんべん・やね
儿	ひとあし

表F-2 部首一覧2画 (続き)

部首	部首名
入	いる
八	はち
冂	えん・えんがまえ
冂	わ・わかむり
彳	にすい
几	つくえ
凵	うけばこ・かんによう
力	ちから
勹	つつみ・つつみがまえ
匕	さじのひ
匚	はこ・はこがまえ
匚	かくし・かくしがまえ
十	じゅう
卜	ぼくのと
凵	ふし・ふしづくり
凵	がんだれ
ム	む
又	また

3画

表F-3 部首一覧3画

部首	部首名
凵	くち・くちへん
凵	くに・くにがまえ
土	つち・つちへん
士	さむらい
夂	ふゆ・ふゆがしら

表 F-3 部首一覧 3 画 (続き)

部首	部首名
夕	すいによ
夕	ゆうべ
大	だい
女	おんな
子	こ
宀	う・うかんむり
寸	すん
小	ちいさい
尢	まげあし
尸	しかばね
巾	てつ
山	やま・やまへん
巛	さんぼんがわ・まがりがわ
工	たくみ
己	おのれ
巾	はば
干	ほす
幺	いとがしら
广	まだれ
廴	えんによ
井	にじゅうあし
乚	しき・しきがまえ
弓	ゆみ・ゆみへん
彳	けい・けいがしら
彡	さん・さんづくり
彳	ぎょうにんべん

表F-3 部首一覧3画 (続き)

部首	部首名
卜	りっしん・りっしんべん・ころろ・したごころ
辶	しんにゅう・しんによう
犭	けもの・けものへん・いぬ
扌	て・てへん
氵	さんずい・さんずいへん・したみず・みず
艹	くさ・くさかんむり
阝	おおざと・むら
阝	こざと・こざとへん・ぎふのふ

4画

表F-4 部首一覧4画

部首	部首名
毛	け
戈	かのほこ
戸	とびらのと
手	て・てへん
支	じゅうまた
支	とまた・のぶん・ぼくによう

表F-4 部首一覧4画 (続き)

部首	部首名
文	ぶん
斗	とます
斤	きん
方	ほう
旡	すでの・すでのつくり
日	にち
曰	ひらび
月	つき・つきへん
木	き・きへん
欠	かける
止	とめる
歹	いちた
殳	るまた
母	なかれ
心	こころ・したごころ・りっしん・りっしんべん
氏	うじ
气	きがまえ
水	みず・さんずい・さんずいへん・したみず
火・	ひ・よつてん・れっか・れんが
灬	
爪	つめ・のつ
交	めめ
月	しょう・しょうへん
片	かた
牛	うし
犬	いぬ・けもの・けものへん
王	たま・たまへん

表F-4 部首一覧4画 (続き)

部首	部首名
㇀	ね・ねへん・しめす・しめすへん
㇁	しんにゆう・しんによ
比	くらべるひ
父	ちち
牙	きば
玄	げん

5画

表F-5 部首一覧5画

部首	部首名
玉	たま・たまへん
瓜	うり
瓦	かわら
甘	あまい
生	うまれる
用	もちいる
田	た
疒	やまいだれ
夂	はつ・はつがしら
白	しろ
皮	ひのかわら
皿	さら
目	め
矛	むのほこ

表F-5 部首一覧5画 (続き)

部首	部首名
矢	や
石	いし
示	しめす・しめすへん・ね・ねへん
冎	ぐうのあし
禾	のぎ・のぎへん
穴	あな・あなかんむり
立	たつ
水	したみず・さんずい・さんずいへん・みず
𠂔	よん・よんかしら・あみ・あみがしら
衤	ころも・ころもへん
疋・	ひき・ひきへん
疋	

6画

表F-6 部首一覧6画

部首	部首名
竹	たけ・たけかんむり
米	こめ・こめへん
糸	いと・いとへん
缶	かん・ほとぎ
网	あみ・あみがしら・よん・よんかしら
羊	ひつじ
羽	はね

表F-6 部首一覧6画 (続き)

部首	部首名
老	おい・おいがしら
耒	らいすき
耳	みみ・みみへん
聿	ふで・ふでづくり
肉	にく
臣	しん
自	みずから
至	いたる
白	うす
舌	した
舟	ふね
艮	こん
色	いろ
艸	くさ・くさかんむり
虍	とらがしら
虫	むし・むしへん
血	ち
行	ぎょう・ぎょうがまえ
衣	ころも・ころもへん
冫・西	にし
而	しかして
舛	ます

7画

表F-7 部首一覧7画

部首	部首名
見	みる

表 F-7 部首一覧7画 (続き)

部首	部首名
角	つの
言	ことば・ごん・ごんべん
谷	たに
豆	まめ
豕	いのこ
豸	むじな・むじなへん
貝	かい
赤	あか
走・	
走	はしる・そうによろ
足・	
足	あし・あしへん
身	み
車	くるま
辛	からい
邑	むら・おおざと
酉	さけのとり
采	のごめ
里	さと
臣	しん
麦	むぎ
辰	しんのたつ

8画

表F-8 部首一覧8画

部首	部首名
金	かね・かねへん
門	もん・もんがまえ
阜	ぎふのふ・こざと・こざとへん
隸	れい・れいづくり
隹	ふるとり
雨	あめ・あめかんむり
青	あお
非	あらず
食	しょく・しょくへん
長	ながい

9画

表F-9 部首一覧9画

部首	部首名
面	めん
革	かくのかわ
韭	にら
音	おと
頁	おおがい
風	かぜ
食	しょく・しょくへん
首	くび
香	においこう
飛	とぶ

10画

表 F-10 部首一覧 10 画

部首	部首名
馬	うま
骨	ほね
高	たかい
髟	かみ・かみがしら
鬥	たたかいがまえ・とう・とうがまえ
鬯	ちょう
鬲	かく
鬼	おに
韋	なめしがわ

11 画

表 F-11 部首一覧 11 画

部首	部首名
魚	うお・うおへん
鳥	とり
鹵	ろ
鹿	しか
麥	むぎ
麻	あさ
黄	きいろ
黒	くろ
龜	かめ

12 画

表 F-12 部首一覧 12 画

部首	部首名
黍	きび

表 F-12 部首一覧 12 画 (続き)

部首	部首名
𠂔	ふつ
𠂔	は

13 画

表 F-13 部首一覧 13 画

部首	部首名
𠂔	べん
𠂔	つづみ
𠂔	ねずみ
𠂔	かなえ

14 画

表 F-14 部首一覧 14 画

部首	部首名
𠂔	はな
𠂔	せい

15 画

表 F-15 部首一覧 15 画

部首	部首名
𠂔	は

16 画

表 F-16 部首一覧 16 画

部首	部首名
𠂔	りゅう
𠂔	かめ

17 画

表 F-17 部首一覧 17 画

部首	部首名
龠	やく

シンボル(記号)一覧

ひらがなによる読み入力から記号に変換します。「@ (または半角@)+ひらがな」のキー入力で記号に変換できます。

次に例を示します。

@て	→	〒
@て	→	〒
@るーと	→	√
@るーと	→	√

表中の「文字入力(ひらがな)」の前に「@」または「半角@」を入力し、変換してください。

表G-1 記号一覧

記号	文字入力(ひらがな)	記号	文字入力(ひらがな)
,	とうてん	。	くてん
,	こんま	.	ぴりおど
・	てん、なかてん、なかぐろ	:	ころん
;	ころん	?	ぎもんふ、みみだれ
!	かんたんふ、あまだれ	°	だくてん
°	はんだくてん	'	あくせんと、あくさんてぎゅ、ぷらいむ
`	あくせんと、あくさんぐらーぶ	..	あくせんと、うむらうと

表 G-1 記号一覧 (続き)

記号	文字入力(ひらがな)	記号	文字入力(ひらがな)
ˆ	あくせんと、あくさんしるこんふ れっくす	ˉ	おーばー、おーばーらいん、うえつ きぼう
—	あんだー、あんだーらいん、したつ きぼう、かせん	˘	かたかながえし、くりかえし
ゞ	かたかながえし、くりかえし	ゝ	ひらがながえし、くりかえし
ゞ	ひらがながえし、くりかえし	〃	おなじ、おなじく、どう、ちょん ちょん
全	おなじ、どう、どうじょう	々	おなじ、どう、くりかえし、くま、 のま
ゞ	しめ	○	ゼロ
一	おんびき、ちょうおん	—	だっしゅ
-	はいふん	/	しゃせん
\	しゃせん、ぎゃくしゃせん	~	から、なみ、によろ
	たてせん		たてせん
...	さんてん、てんてんてん、てんてん	..	にてん、てんてん
‘	あば、くおーと	’	あば、くおーと
“	あば、くおーと	”	あば、くおーと
(かっこ、まるかっこ、しょうかっこ)	かっこ、まるかっこ、しょうかっこ
{	かっこ、きっこう	}	かっこ、きっこう
[かっこ、がぎかっこ]	かっこ、がぎかっこ
{	かっこ、なみかっこ、ちゅうかっこ	}	かっこ、なみかっこ、ちゅうかっこ
<	かっこ、やまかっこ	>	かっこ、やまかっこ
《	かっこ	》	かっこ
「	かぎかっこ	」	かぎかっこ
『	かぎかっこ	』	かぎかっこ
【	かっこ、すみつきかっこ	】	かっこ、すみつきかっこ
+	ぷらす、たす	-	まいなす、ひく
±	ぷらすまいなす	×	かける、ばつ、べけ
÷	わる	=	いこーる、とうごう

表G-1 記号一覧 (続き)

記号	文字入力(ひらがな)	記号	文字入力(ひらがな)
#	のっといこーる	<	みまん、よりしょう、しょうなり
>	よりだい、だいなり	≦	いか、しょうなりいこーる
≧	いじょう、だいなりいこーる	∞	むげん、むげんだい
∴	ゆえに	♂	おす、おとこ
♀	めす、おんな	°	ど
′	ふん	″	びょう
℃	どしー	¥	えん
\$	どる	¢	せんと
£	ぼんど	%	ぱーせんと
#	いげた、なんばー	&	あんぱさんど、あんど
*	ほし、あすた、あすたりすく	@	たんか、あつと、あつとまーく
§	せつ、せくしょん	☆	ほし、すたー、しろぼし
★	ほし、すたー、くろぼし	○	まる、しろまる
●	まる、くろまる	◎	まる、にじゅうまる
◇	ひしがた、しろひしがた	◆	ひしがた、くろひしがた
□	しかく、しろしかく	■	しかく、くろしかく
△	さんかく、しろさんかく	▲	さんかく、くろさんかく
▽	さんかく、しろさんかく、ぎゃくさんかく	▼	さんかく、くろさんかく、ぎゃくさんかく
※	こめ、こめじるし	〒	て、ゆ、ゆうびん
→	や、やじるし、みぎや	←	や、やじるし、ひだりや
↑	や、やじるし、うえや	↓	や、やじるし、したや
＝	げた	∈	ぞくす
≙	ふくむ	⊆	ふくまれる、ぶぶん
≚	ふくむ、ぶぶん	⊂	ふくまれる、ぶぶん
⊃	ふくむ、ぶぶん	U	がつべい、かつぷ
∩	きょうつう、きやつぷ	∧	および、あんど
∪	または、おあ	¬	ひてい、のっと

表 G-1 記号一覧 (続き)

記号	文字入力(ひらがな)	記号	文字入力(ひらがな)
⇒	ならば	⇔	どうち
∀	すべて、ぜんしょう	∃	ある、そんざい
∠	かく	⊥	すいちよく
∩	こ	∂	でる
∇	なぶら	≡	ごうどう
≐	ほぼ、にありいこーる	≪	ごくしょう
≫	ごくだい	√	る一と、こんごう
∞	そうじ	∞	ひれい
∴	なぜならば	∫	せきぶん、いんてぐらる
∫	せきぶん、いんてぐらる	Å	おんぐすとろーむ
‰	ぱーみる	#	しゃーぷ
♭	ふらっと	♪	おんぷ
†	だが一	‡	だぶるだが一
‡	ぱらぐらふ	○	まる
A	あるふあ	α	あるふあ
B	べーた	β	べーた
Γ	がんま	γ	がんま
Δ	でるた	δ	でるた
E	えぶしろん、いぶしろん	ε	えぶしろん、いぶしろん
Z	ぜーた、つえーた、じーた	ζ	ぜーた、つえーた、じーた
H	えーた、いーた	η	えーた、いーた
Θ	てーた、しーた	θ	てーた、しーた
I	いおーた、いおた	ι	いおーた、いおた
K	かっぱ	κ	かっぱ
Λ	らむだ	λ	らむだ
M	みゆー	μ	みゆー
N	にゆー	ν	にゆー
Ξ	くしー、ぐざい	ξ	くしー、ぐざい

表 G-1 記号一覧 (続き)

記号	文字入力(ひらがな)	記号	文字入力(ひらがな)
O	おみくろん	o	おみくろん
Π	ぱい、ぴー	π	ぱい、ぴー
P	ろー	ρ	ろー
Σ	しぐま	σ	しぐま
T	たう	τ	たう
Υ	ゆーぶしろん、ゆぶしろん	υ	ゆーぶしろん、ゆぶしろん
Φ	ふあい、ふいー	φ	ふあい、ふいー
X	かい、くひー	χ	かい、くひー
Ψ	ふさい	ψ	ふさい
Ω	おめが	ω	おめが

